

看護理論	1年前期	2単位 (30時間)	必修
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護知識体系の構造とその意義を理解し、より科学的で良質な看護実践ができるようモデルや理論を活用できること、及びより臨床志向の実践的な理論構築の目を培うことをめざす。

【到達目標】

1. 看護知識体系の構造とその意義を説明できる。
2. 看護概念モデルを選択し、そのモデルについて概要を説明できる。
3. 選択した看護概念モデルまたは理論を事例に適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護知識の体系化とその意義, 理論と理論の範囲	村瀬智子
2	看護モデル・理論開発の系譜	村瀬智子
3	看護モデル・理論開発の系譜	村瀬智子
4	主要な看護モデルと理論の特徴と適用 1. 生活統合体モデル概説とそれに基づく実践事例の発表と質疑	村瀬智子
5	2. ヘンダーソン看護論	村瀬智子
6	3. オレム看護論	村瀬智子
7	4. ロジャーズ看護論	村瀬智子
8	5. ロイ看護適応モデル	村瀬智子
9	6. ペプロー対人関係理論	村瀬智子
10	7. M. ニューマン健康理論	村瀬智子
11	8. レイニンガー文化的ケア 2~8についても1と同様に各看護論の概説と事例適用について学生の選択学習による発表と、質疑・検討を行う	村瀬智子
12	中範囲理論としての役割理論の概説と看護実践へのモデル適用事例の検討	村瀬智子
13	小範囲理論としての看護診断モデルの検討	村瀬智子
14	理論の研究への活用: 調査票作成	村瀬智子
15	まとめ	村瀬智子

授業方法

講義、演習

時間外学習

看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として成り立っています。それらを含めて看護理論を理解するためには、理論書を読むことが必要です。そのため、理論の概要を理解するだけでも、予習・復習を含めて1講義につき2週間程度の時間外学習は必要になります。

教科書

『看護理論家の業績と理論評価』筒井真優美編集 医学書院 2015

参考図書

『看護理論家とその業績』第3版 A. M. トメイ & M. R. アリグット編著 (都留伸子監訳) 医学書院 2004

『フォーセット 看護理論の分析と評価』J. フォーセット著 (太田喜久子, 筒井真優美監訳) 医学書院 2008

『看護における理論構築の方法』4th ed. L. O. Walker & K. C. Avant著 (中木高夫, 川崎修一訳) 医学書院 2008

『Strategies for Theory Construction in Nursing』5th ed. L. O. Walker & K. C. Avant著, Pearson Health Science, 2011

評価方法

課題レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)、グループワーク(20%)、課題の提出(10%)、受講態度(10%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

看護研究（量的研究）	1年前期	2単位（30時間）	必修
担当：野口 眞弓・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護研究の重要性とその意義、研究倫理、研究課題の明確化、文献検討、研究計画書の作成など看護実践や教育の場で共通して活用できる看護研究の基礎的知識を深める。

【到達目標】

1. 研究問題、研究設問と仮説、文献レビューや概念的文脈の開発を説明することができる。
2. 量的研究のデザインについて説明することができる。
3. 標本抽出およびデータ収集について説明することができる。
4. データの質の評価について説明することができる。
5. 量的研究をクリティークすることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護研究とは何か、看護研究の重要性とその意義 看護研究の倫理と研究成果の応用	野口 眞弓
2	研究課題の明確化と絞り込み作業 研究の仮説と前提、研究計画	野口 眞弓
3	文献検討の意義とその方法（医学文献データベースの利用法）	野口 眞弓
4	E B と E B N、エビデンスを使う、エビデンスを作る	野口 眞弓
5	概念枠組みと理論の役割	野口 眞弓
6	研究デザイン：実験研究、質的研究	野口 眞弓
7	質的研究と量的研究の相違とそれぞれの強み、Mixed Methodについて	野口 眞弓
8	研究デザイン：量的研究 母集団と標本	森田 一三
9	標本抽出（無作為抽出、有意抽出）	森田 一三
10	調査方法（訪問面接法、集団記法、配布開始法、その他）	森田 一三
11	調査方法（郵送法、電話法、インターネット、その他）	森田 一三
12	質問紙の作成（ワーディング）	森田 一三
13	尺度開発（信頼性）	森田 一三
14	尺度開発（妥当性）	森田 一三
15	まとめ	野口 眞弓 森田 一三

授業方法

講義・討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。（適宜）

教科書

『看護研究 原理と方法』（第2版）. D. F. ポーリット / C. T. ベック著 近藤 潤子
監訳 医学書院 2010

参考図書

『黒田裕子の 看護研究 Step by Step』（第5版）黒田裕子著 医学書院 2017

評価方法

参加の状況（20%）プレゼンテーション（60%）レポート（20%）により総合評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他
なし

看護倫理	1年後期	2単位 (30時間)	必修
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

今日の看護倫理の潮流から、その考え方や利点・欠点を理解する。その上で看護実践・研究・教育における今日の原則や概念を知る。さらに現場で遭遇する倫理的問題やジレンマ事例について検討することにより、問題またはジレンマ解決力や倫理的感觉を培う。

【到達目標】

1. 看護倫理に関する様々な考えとそれらの利点・欠点を説明できる。
2. 看護実践・研究・教育における倫理原則や概念を説明できる。
3. 看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例を検討方略を使って検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	現代の看護倫理：原則主義	山田 聡子
2	現代の看護倫理：ナラティブ	山田 聡子
3	現代の看護倫理：ケアリング、フェミニズム倫理学	山田 聡子
4	倫理原則と看護倫理概念	山田 聡子
5	専門職能団体と看護倫理綱領 1. ICN	山田 聡子
6	専門職能団体と看護倫理綱領 2. 日本看護協会	山田 聡子
7	看護実践の場によくみられる倫理的問題	山田 聡子
8	看護実践の場における倫理的問題と検討方略	山田 聡子
9	看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例の検討（閉鎖的な環境におかれた精神科事例）	山田 聡子
10	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：緩和医療の場合	山田 聡子
11	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：DNR 指示	山田 聡子
12	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：医療者のパターンリズム	山田 聡子
13	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：患者と家族の意見の違い	山田 聡子
14	看護研究・教育における倫理	山田 聡子
15	まとめ	山田 聡子

授業方法

第1回～第2回：講義、第3回～第15回：発表・討議・講義

時間外学習

授業参加の準備、復習、およびプレゼンテーションの準備を行い、理解を深める。（適宜）

教科書

『看護師の倫理調整力』鶴若麻理・長瀬雅子編 日本看護協会出版会

参考図書

『看護倫理学-看護実践における倫理的基盤』松木光子編 ヌーベルヒロカワ

『看護倫理』小西恵美子編、南江堂

『臨床倫理学』Jonsen 他 赤林朗他訳 新興医学出版社

この他、随時紹介する。

評価方法

レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参加（10%）を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

赤十字の歴史と国際人道法	1年後期	2単位 (30時間)	必修
担当: 大川 四郎			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

赤十字と国際人道法は、アンリ・デュナンが『ソルフェリーノの思い出』で提案したことをもとにしており、ほぼ同時期に発生し、以降、相互に影響を与えながら発展してきた。赤十字の歴史は、国際人道法と密接につながっている。この講義では、赤十字の歴史を明らかにし、あわせて、赤十字の活動を支えてきた国際人道法に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、赤十字における看護師教育および看護師の活動の歴史的展開と、国際人道法に規定される看護師をはじめとした救護員の役割について理解する。

【到達目標】

1. 赤十字の歴史について、赤十字史料を実際に読みながら、理解することができる。
2. 赤十字の活動の基盤となる国際人道法について理解することができる。
3. 歴史的・法的な観点から赤十字における看護活動について理解することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	はじめに：赤十字活動と看護従事者	大川 四郎
2	赤十字国際委員会の創設：夢想家アンリ・デュナンと実務家ギュスターヴモワニエの相克	大川 四郎
3	博愛社の創設：パリ・ウィーン両万博における佐野常民と赤十字パビリオンとの出会い、岩倉使節団に対するスイス側からのはたらきかけ	大川 四郎
4	日本赤十字社の活動の変遷：日本政府によるジュネーヴ条約調印・批准 博愛社から日本赤十字社への改組	大川 四郎
5	日本赤十字社における看護婦の活動：救護看護婦養成の開始とその根本方針	大川 四郎
6	日本赤十字社における戦時活動（1）：日清戦争、日露戦争	大川 四郎
7	日本赤十字社における平時の活動：衛生思想の普及、災害救護活動	大川 四郎
8	日本赤十字社における戦時活動（2）：第1次世界大戦、第2次世界大戦	大川 四郎
9	国際人道法の成立と基本的事項：両大戦の経験から1949年のジュネーヴ条約大改正	大川 四郎
10	国際人道法の適用状況：国家間の紛争から地域紛争、内戦へも適用範囲を拡大	大川 四郎
11	国際人道法の保護対象：戦闘員から文民・内戦犠牲者へ保護対象を拡大（第一追加議定書、第二追加議定書）	大川 四郎
12	赤十字の救護活動と国際人道法：ジャン・ピクテと赤十字基本原則	大川 四郎
13	医療職と国際人道法：有事関連法下での医療従事者の保護	大川 四郎
14	赤十字標章：様々な標章から赤十字標章、赤新月標章、赤の水晶標章、そして「赤のクリスタル標章」（2005年）へ	大川 四郎
15	おわりに：看護従事者は赤十字活動とどのように連携していくべきか	大川 四郎

授業方法

講義形態で進める。

時間外学習

事前に指定した箇所を教科書で読んでおいてほしい。
赤十字、国際人道法に関する内外の報道に日頃から関心を払ってほしい。

教科書

『戦争と国際人道法 - その歴史と赤十字のあゆみ』 井上忠男著 東信堂 2015 年〔R0.12/I57〕

参考図書

- 『新版 国際人道法』 藤田久一著 有信堂 2003 年〔R0.12/F67〕
『日本赤十字社と人道援助』 黒沢文貴、河合利修共編 東京大学出版会 2009 年〔R1.02/Ku76〕
『新版 世界と日本の赤十字 - 世界最大の人道機関の活動』 榎居孝、森正尚共著 東信堂 2014 年〔R0.7/Ma67〕
『赤十字標章の歴史 - “人道のシンボル” をめぐる国家の攻防』 フランソワ・ブニヨン著 井上忠男訳東信堂 2012 年〔R0.11/B85〕
『戦争と人道支援 - 戦争の被災をめぐる人道の政治』 上野友也著 東北大学出版会 2012 年〔319/Ka37〕
『戦争と看護婦』 川嶋みどり、川原由香里、山崎裕二、吉川龍子共著 図書刊行会 2016 年〔N02.9/Ka84〕
『解説 赤十字の基本原則 - 人道機関の理念と行動規範』 第 2 版 ジャン・ピクテ著 井上忠男訳東信堂 2010 年〔R0.1/P65/2nd〕
From Solferino to Tsoushima - History of the International Committee of the Red Cross, vol.1, by Boissier (pierre), Henry Dunant Institut, Geneva, 1985〔R02/H76/1〕
From Sarajevo to Hiroshima - History of the International Committee of the Red Cross, vol.2, by Durand (Andre), Henry Dunant Institut, Geneva, 1984〔R02/H76/2〕

評価方法

レポート（80％）、平常点（20％）。

フィードバック

授業内あるいは授業後の学生からの質問をも、平常点として評価する。 レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

2019年度 開講なし

看護社会学	2019年度開講なし	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 学務課教務係				

授業目的及び到達目標

【授業目的】

現代の社会学理論や哲学（現象学）の中から代表的な理論をいくつか取り上げ、人間存在のあり方や人間関係のとらえ方を探求する。具体的には、社会学理論や哲学にみられる基本的な概念や論理のあり方、人間存在論、他者関係論を検討し、医療に関わる研究領域の中から、いくつかの主要な論点を取り上げ考察する。

【到達目標】

1. 現代の社会学理論や哲学（現象学）にみられる人間存在のあり方や人間関係のとらえかたにかかわる諸論点が理解できる。
2. 病と医療に関わる自身の研究領域において、社会的な論点から考察することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	
2	映像資料による演習 記録と記憶	
3	社会学史概説 コントからパーソンズまで	
4	デュルケム 「もの」としての社会	
5	パーソンズ システムという考え方（秩序による秩序）	
6	パーソンズ 社会システムのクラスター分析	
7	パーソンズ 神への回帰（逃れられない循環）	
8	ウェーバー 社会は意味を欠いている	
9	ウェーバー 資本主義の精神	
10	ウェーバー 実在根拠と認識根拠	
11	カント 思惟物としての先験的理念	
12	カント 社会は対象としてない	
13	ヘーゲル 存在と無と生成	
14	ヘーゲル 無限判断	
15	まとめ	

授業方法

講義

時間外学習

授業中に適宜指示する。主に、その時限の講義テーマにまつわる社会現象についての調査を行なう課題を提示する。（適宜）

教科書

『社会の実存と存在：汝を傷つけた槍だけが汝の傷を癒す』 柿本昭人、嶋守さやか 世界思想社 1998 [361/Ka25]

参考図書

授業中に適宜指示する。

評価方法

提出されたレポート、授業中のプレゼンテーション（40%）およびテスト（60%）評点により総合評価する。

フィードバック

提出レポートに採点して返却する。

その他

2019年度開講なし

医療経営学	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 松浦 正子・米本倉基			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

変化する環境の中で、社会から求められるヘルスケアサービスの提供に向けて、組織の構築とその運営に必要な組織経営の知識を学ぶ。その際、看護の基盤にたつ組織経営として看護の理念を踏まえた運営について考察を深めるとともに、その組織経営者に求められる役割を探求する。

【到達目標】

1. 組織経営の考え方が説明できる
2. 組織経営における財務管理、経営分析が説明できる
3. ヘルスサービスにおける経営と質管理・経済性が説明できる
4. 組織経営における倫理的意思決定が説明できる
5. 組織経営者の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	医療福祉と経済論	松浦 正子
2	医療福祉経営	松浦 正子
3	財務管理 : 原価の基礎的概念, 経営データ,	米本 倉基
4	財務管理 : 財務分析, 病院会計準則, 財務リスク	米本 倉基
5	財務管理 : 財務管理演習	米本 倉基
6	経営分析 : 貸借対照表, 損益計算書,	松浦 正子
7	経営分析 : 在庫管理, 設備機械の投資計画, 減価償却	松浦 正子
8	経営分析 : 経営分析演習	松浦 正子
9	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 効率・効果的資源運用	松浦 正子
10	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 看護必要度, 配置と経済性	松浦 正子
11	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : ベンチマークと顧客満足	松浦 正子
12	最新の労使関係法規の動向	松浦 正子
13	組織の危機管理	松浦 正子
14	経営管理者の倫理的意思決定	松浦 正子
15	まとめ	松浦 正子

授業方法

第1回～4回, 第6回, 7回, 9回～14回: 講義, 第5回, 8回, 15回: 演習, 発表・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う(適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

授業中に適宜紹介する

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

なし

病態生理学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい・三木 研作・下間 正隆・巻野 雄介・金盛 琢也			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

病態生理学は、解剖学や生理学などで学習する正常な構造や機能を基礎に、正常な機構の破綻により発生した各種疾患の成り立ちについて学習する学問である。主要な症状・徴候の病態生理を学ぶことによって、臨床推論の基礎を修得することを目的とする。

【到達目標】

1. 病態生理学における病態推論の基本を理解することができる。
2. 看護実践上、遭遇頻度が高く重要な症状・徴候の病態生理を理解することができる。
3. 症状・徴候から診断・治療に至る臨床推論の過程を理解することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	三木 研作
2	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	三木 研作
3	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	三木 研作
4	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	三木 研作
5	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉 やよい
6	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉 やよい
7	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
8	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
9	呼吸機能障害に関する病態推論 ：呼吸困難	下間 正隆
10	循環機能障害に関する病態推論 ：不整脈、ショック	下間 正隆
11	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	金盛・鎌倉
12	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	金盛・鎌倉
13	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	金盛・下間
14	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	金盛・下間
15	造血・免疫機能障害に関する病態推論 ：出血傾向	巻野・鎌倉

授業方法

講義・演習（教員による講義、次に受講生によるプレゼンテーションを実施する。担当は開講後に調整する。）

時間外学習

各回の内容について参考図書等に基づき事前に学習し、授業において相互に討議ができるよう準備していただきたい。特に、プレゼンテーション時には、十分に復習して準備し、十分に論議ができる内容となることを期待する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

『病態生理学』山内豊明編集、メディカ出版
『症状の基礎からわかる病態生理』 第2版 松尾理監訳 メディカルサイエンスインターナショナル [491.6/Si4/2nd]
『一目でわかる病態生理』 松野一彦 メディカルサイエンスインターナショナル [491.6/Ma83]
そのほか適宜紹介する。

評価方法

受講態度 30%、レポート 70%

フィードバック

プレゼンテーション・討議に対してその場でフィードバックする。

その他

なし

臨床薬理学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 池田 義明・山田 浩雅			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

複雑な健康問題を抱えた対象の特性や症状をもとに、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、日常生活行動の調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るために、専門看護師としての知識と看護技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 対象者の病態に基づいた薬剤使用の判断に関するエビデンスを説明できる。
2. 小児、成人、高齢者等の各ライフステージの特徴も踏まえた薬物療法の特徴を学ぶ。
3. 対象者が安全で効果的な薬物療法を継続するための支援方法について学ぶ。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	薬理学の概念	池田 義明
2	小児・成人・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の管理	池田 義明
3	緊急応急処置（筋弛緩薬、局所麻酔薬、自律神経作用薬）	池田 義明
4	麻酔薬、疼痛薬、睡眠薬と投与後の患者モニタリング	池田 義明
5	神経症、気分障害、統合失調症、癲癇、パーキンソン病、認知症	池田 義明
6	慢性疾患管理に必要な薬剤（心臓血管作用薬）	池田 義明
7	抗炎症薬と回復力の促進	池田 義明
8	呼吸器系作用薬と回復力の促進	池田 義明
9	消化器系作用薬と症状調整	池田 義明
10	ホルモン系・生殖器系作用薬	池田 義明
11	抗感染症薬と薬剤使用の判断および投与の患者モニタリング	池田 義明
12	抗悪性腫瘍薬、漢方薬	池田 義明
13	神経・精神疾患患者への薬物療法と生活調整について	山田 浩雅
14	高度実践看護師が行う服薬管理能力向上のための援助技術	山田 浩雅
15	臨床薬理学関連の研究課題報告(プレゼンテーション)	池田 義明

授業方法

第1回～第14回：講義、第15回：発表

時間外学習

授業後は、わからないことはそのままにせず、調べたり聞いたりして理解を深める。
(適宜)

教科書

『わかりやすい薬理学』第3版 安原一、小口勝司編 ニューヴェルヒロカワ
適宜、資料を配布する。

参考図書

『薬がみえるvol.1～vol.3』 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア

評価方法

研究課題報告書(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)を合算する。

フィードバック

授業前後における疑問や質問は次回講義までにハンドアウトを作成してフィードバックする。

その他

なし

ヘルス・アセスメント	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 中島 佳緒里・大西 文子・小林 尚司・山内 豊明			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。

【到達目標】

1. ヘルス・アセスメントの定義について理解できる。
2. 形態機能学ならびに病態生理学の知識に基づいたフィジカル・アセスメント (Physical Assessment) を実施できる。
3. 心理社会面として精神状態のアセスメント (MSE: Mental Status Examination) を含む心理社会的アセスメントを実施できる。
4. 対象をライフスパンの中で幅広く捉え、高度な包括的アセスメントに基づいて、健康上の問題を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 看護師によるヘルス・アセスメントと臨床推論 心理社会的アセスメント (MSE)	中島 佳緒里
2	全身状態の把握、栄養評価、生殖器 (乳房) の診査	中島 佳緒里
3	脳神経系・医療診察器具の使用法	中島 佳緒里
4	症状・徴候からのアセスメント	山内 豊明
5	呼吸器系 胸部	山内 豊明
6	呼吸器系 呼吸音	山内 豊明
7	循環器系 心音	山内 豊明
8	循環器系 末梢血管	山内 豊明
9	消化器系 腹部	山内 豊明
10	消化器系 食物摂取と感覚系	山内 豊明
11	運動器系 - 筋骨格、運動に関わる神経	中島 佳緒里
12	小児のフィジカル・アセスメント時のポイントと成人との違い	大西 文子
13	小児のフィジカル・アセスメントの実際	大西 文子
14	高齢者のフィジカル・アセスメント	小林 尚司
15	症例検討	中島 佳緒里

授業方法

講義：第1回、第4回～10回、第12回～14回

演習：第2回～3回、第11回、第15回

時間外学習

授業への参加準備，関連文献を読む（適宜）。

診査内容・項目に関連した形態機能学の知識，代表的な疾患を確認する（1時間程度）。

診査結果に基づく臨床推論の思考過程を復習する（30分程度）。

教科書

『実践！フィジカル・アセスメント』小野田千枝子監修 高橋照子 芳賀佐和子 佐藤 富美子編集金原出版

『フィジカルアセスメントガイドブック』山内豊明著 医学書院

参考図書

『ベイツ診察法』福井 次矢 井部 俊子監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル
Jarvis, C: Physical examination & health assessment (8th ed.), Saunders.
『NANDA-I看護診断 定義と分類』NANDAインターナショナル著 医学書院
『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち1 病態生理学』山内豊明著 メディカ出版
『こどものフィジカル・アセスメント』小野田千枝子監修 土井まつ子、相山委都子、仲井美由紀編集、金原出版
『フィジカルアセスメント ワークブック』山内豊明著 医学書院
『見る・聴く・触るを極める！山内先生のフィジカルアセスメント 技術編』山内豊明著 エスエムエス
『患者さんのサインを読み取る！山内先生のフィジカルアセスメント 症状編』山内豊明著 エスエムエス
『聞く技術 答えは患者の中にある 第2版』マーク・ヘンダーソン著 山内豊明訳 日経BP社
『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』田崎義昭、斎藤佳雄著 南山堂

評価方法

授業態度〔10%〕、討論参加〔20%〕、レポート〔70%〕

フィードバック

症例検討を行う際に、その場でフィードバックする。レポート課題については、教員評価を記載して学生に返却する。

その他

診査技術を実施するため、2名以上の受講を望む。

統計学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

統計学（記述統計、推定統計）の総合的知識を習得し、統計解析パッケージSPSSを用いた統計分析の方法を習得し、各自の研究や実務に用いることができることを目的とする。

【到達目標】

1. 統計分析を行うための仮説を示すことができる。
2. データを SPSS で統計分析することができる。
3. 統計の分析結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	統計学概論（1） 統計学の仕組み	森田 一三
2	統計学概論（2） 統計学の成り立ち	森田 一三
3	SPSS の紹介と統計分析の準備	森田 一三
4 目	記述統計：度数分布 / エクセルとの連携	森田 一三
5	記述統計：代表値	森田 一三
6	記述統計：散布度	森田 一三
7	間隔・比尺度同士の関係	森田 一三
8	順序尺度同士の関係	森田 一三
9	名義尺度同士の関係：カイ二乗分析	森田 一三
10	名義尺度同士の関係：オッズ比	森田 一三
11	比率の差の分析：カイ二乗分析	森田 一三
12	平均の差の分析：t 検定	森田 一三
13	差を分析する：一元配置分散分析	森田 一三
14	中央値の差の分析	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。（1時間）
授業中に課題となったことについて復習してきてください。（30分）

教科書

『SPSS によるやさしい統計学』 第2版 岸学著 オーム社 2012 [417/Ki56/2nd]

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

パソコンの基礎的な操作（ファイル管理等）およびエクセルの基礎的な操作ができること。
データを保存するためのUSBメモリ（空き容量は1GB程度あれば充分）を持参すること。
履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

看護研究（質的研究）	1年後期	2単位（30時間）	選択
担当：村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

質的研究の意義を理解し、看護の実践や教育の場で共通して活用できる質的な看護研究の基礎的知識を深める。さらに質的研究を用いた論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方を判断する能力を高める。

【到達目標】

1. 基本的な方法論を中心に、理論的基盤・哲学的背景・データ収集、分析方法等について理解できる。
2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方について考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス、質的研究の意義と方法論	村瀬 智子
2	看護実践における様々な質的研究の可能性と限界	村瀬 智子
3	質的研究の理論と哲学的背景： 科学性と一般化、理論化に関する問題、看護援助方法、および技術の開発・推進	村瀬 智子
4	援助者の視点と研究の倫理的限界 質的研究におけるサンプリングとデータ収集、分析の視点	村瀬 智子
5	事例研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
6	事例研究の文献クリティーク	村瀬 智子
7	質的記述的研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
8	質的記述的研究文献クリティーク	村瀬 智子
9	グランデッドセオリー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
10	グランデッドセオリー文献クリティーク	村瀬 智子
11	エスノグラフィー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
12	エスノグラフィー文献クリティーク	村瀬 智子
13	現象学的アプローチ： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
14	現象学的アプローチ文献クリティーク	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義・演習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要です。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献等を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠です。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができます。

教科書

『バーンズ&グローブ看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成』Burns, N. & Grove, S. 黒田裕子監訳, エルゼビア・ジャパン

『質的研究入門 - <人間の科学>のための方法論』ウヴェ・フリック, 小田博志他訳, 春秋社

『質的研究の実践と評価のためのサブストラクション』北素子, 谷津裕子 医学書院

参考図書

- 『The Practice of Nursing Research』 8th ed. Burns and Grove, Elsevier, 2017
- 『Nursing Research』 3rd ed. Kader Parahoo, Palgrave, 2014
- 『Knowledge Development in Nursing』 10th ed. P. L. Chinn and M.K. Kramer, Elsevier, 2015
- 『Narrative Methods for the Human Science』 C. K. Riessman, Sage Publication, 2008
- 『人間科学のためのナラティブ研究法』 C. K. Riessman著, 大久保功子・宮坂道夫監訳, クオリティケア, 2014
- 『Nursing Research using Life History』 M. D. Chesnay ed., Springer Publishing Company, 2015
- 『質的研究をめぐる10のキークエスチョン』 M. Sandelowski著, 谷津裕子・江藤博之訳, 医学書院
- 『参加観察法入門』 J. P. Spradley著, 田中美恵子・麻原きよみ訳, 医学書院
- 『質的研究のピットフォール』 萱間真美, 医学書院
- 『リサーチ・クエスチョンの作り方 診療上の疑問を研究可能な形に』 福原俊一著, 健康医療評価研究機構
- 『臨床看護研究サクセスマニュアル』 竹内登美子監修.: アンファミエ.
- 『はじめて学ぶ質的研究』 Richards, N. & Morse, J.N. 小林奈美監訳, 医歯薬出版
- 『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方』 グレグ美鈴他, 医歯薬出版
- 『よくわかる看護研究論文のクリティーク Critique』 山川みやえ・牧本清子編, 日本看護協会出版会
- 『質的研究法ゼミナール GTAを学ぶ』 戈木クレイグヒル滋子編集, 医学書院
- 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』 木下康仁編著 弘文堂
- 『現象学的看護研究 - 理論と分析の実際』 松葉祥一・西村ユミ編 医学書院
- 『研究デザイン - 質的・量的・そしてミックス法』 Creswell著/操華子他訳, 日本看護協会出版
- 『質的研究ハンドブック1: 質的研究のパラダイムと眺望』 デンジン リンカン著/ 平山満義, 岡野一郎, 古賀正義訳, 北大路書房
- 『エスノグラフィー』 Roper, J.M. & Shapira, J. 著/麻原きよみ, グレグ美鈴訳, 日本看護協会出版
- 『エスノグラフィー入門』 小田博志, 春秋社, 2014

評価方法

受講態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%）（プレゼンテーション45%、レポート20%）
配布される評価表の項目に沿って評価する。

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

コンサルテーション論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・大西 文子・井上 さよ子・大島 泰子・木全 美智代・長尾 大地			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師の6つの機能の中の相談機能を果たすためのコンサルテーションの意義等の基本的概念と具体的方法について学ぶ。

【到達目標】

1. コンサルテーションの基本的概念について説明できる。
2. 臨床現場で起こる様々な問題や課題に対して、直接的あるいは間接的に問題解決を行うためのコンサルテーションの具体的方法を事例に適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス、コンサルテーション概論	村瀬 智子
2	様々な実践における困難事例とコンサルテーション状況	村瀬 智子
3	コンサルテーション過程	村瀬 智子
4	コンサルテーションにおけるアセスメント： 医療組織における支援とクライアントの状況	村瀬 智子
5	病者の認知行動的問題と援助者のコミュニケーション	村瀬 智子
6	看護者 - クライアントの相互作用の分析： 看護者が自身の異和感に気づくことと、アセスメント支援	村瀬 智子
7	演習：面接と初期アセスメント：慢性期看護事例	井上 さよ子
8	コンサルテーション演習：がん・終末期看護事例	井上 さよ子
9	コンサルテーション演習：急性期事例	長尾 大地
10	コンサルテーション演習：急性期事例	長尾 大地
11	コンサルテーション演習：小児看護事例	大西 文子
12	コンサルテーション演習：母性看護事例	木全 美智代
13	コンサルテーション演習：精神看護事例	大島 泰子
14	コンサルテーション演習：精神看護事例	大島 泰子
15	まとめ	村瀬 智子 木全 美智代

授業方法

講義・演習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要です。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献等を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠です。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができます。

教科書

『プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くことー』 エドガー・H・シャイン著
、稲葉元吉他訳
白桃書房

参考図書

“Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach” 6th ed. A. B. Hamric, et. Al. Saunders/Elsevier

『高度実践看護 統合的アプローチ』 A. B. Hamric, et Al. ./ 中村美鈴他訳，へるす出版

『リエゾン精神看護 - 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著，医歯薬出版

“The Consulting Process In Action” 2nd ed., Lippitt, R. & Lippitt, G. Jpssey-Bass/Pfeiffer

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』宇佐美しおり・野末聖香編，日本看護協会出版社

『専門看護師の思考と実践』井部俊子他監修，医学書院

評価方法

受講態度（参加・貢献度）（5%）、討論参加（50%）、プレゼンテーション（30%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議やロールプレイを組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

看護政策論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

国の保健医療福祉政策の動向をとらえ、医療看護サービスの質向上における政策の重要性、および看護職者が政策決定の過程に関わる意義を学ぶ。さらに具体的な看護の現状から看護政策の課題を探求し、看護政策に提言する能力を培う。

【到達目標】

1. 保健医療福祉政策の動向から、政策が医療看護サービスの質に重要であることを理解する。
2. 看護に関連する政策過程を概観し、看護職が政策決定過程に参画する意義を理解する。
3. 看護に関する制度や法律を踏まえ、看護政策の視点から課題を提示できる。
4. 政策決定への過程を理解し、政策提言に向けた方略を考察できる。
5. 提示した看護政策の課題について可能な範囲で提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護をとりまく保健医療福祉政策の動向	山田 聡子
2	政策過程、看護職者と政策	山田 聡子
3	看護に関連する政策と法律・制度： 医療法	山田 聡子
4	看護に関連する政策と法律・制度： 保健師助産師看護師法	山田 聡子
5	看護に関連する政策と法律・制度： 看護教育制度	山田 聡子
6	看護に関連する政策と法律・制度： 看護師等の人材確保に関する法律	山田 聡子
7	看護に関連する政策と法律・制度： 診療報酬制度	山田 聡子
8	看護に関連する政策と法律・制度： 看護必要度	山田 聡子
9	職能団体と政策 職能団体の活動	山田 聡子
10	職能団体と政策 政策への参画	山田 聡子
11	研究成果と政策 政策課題研究の実際	山田 聡子
12	研究成果と政策 関連論文に基づく討議	山田 聡子
13	研究成果と政策 関連論文に基づく討議	山田 聡子
14	研究成果と政策 関連論文に基づく討議	山田 聡子
15	政策提言に向けた方略： 発表と討議	山田 聡子

授業方法

第1・2回：講義、第3回～11回：講義・討論、第12回～15回：発表・討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

教科書

『看護職者のための政策過程入門』見藤隆子、石田昌宏、大串正樹、北浦暁子、伊勢田暁子 日本看護協会出版会

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション (40%)、討議参加状況 (30%)、課題レポート (30%)

フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

看護教育原論	1年前期	1単位 (15時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育に関する基礎的知識を修得し、看護基礎教育と卒後教育および継続教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育制度の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護基礎教育と卒後・継続教育の現状と課題について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護教育に関する主要概念（看護教育と看護学教育、卒後教育と継続教育）	山田 聡子
2	看護教育の歴史的変遷	山田 聡子
3	看護教育制度の現状	山田 聡子
4	看護教育関連法規（憲法・教育基本法・学校教育法・大学設置基準・専修学校設置基準）	山田 聡子
5	諸外国における看護基礎教育・継続教育の現状	山田 聡子
6	看護基礎教育における課題検討	山田 聡子
7	看護卒後教育および継続教育における課題検討	山田 聡子
8	まとめ	山田 聡子

授業方法

第1回～8回：講義・討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

教科書

『看護教育学』杉森みど里、舟島なをみ、医学書院

参考図書

『看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴編、池西悦子編、南江堂
『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』D.M.Billings, J.A.Halsted 著、奥宮暁子、小林美子、佐々木順子 監訳、医歯薬出版

評価方法

課題レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、討議参加状況（20%）

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

なし

看護教育方法論	1年後期	1単位 (15時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育課程および教育展開方法の基礎的知識を学修し、看護教育の方法を考察する。

【到達目標】

1. 看護教育課程および編成方法について理解できる。
2. 看護教育の方法および評価について理解し考察できる。
3. 継続教育の方法を理解し考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	教育方法に関する主要概念（学習理論、レディネス、ペダゴジーとアンドラゴジー）	山田 聡子
2	看護基礎教育課程と編成方法	山田 聡子
3	看護教育の方法：講義・演習	山田 聡子
4	看護教育の方法：臨地実習	山田 聡子
5	看護教育の評価	山田 聡子
6	継続教育の方法：新人・中堅看護師、看護管理者	山田 聡子
7	継続教育の方法：看護教員、FD	山田 聡子
8	まとめ	山田 聡子

授業方法

第1回～第8回：講義・討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

教科書

『看護教育学』杉森みど里、舟島なをみ、医学書院

参考図書

『看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴編、池西悦子編、南江堂
『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』D.M.Billings, J.A.Halsted 著、奥宮暁子、小林美子、佐々木順子 監訳、医歯薬出版

評価方法

課題レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、討議参加状況（20%）

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

なし

看護管理学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

サービスの質を保証しながら効果的効率的に看護サービスが提供できるよう人的、物的、財政的資源や情報を統合して展開される看護管理について諸理論および管理過程に焦点をあて学ぶ。

【到達目標】

1. 医療・看護サービス提供における組織について説明できる。
2. 多職種、および看護職と協力しながら医療・看護サービス提供におけるマネジメントおよび看護管理過程について説明できる。
3. 看護サービスの質の保証と看護サービスを提供する仕組み、および人材の活用について説明できる。
4. 質の高い看護サービスの提供に果たす看護管理の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護管理	松浦・南谷
2	医療制度・看護制度と政策	松浦・南谷
3	看護管理に関連する法律	松浦・南谷
4	医療・看護サービス、医療・看護サービスと質保証と評価	松浦・南谷
5	組織、医療・看護提供組織	松浦・南谷
6	マネジメントの対象と管理過程	松浦・南谷
7	人材フローのマネジメント	松浦・南谷
8	看護サービスと情報 討議 -	松浦・南谷
9	看護サービスと情報 討議 -	松浦・南谷
10	医療安全 (医療事故・インシデント)	松浦・南谷
11	医療安全 (感染症)	松浦・南谷
12	医療・看護サービスの提供方法、医療職間の協働と調整	松浦・南谷
13	医療・看護提供組織における看護管理の実際：人材の活用	松浦・南谷
14	医療・看護提供組織における看護管理の実際：看護管理者とCNSの協働	松浦・南谷
15	まとめ	松浦・南谷

授業方法

第1回～第6回：講義、第7回～第11回：発表・討議、第12回：講義、第13回～第15回：発表・討議・講義

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う。(適宜)

教科書

特に指定しない

参考図書

1. 「看護サービス管理 第5版」 小池智子 松浦正子 中西睦子編(2018)医学書院
2. 「Outcome Management Applications to Clinical Practice」Wojner Ann, Mosby(2001)
3. 「アウトカムマネジメント - 科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用」 Wojner Anne W.著 井部俊子監修 早野真佐子監修(2003)日本看護協会出版会
4. 「看護管理に活かすベンチマーキング 看護サービスの質改善のために」 菅田勝也編(2012) 中山書店
5. 「組織行動のマネジメント」Stephan, RP. 著高木晴夫監訳(2000)ダイヤモンド社
6. 「看護者の基本的責務 2019年版」手島恵監修 日本看護協会監修(2019) 日本看護協会出版会

評価方法

レポート（60％）、プレゼンテーション（30％）、受講態度（10％）

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

人的資源管理論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 松浦 正子・南谷 志野・勝原 裕美子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護専門職に焦点をあて、医療・看護サービス提供に関わる組織成員の能力発揮に向けて必要な支援や仕組みについて諸理論を踏まえ、人的資源をどのように開発し活用すればよいか探求する。

【到達目標】

1. 人的資源の開発と活用に関するマネジメントを説明できる。
2. 諸理論を踏まえて人的資源開発・活用を説明できる。
3. 質の高い看護サービスと看護サービスを提供する仕組みが説明できる。
4. 看護実践や看護管理に関する経験から、人的資源の開発・活用について探求し、方向性を提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、人的資源管理と人的資源開発	松浦・南谷
2	看護専門職の役割と機能	松浦 正子
3	看護専門職の社会的責任と法的根拠	松浦 正子
4	多様な働き方とWLB	南谷 志野
5	人材フローのマネジメント	松浦 正子
6	看護職とモチベーション	勝原 裕美子
7	キャリア開発・継続教育	勝原 裕美子
8	目標管理	勝原 裕美子
9	コーチング	松浦 正子
10	チーム医療とスペシャリストの活用	南谷 志野
11	人的資源開発・活用と人事考課	松浦 正子
12	人的資源開発・活用とストレスマネジメント	松浦 正子
13	人的資源開発・活用における看護管理の実際：職場環境	南谷 志野
14	人的資源開発と活用における看護管理の実際：コーチング	松浦 正子
15	まとめ	松浦・南谷

授業方法

第1回～3回：講義、第4回：発表・討議、第5回～9回：講義、第10回～14回：発表・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う。（適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

1. 『Management of Organizational Behavior: Utilizing Human Resources』 (7th) Hersey P, B. Kenneth H, Johnson D, E. Prentice Hall (1996) [336.4/H53/7th]
2. 『入門から応用へ行動科学の展開 (新版) 人的資源の活用』 山本成二、山本あづさ 訳 (2000) 生産性出版 [336.4/H53]
3. 『Outcome Management Applications to Clinical Practice』 Wojner Ann, Mosby (2001)
4. 『アウトカム・マネジメント - 科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用』 井部俊子監修 (2003) 日本看護協会出版会 [N74.1/W83]
5. 『新版 看護者の基本的責務』 2019年版 日本看護協会監修 (2019) 日本看護協会出版会 [N62/Ka54/'17]
6. 『看護管理学習テキスト4 看護における人的資源活用論』 第2版 井部俊子、中西睦子監修 (2011) 日本看護協会出版会 [N70/Ka54/4]

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

看護管理学演習	1年前期	1単位 (30時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護管理学領域で重要な課題や学生が興味を持つ特定の現象について文献検討し、批判的な検討とプレゼンテーションを通して、看護管理学領域における現象、理論を理解するとともに、自己の研究課題を明確にする。

【到達目標】

1. 文献検索、文献検討の方法を説明できる。
2. 関心のある文献を選択し、文献の概要、および批判的な検討結果について記述できる。
3. 2. の文献概要、および検討結果を他者に伝えることができる。
4. 検討結果について他者と討議できる。
5. 文献抽出、批判的な検討、討議から自己の研究課題を記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、論文の構成	山田・小林
2	文献検討の方法	山田・小林
3	論文の読み方	山田・小林
4	論文の読み方	山田・小林
5	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
6	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
7	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
8	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
9	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
10	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
11	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
12	文献概要、および検討結果の発表と討議	山田・小林
13	研究課題と討議	山田・小林
14	研究課題と討議	山田・小林
15	まとめ	山田・小林

授業方法

第1回：講義、第2回～第15回：プレゼンテーション・討議

時間外学習

自己の関心について追求するとともに、関連科目の復習を行う。(適宜)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(40%)、受講態度(30%)、レポート(30%)から総合的に評価する。

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

なし

看護管理学演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

自己の研究課題に基づき、探求する方法を検討し、研究計画書の作成過程を学ぶ。

【到達目標】

1. 文献検討を踏まえて、自己の研究課題を説明できる。
2. 研究目的、意義、方法を明確にできる。
3. 研究における倫理的配慮を説明できる。
4. データ収集方法を説明できる。
5. 研究計画書を作成できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス	山田・小林
2	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議	山田・小林
3	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議	山田・小林
4	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議	山田・小林
5	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議	山田・小林
6	研究目的の明確化と研究デザインの検討	山田・小林
7	研究目的の明確化と研究デザインの検討	山田・小林
8	研究の倫理的配慮に関する検討	山田・小林
9	研究の倫理的配慮に関する検討	山田・小林
10	データ収集方法の検討	山田・小林
11	データ収集方法の検討	山田・小林
12	研究計画書作成	山田・小林
13	研究計画書作成	山田・小林
14	研究計画書の発表と討議	山田・小林
15	研究計画書の発表と討議	山田・小林

授業方法

第1回：講義、第2回～第15回：プレゼンテーション・討議

時間外学習

自己の関心について追求するとともに、関連科目の復習を行う。また、授業での気づきを発展させるように関連する文献を活用し、学習を深める。(適宜)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(30%)、受講態度(30%)、レポート(40%)から総合的に評価する。

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

なし

周手術期看護論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 東野 督子・鎌倉 やよい			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

手術療法は生体の内部環境へ加えられた「侵襲」というストレス刺激であり、「生体反応」を起こして恒常性を維持しようとする。術前から術後に至る周手術期の看護について、共通する課題として急性疼痛、術後せん妄、栄養を取り上げ、最新の研究動向について学習する。次に、周術期に関連する理論について、看護実践および看護研究への活用について探求する。さらに、手術患者のQOLと看護について、主に量的研究の文献を用いて、統計分析された結果を読み解く視点から検討する。

【到達目標】

1. 周手術期看護に関連する最新の文献を検討し、急性疼痛、術後せん妄、栄養、手術患者のQOLの研究について説明できる。
2. 周手術期看護に関連する理論を理解し説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	周手術期看護論オリエンテーション、サブストラクション	東野・鎌倉
2	手術侵襲と生体反応	東野 督子
3	術後の急性疼痛と看護	東野 督子
4	術後の急性疼痛と看護	東野 督子
5	術後せん妄と看護	鎌倉やよい
6	術後せん妄と看護	鎌倉やよい
7	手術患者の栄養と看護	鎌倉やよい
8	周術期看護に関連した理論：ストレス・コーピング理論	東野 督子
9	周術期看護に関連した理論：危機理論	東野 督子
10	周術期看護に関連した理論：ソーシャル・サポート	東野 督子
11	周術期看護に関連した理論：ソーシャル・サポート	東野 督子
12	周術期に関連した理論：セルフマネジメント	鎌倉やよい
13	手術患者の QOL と看護	東野 督子
14	手術患者の QOL と看護	東野 督子
15	まとめ	東野・鎌倉

授業方法

講義：1,2,3,5,6,7,8,9,11,12,13
 プレゼンテーション：4,6,10,14,15

時間外学習

予習・復習には十分な時間を使って授業に臨んでください。

教科書

特に指定しない。

参考図書

特に指定しない。

評価方法

成績評価はレポート〔50%〕、参加度〔50%〕を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

感染予防看護論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 東野 督子・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

手術などの侵襲的治療状況や急性の臓器機能障害をもつ成人患者の感染予防に関する看護者の果たす役割について探求する。医療関連感染を引き起こすと生命を危険にさらすことはもとより在院日数の延長や医療費の増加などの問題を生じる。したがって治療を受ける易感染状態にある成人患者の感染予防のための患者教育のあり方、および看護者が行う感染経路の遮断に関する技術や、療養環境における細菌汚染が及ぼす影響と看護者の認識、及び職業感染を含めて、看護実践および看護研究への活用について探求する。

【到達目標】

1. 医療関連感染がもたらす問題をさまざまな視点から説明できる。
2. 感染成立と予防法を踏まえて看護者の果たす役割とその方法を論述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	感染予防看護論のオリエンテーション、感染予防の歴史	東野督子
2	感染予防の歴史と人体の感染予防機構	東野督子
3	口腔のケアと感染予防・歯科疾患からみた感染症	森田一三
4	歯科疾患からみた感染症	森田一三
5	感染予防の動向と医療経済	東野督子
6	医療における感染予防と看護の役割経路別予防策、標準予防策	東野督子
7	術前の感染症検査と職業暴露	東野督子
8	侵襲的処置に関連した感染と成人看護1：血流感染：血管内留置カテーテル	東野督子
9	侵襲的処置に関連した感染と成人看護2：尿路感染：尿路カテーテル	東野督子
10	侵襲的処置に関連した感染と成人看護3：人工呼吸器関連感染	東野督子
11	侵襲的処置に関連した感染と成人看護4：手術創感染	東野督子
12	治療・処置に関連した易感染1：抗がん剤治療、放射線治療、	東野督子
13	治療・処置に関連した易感染2：骨髄移植、成人患者の感染予防教育	東野督子
14	感染予防看護に関連する評価：指標の種類と評価の実際	東野督子
15	まとめ	東野督子

授業方法

講義：1,2,3,4,5,6,7,8,10,12,14
 プレゼンテーション：9,11,13,15

時間外学習

予習・復習には十分な時間を使って授業に臨んでください。

教科書

特に指定しない。

参考図書

適宜紹介する。

評価方法

レポート40%、プレゼンテーション40%、討議への参加20%で合算して評価する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

急性期機能回復援助論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい・石黒 千映子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

健康危機状況からの機能回復過程にある人の特徴と援助方法について学ぶ。事例および看護実践に関する文献を検討し、急性期機能回復過程にある人の生活の質の向上を目指した看護について探求する。

【到達目標】

1. 健康危機状況にある人の特徴を説明できる。
2. 健康危機状況からの機能回復過程にある人の援助について、疾病により変化した身体機能の回復に向けた生活の援助について検討する。
3. 健康危機状況からの機能回復過程にある人の事例を活用し、その援助方法について、理論的に探究する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	鎌倉・石黒
2	消化器障害に対する援助：講義	鎌倉 やよい
3	消化器障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
4	呼吸機能障害に対する援助：講義	石黒 千映子
5	呼吸機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
6	循環機能障害に対する援助：講義	石黒 千映子
7	循環機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
8	感覚器障害に対する援助：講義	石黒 千映子
9	感覚器障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
10	嚥下障害に対する援助：講義	鎌倉 やよい
11	嚥下障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
12	運動機能障害に対する援助：講義	石黒 千映子
13	運動機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・石黒
14	高次脳障害に対する援助：講義・発表・討論	石黒 千映子
15	まとめ：講義・発表・討論	鎌倉・石黒

授業方法

講義：1・2・4・6・8・10・12

発表・討論：3・5・7・9・11・13講義・発表・討論：14・15

時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業に臨む。プレゼンテーションの準備をする。(2時間)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

成人急性期看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 東野 督子・石黒 千映子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人急性期看護学分野で、学生が興味を持つ特定の重要な現象、援助技術、理論およびその活用方法について、集中的な文献検討を行なう。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、成人急性期看護学における特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行なう。検討を通して、自己の研究課題と研究デザインを明確にする。

【到達目標】

1. 文献レビューができる。
2. 研究計画書が作成できる。
3. 研究計画書のプレゼンテーションができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス 文献検討：成人急性期看護学分野の研究文献を読み、批判的に検討する。	東野・石黒
2	同上	東野・石黒
3	文献検討：成人急性期看護学分野の研究文献を読み、批判的に検討する。	東野・石黒
4	同上	東野・石黒
5	文献検討：成人急性期看護学分野の研究文献を読み、批判的に検討する。	東野・石黒
6	同上	東野・石黒
7	自己の研究課題に関連する文献を検索し、研究課題となりうるかを検討する。	東野・石黒
8	同上	東野・石黒
9	同上	東野・石黒
10	同上	東野・石黒
11	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、倫理申請や研究方法を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒
12	同上	東野・石黒
13	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、倫理申請や研究方法を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒
14	同上	東野・石黒
15	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、倫理申請や研究方法を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒
16	同上	東野・石黒
17	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、研究内容を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒
18	同上	東野・石黒
19	同上	東野・石黒
20	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、研究内容を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒
21	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する。	東野・石黒
22	同上	東野・石黒
23	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する。	東野・石黒
24	同上	東野・石黒
25	研究計画書の作成	東野・石黒
26	研究計画書の作成	東野・石黒
27	研究計画書の作成	東野・石黒
28	研究計画書の作成	東野・石黒

回数	内容	担当者
29	研究計画書（案）の発表	東野・石黒
30	まとめ	東野・石黒

授業方法

講義：1,2,3,4,5,6,7,8,10,12,14
 プレゼンテーション：9,11,13,15

時間外学習

予習・復習には十分な時間を使って授業に臨んでください。

教科書

特に指定しない。

参考図書

特に指定しない。

評価方法

研究計画書〔40%〕、プレゼンテーション〔30%〕、討議への参加〔30%〕を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

母性看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性及びその家族を理解するために用いられる概念や理論を理解し、看護実践および看護研究への適応を探求する。

【到達目標】

1. EBM、出産の歴史、リプロダクティブヘルス・ライツが理解できる。
2. 母親及び父親役割獲得、アタッチメント理論、セルフエフィカシー、ソーシャルサポート、ヘルスプロモーション、エスノグラフィーなど母性看護学で用いる理論が理解でき、看護実践および看護研究への適応を探求できる。
3. 思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性の健康生活及び健康問題並びに女性の健康支援システムについて理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	EBM	野口 眞弓
2	出産の歴史	野口 眞弓
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	野口 眞弓
4	母親役割獲得理論の看護実践への適応	野口 眞弓
5	母親役割獲得理論の看護実践への適応	野口 眞弓
6	父親役割獲得理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
7	アタッチメント理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
8	セルフエフィカシー理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
9	ソーシャルサポート理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
10	ヘルスプロモーション理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
11	エスノグラフィーの看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
12	思春期における健康課題・問題	野口 眞弓
13	妊娠・分娩・産褥にともなう健康課題・問題	野口 眞弓
14	更年期・老年期における健康課題・問題	野口 眞弓
15	まとめ	野口 眞弓

授業方法

講義・討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [40%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

母性看護学援助特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援を学ぶ。

【到達目標】

1. 月経教育、マンスリーピクス、思春期の性意識・性行動、性感染症、性教育におけるピアカウンセリングから、思春期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
2. 不妊、流産・死産・新生児死、勤労女性の法的・社会的支援、産後の性生活から、成熟期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
3. 更年期、老年期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
4. 母性看護における倫理的問題について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	月経教育・マンスリーピクス	野口 眞弓
2	思春期の性意識・性行動	野口 眞弓
3	性感染症・性教育におけるピアカウンセリング	野口 眞弓
4	不妊に悩む女性への援助	野口 眞弓
5	流産を繰り返す女性への援助	野口 眞弓
6	産まない選択をする女性への援助	野口 眞弓
7	死産・新生児死亡で子どもを失った家族への援助	野口 眞弓
8	勤労女性の法的・社会的支援	長田知恵子
9	産後の性生活への援助	長田知恵子
10	中高年の性行動	長田知恵子
11	更年期の女性への援助	長田知恵子
12	老年期の女性への援助	長田知恵子
13	母性看護における倫理的問題	長田知恵子
14	母性看護における倫理的問題	長田知恵子
15	まとめ	野口・長田

授業方法

講義・討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [40%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護特論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、周産期における一貫した母子のプライマリーケアと緊急事態に対応するための応用方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 標準的な周産期ケアとその歴史を理解できる。
2. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来などで提供されている周産期看護を検討し、正常な経膈分娩への援助、異常の診断と緊急処置、異常分娩の介助、新生児の蘇生などプライマリーケアと緊急事態に対応できる援助方法を理解できる。
3. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来など周産期ケアシステムについて検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	望ましい周産期ケア	野口 眞弓
2	助産師の歴史	野口 眞弓
3	超音波を用いた胎児診断	非常勤講師
4	胎児異常の診断	非常勤講師
5	助産師外来の実際	非常勤講師
6	早産・前期破水の最新の治療	非常勤講師
7	MFICUでの看護の実際	非常勤講師
8	院内助産所の実際	非常勤講師
9	アクティブ・バース	非常勤講師
10	断乳の実際	非常勤講師
11	分娩時異常出血・産科ショック	非常勤講師
12	異常分娩の看護	非常勤講師
13	新生児の蘇生	非常勤講師
14	NICUにおける親子関係形成の支援	非常勤講師
15	ハイリスク新生児のケア	非常勤講師

授業方法

講義

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [40%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

母性看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

母性看護学領域で、学生が興味をもつ特定の重要な現象、援助技術、理論及びその活用方法について、集中的な文献検討を行う。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、母性看護学における特定の重要な現象に解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行う。

【到達目標】

1. 母性看護学領域の文献の批判的検討ができる。
2. 母性看護学領域の研究課題の探求ができる。
3. 母性看護学領域における研究方法の検討ができる。
4. 研究計画書を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	母性看護学領域の文献の批判的検討 3回にわたり母性看護学領域の文献の批判的検討を行う。	野口 眞弓 長田知恵子
2	母性看護学領域の文献の批判的検討 3回にわたり母性看護学領域の文献の批判的検討を行う。	野口 眞弓 長田知恵子
3	母性看護学領域の文献の批判的検討 3回にわたり母性看護学領域の文献の批判的検討を行う。	野口 眞弓 長田知恵子
4	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
5	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
6	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
7	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
8	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
9	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
10	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口 眞弓 長田知恵子
11	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての研究デザインの検討	野口 眞弓 長田知恵子
12	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての研究デザインの検討	野口 眞弓 長田知恵子
13	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての研究デザインの検討	野口 眞弓 長田知恵子
14	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についてのデータ収集方法の検討	野口 眞弓 長田知恵子
15	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についてのデータ収集方法の検討	野口 眞弓 長田知恵子

回数	内容	担当者
16	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についてのデータ収集方法の検討	野口 眞弓 長田知恵子
17	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての研究での倫理的配慮の検討	野口 眞弓 長田知恵子
18	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての具体的なデータ収集方法の検討（質問項目作成 前半）	野口 眞弓 長田知恵子
19	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての具体的なデータ収集方法の検討（質問項目作成 後半）	野口 眞弓 長田知恵子
20	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての具体的なデータ収集方法の検討（インタビューガイド 前半）	野口 眞弓 長田知恵子
21	母性看護学領域における研究方法の検討 探求したい母性看護学領域の現象についての具体的なデータ収集方法の検討（インタビューガイド作成 後半）	野口 眞弓 長田知恵子
22	研究計画書の作成 研究方法についての文章化（前半）	野口 眞弓 長田知恵子
23	研究計画書の作成 研究方法についての文章化（後半）	野口 眞弓 長田知恵子
24	研究計画書の作成 研究方法についての文章化（前半）	野口 眞弓 長田知恵子
25	研究計画書の作成 研究方法についての文章化（後半）	野口 眞弓 長田知恵子
26	研究計画書の作成 研究の倫理的配慮の文章化	野口 眞弓 長田知恵子
27	具体的な研究方法の決定 アンケート項目の作成あるいはインタビュー項目の作成	野口 眞弓 長田知恵子
28	具体的な研究方法の決定 アンケート項目の作成あるいはインタビュー項目の作成	野口 眞弓 長田知恵子
29	具体的な研究方法の決定 アンケート項目の作成あるいはインタビュー項目の作成	野口 眞弓 長田知恵子
30	研究計画書の発表	野口 眞弓 長田知恵子

授業方法

演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。（適宜）

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [30%]、プレゼンテーション [30%]、研究計画書 [40%] を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護援助方法論演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期看護の高度実践において、求められる効果的な援助方法を専門看護師の視点から修得する。

【到達目標】

1. 母性看護CNSが実際に行うコーディネーション、コンサルテーション、倫理的調整、教育、研究を知ること、母性看護CNSの機能と役割に対する理解を深める。
2. 周産期における事例の倫理問題を多面的に捉え、権利と尊厳が守られるための調整の方向性を見出せる。
3. 周産期に特徴的な問題を解決するためのコンサルテーション能力を獲得する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コーディネーション、コンサルテーション、倫理的調整など母性看護CNS機能と役割の概念	野口 眞弓
2	母性看護CNSとしての活動の実際 ・母性看護CNSとしての活動 ・コーディネーションの実際 ・コンサルテーションの実際	非常勤講師
3	母性看護CNSとしての活動の実際 ・倫理的調整の実際 ・教育の実際 ・研究の実際	非常勤講師
4	母性看護CNSとしての活動の実際 ・母性看護CNSとしての活動 ・コーディネーションの実際 ・コンサルテーションの実際	非常勤講師
5	母性看護CNSとしての活動の実際 ・倫理的調整の実際 ・教育の実際 ・研究の実際	非常勤講師
6	周産期における事例の倫理的問題 ・出生前診断事例のアセスメントと対応	野口 眞弓
7	周産期における事例の倫理的問題 ・胎児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ (前半)	野口 眞弓
8	周産期における事例の倫理的問題 ・胎児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ (後半)	野口 眞弓
9	周産期における事例の倫理的問題 ・胎児及び新生児治療事例のアセスメントと対応	野口 眞弓
10	周産期における事例の倫理的問題 ・胎児及び新生児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ (前半)	野口 眞弓
11	周産期における事例の倫理的問題 ・胎児及び新生児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ (後半)	野口 眞弓
12	周産期におけるコンサルション ・クライアント事例のアセスメントとコンサルテーション	野口 眞弓
13	周産期におけるコンサルション ・コンサルタントとコンサルティー役でのロールプレイ	野口 眞弓
14	周産期におけるコンサルテーション ・コンサルティーを中心とする事例のアセスメントとコンサルテーション	野口 眞弓
15	周産期におけるコンサルテーション ・コンサルタントとコンサルティー役でのロールプレイ	野口 眞弓

授業方法

演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

演習内容(70%)、レポート(30%)を合計して評価する。

フィードバック

演習時にフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護高度実践演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、周産期看護特論で学習したことを統合し、周産期看護での高度実践ができる能力を養う。

【到達目標】

1. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来などで提供されている質の高い看護実践を分析することができる。
2. 正常な経膈分娩への援助、異常の診断と緊急処置、異常分娩の介助、新生児の蘇生などプライマリーケアと緊急事態に対応できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	周産期の望ましいケアの検討 ・妊娠期、分娩期、産褥期のケアについてのエビデンス	野口 眞弓
2	周産期の望ましいケアの検討 ・妊娠期、分娩期、産褥期のケアについてのエビデンス	野口 眞弓
3	周産期の望ましいケアの検討 ・妊娠期、分娩期、産褥期のケアについてのエビデンス	野口 眞弓
4	超音波を用いた胎児診断 ・妊娠初期・妊娠中期・後期の超音波検査、胎児発育の評価	非常勤講師
5	超音波を用いた胎児診断 ・妊娠初期・妊娠中期・後期の超音波検査、胎児発育の評価	非常勤講師
6	超音波を用いた胎児診断 ・妊娠初期・妊娠中期・後期の超音波検査、胎児発育の評価	非常勤講師
7	助産師外来の検討 ・医師が行う外来との違い、助産師外来での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
8	助産師外来の検討 ・医師が行う外来との違い、助産師外来での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
9	助産師外来の検討 ・医師が行う外来との違い、助産師外来での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
10	MFICUでの周産期ケアの検討 ・異常妊娠、胎児異常、異常分娩のケア	野口 眞弓
11	MFICUでの周産期ケアの検討 ・異常妊娠、胎児異常、異常分娩のケア	野口 眞弓
12	MFICUでの周産期ケアの検討 ・異常妊娠、胎児異常、異常分娩のケア	野口 眞弓
13	院内助産所での周産期ケアの検討 ・病院分娩室との違い、院内助産所での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
14	院内助産所での周産期ケアの検討 ・病院分娩室との違い、院内助産所での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
15	院内助産所での周産期ケアの検討 ・病院分娩室との違い、院内助産所での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
16	アクティブ・バースの検討 ・アクティブ・バースのエビデンス、胎児モニタリング、好まれる姿勢、分娩介助	非常勤講師
17	アクティブ・バースの検討 ・アクティブ・バースのエビデンス、胎児モニタリング、好まれる姿勢、分娩介助	非常勤講師

回数	内容	担当者
18	アクティブ・バースの検討 ・アクティブ・バースのエビデンス、胎児モニタリング、好まれる姿勢、分娩介助	非常勤講師
19	断乳の実際 ・卒乳（断乳）が母子の健康に及ぼす影響、助産院で提供している乳房ケア、断乳時のケア	非常勤講師
20	断乳の実際 ・卒乳（断乳）が母子の健康に及ぼす影響、助産院で提供している乳房ケア、断乳時のケア	非常勤講師
21	断乳の実際 ・卒乳（断乳）が母子の健康に及ぼす影響、助産院で提供している乳房ケア、断乳時のケア	非常勤講師
22	分娩時異常出血・産科ショックの対応 ・緊急物品の使用法、分娩時異常出血の止血操作、緊急時の体制	非常勤講師
23	分娩時異常出血・産科ショックの対応 ・緊急物品の使用法、分娩時異常出血の止血操作、緊急時の体制	非常勤講師
24	分娩時異常出血・産科ショックの対応 ・緊急物品の使用法、分娩時異常出血の止血操作、緊急時の体制	非常勤講師
25	新生児の蘇生 ・新生児救急蘇生法ガイドラインによる新生児蘇生法並びに（超）早産児の蘇生法の演習	非常勤講師
26	新生児の蘇生 ・新生児救急蘇生法ガイドラインによる新生児蘇生法並びに（超）早産児の蘇生法の演習	非常勤講師
27	新生児の蘇生 ・新生児救急蘇生法ガイドラインによる新生児蘇生法並びに（超）早産児の蘇生法の演習	非常勤講師
28	ハイリスク新生児のケア ・新生児仮死、低体温、呼吸障害、チアノーゼ、痙攣、感染症、早期黄疸、外表奇形のケア	非常勤講師
29	ハイリスク新生児のケア ・新生児仮死、低体温、呼吸障害、チアノーゼ、痙攣、感染症、早期黄疸、外表奇形のケア	非常勤講師
30	ハイリスク新生児のケア ・新生児仮死、低体温、呼吸障害、チアノーゼ、痙攣、感染症、早期黄疸、外表奇形のケア	非常勤講師

授業方法

演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。（適宜）

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

演習内容（70%）、レポート（30%）を合計して評価する。

フィードバック

演習時にフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護管理演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、周産期看護の業務管理並びに政策参加を学ぶことで、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を理解する。

【到達目標】

1. 周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、周産期看護管理実習ののちに、臨床で実際に働く指導者とともにもそこでの周産期看護の現状分析を行い、業務管理の実際を検討する。
2. NPO法人臨床助産の会という組織体の運営上必要とされる実際上のプラン（政策）を検討する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	助産師外来の現状分析と業務管理の実際 現状分析の報告、業務管理の実際	野口 眞弓 非常勤講師
2	周産期ケアあり方の検討	野口 眞弓
3	周産期ケア管理のあり方の検討	野口 眞弓
4	MFICUの現状分析と業務管理の実際 現状分析の報告	長田知恵子 非常勤講師
5	業務管理の実際	長田知恵子
6	周産期ケア並びに管理のあり方の検討	長田知恵子
7	院内助産所の現状分析と業務管理の実際 現状分析の報告	野口 眞弓 非常勤講師
8	周産期ケアのあり方の検討	野口 眞弓
9	周産期ケア管理のあり方の検討	野口 眞弓
10	NICUの現状分析と業務管理の実際 現状分析の報告、	長田知恵子 非常勤講師
11	業務管理の実際	長田知恵子
12	周産期ケア並びに管理のあり方の検討	長田知恵子
13	NPO法人の活動の実際と今後の政策の立案 NPO法人臨床助産の会の活動の理解	野口 眞弓 非常勤講師
14	助産師による社会活動の実際、	野口 眞弓 非常勤講師
15	運営上必要とされる実際上のプラン（政策）を検討	野口 眞弓

授業方法

演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。（適宜）

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介

評価方法

討議への参加（40%）、プレゼンテーション（60%）を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護事例検討演習	2年通年	2単位 (60時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院、乳房マッサージやアクティブ・パースを積極的に取り入れているマルオト助産院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産院、NICUでの周産期看護、並びに病院と助産所における乳房管理について、実際の事例を検討することで母子のプライマリーケアと緊急時に対応するための援助方法の検討を行う。

【到達目標】

1. 助産師外来における正常経過の妊婦の事例検討ができる。
2. MFICUにおける切迫早産、多胎、重症妊娠高血圧腎症、胎児疾患の事例検討ができる。
3. 産科病棟における心理・社会的側面で問題のある事例の検討ができる。
4. 院内助産所における産婦の事例検討ができる。
5. NICUにおけるハイリスク児、奇形や障害のある児の事例検討ができる。
6. 病院と助産所での乳房管理の検討ができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	助産師外来における正常経過の妊婦の事例検討 A病院での事例検討	野口 眞弓 非常勤講師
2	B病院での事例検討	野口 眞弓
3	事例検討のまとめ	野口 眞弓
4	MFICUにおける切迫早産の事例検討 A病院での事例検討	長田知恵子 非常勤講師
5	B病院での事例検討	長田知恵子
6	事例検討のまとめ	長田知恵子
7	MFICUにおける多胎の事例検討 A病院での事例検討	長田知恵子 非常勤講師
8	B病院での事例検討	長田知恵子
9	事例検討のまとめ	長田知恵子
10	MFICUにおける重症妊娠高血圧腎症の事例検討 A病院での事例検討	野口 眞弓 非常勤講師
11	B病院での事例検討	野口 眞弓
12	事例検討のまとめ	野口 眞弓
13	MFICUにおける胎児疾患の事例検討 A病院での事例検討	野口 眞弓
14	B病院での事例検討	野口 眞弓
15	事例検討のまとめ	野口 眞弓
16	産科病棟における心理・社会的側面で問題のある事例の検討 A病院での事例検討	長田知恵子 非常勤講師
17	B病院での事例検討	長田知恵子
18	事例検討のまとめ	長田知恵子
19	院内助産所における産婦の事例検討 A病院での事例検討	野口 眞弓 非常勤講師
20	B病院での事例検討	野口 眞弓
21	事例検討のまとめ	野口 眞弓
22	NICUにおけるハイリスク児の事例検討 A病院での事例検討	長田知恵子 非常勤講師
23	B病院での事例検討	長田知恵子
24	事例検討のまとめ	長田知恵子
25	NICUにおける奇形や障害のある児の事例検討 A病院での事例検討	長田知恵子 非常勤講師
26	B病院での事例検討	長田知恵子

回数	内容	担当者
27	事例検討のまとめ	長田知恵子
28	病院と助産所での乳房管理の検討 助産所での事例検討	野口 眞弓 非常勤講師
29	病院での事例検討	野口 眞弓
30	事例検討のまとめ	野口 眞弓

授業方法

演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加(40%)、プレゼンテーション(60%)を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護管理実習	1年後期	2単位 (90時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における高度実践者として、周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、母性看護学特論、母性看護学援助特論、周産期看護特論、周産期看護高度実践演習で学習したことを統合し、周産期看護を管理する能力を養う。このことから、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を理解する。

【到達目標】

1. 周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析ができる。
2. 周産期看護の業務管理の実際を検討することができる。
3. 周産期看護の業務管理の改善策を提示することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>1. 実習内容 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析を行い、業務管理の実際を検討する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 周産期看護の現状分析：助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究の現状を分析する。 2) 業務管理の実際：助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究の業務管理の実際を理解する。 3) 周産期看護管理の検討：周産期看護の現状分析と業務管理の実際を検討することで、周産期看護管理の改善策を提案する。 <p>2. 実習施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 名古屋第一赤十字病院 2) 名古屋第二赤十字病院 <p>3. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日は、学内でオリエンテーションを実施する。 2) 病院実習は、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUで90時間以上実施する。 <p>4. 実習記録等 実習終了後は、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析と業務管理の実際のレポートを作成する。</p>	野口眞弓・ 長田知恵子

授業方法

実習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

実習中に適宜紹介する。

評価方法

実習内容及びレポート(助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析と業務管理の分析 [80%]、改善策の提示 [20%])

フィードバック

実習時にその場でフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

周産期看護高度実践実習	2年通年	4単位 (180時間)	選択
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における高度実践者として、周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、母性看護学特論、母性看護学援助特論、周産期看護特論、周産期看護高度実践演習、周産期看護管理実習、周産期看護管理演習で学習したことを統合し、周産期看護の高度実践ができる能力の獲得を目指す。また、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を果たす基礎的能力の獲得を目指す。

【到達目標】

1. 周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICUにおける周産期看護を実践する。
2. 周産期看護におけるコンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究ができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>1. 実習内容</p> <p>1) 助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICUにおいて、以下の事例を受け持ち、高度のアセスメントならびに高度な実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師外来において正常経過の妊婦 ・MFICUにおいて切迫早産、多胎、重症妊娠高血圧腎症、胎児疾患 ・産科病棟において心理・社会的側面で問題のある事例 ・院内助産所において正常分娩の産婦 ・NICUにおいてハイリスク児、奇形や障害のある児 <p>2) 受け持つ事例を通して、医師・ソーシャルワーカーなどの他職種との共同、ケアコーディネーションを行う。</p> <p>3) 受け持ち事例を通して、コンサルテーション、倫理的調整、教育を行う。</p> <p>4) 受け持ち事例を通して、看護実践の創造・改革・改善のための研究課題を見だし、研究的なアプローチを習得する。</p> <p>2. 実習施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 名古屋第一赤十字病院 2) 名古屋第二赤十字病院 <p>3. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日は、学内でオリエンテーションを実施する。 2) 病院実習は、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICUで90時間以上実施する。 <p>4. 実習記録等</p> <p>実習終了後は、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICUにおける周産期看護の事例報告を作成する。</p>	野口眞弓・ 長田知恵子

授業方法

実習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(適宜)

教科書

なし

参考図書

実習中に適宜紹介する。

評価方法

助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実践 [50%]、コンサルテーション・コーディネーション・倫理的調整・教育・研究 [50%]

フィードバック

実習時にその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児看護学成長発達論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 大西 文子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児の各期における成長発達及び発達理論を探究し、小児看護への活用方法を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの成長発達及び発達理論をより深く理解できる。
2. 疾患をもつ子どもにおける子ども自身なりの健康維持増進を支援するために、成長発達及び発達理論の活用による小児看護方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/発達理論の概要(講義)	大西文子
2	子どもの成長発達(形態的発達)	大西文子
3	子どもの成長発達(機能的発達)	大西文子
4	子どもの成長発達(精神運動発達)	大西文子
5	子どもの成長発達(心理社会的発達)	大西文子
6	発達理論(1):フロイト	大西文子
7	発達理論(2):エリクソン自我発達理論	大西文子
8	発達理論(2):エリクソン自我発達理論	大西文子
9	発達理論(3):ピアジェ発達理論	大西文子
10	発達理論(3):ピアジェ発達理論	大西文子
11	小児外科疾患をもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討(事例:鎖肛をもつ子ども)	大西文子
12	慢性期疾患をもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討(事例:腹膜透析を行っている子ども)	大西文子
13	終末期を迎えた子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討(事例:急性リンパ性白血病をもつ子ども)	大西文子
14	障がいをもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討(事例:脳性麻痺をもつ子ども)	大西文子
15	まとめ、授業評価	大西文子

授業方法

第1回～第15回:講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

上田礼子著:生涯人間発達学、三輪書店

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児看護学成長発達論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

親子関係論・家族ダイナミクスやストレス・コーピング理論、家族発達、家族アセスメントモデル等の家族看護理論について学び、子どもと親および家族の重要他者としての家族発達を修得する。

【到達目標】

1. 親子関係論、家族ダイナミクス、ストレス・コーピング理論、家族発達理論、家族システム理論、家族コミュニケーション理論、家族アセスメントモデルの各理論を理解できる。
2. 対象となる子ども、親・家族の健康を増進するために、小児看護における諸理論の展開方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 諸理論の概要	大西文子 岡田摩理
2	マラーの分離 - 固体化理論	大西文子
3	ボウルビィのアタッチメント理論	大西文子
4	ウィニコットの対象関係論	大西文子
5	親子関係論 (母子関係論・父子関係論)	大西文子
6	家族ダイナミクス	岡田摩理
7	家族発達理論	岡田摩理
8	親・家族の発達 (課題提出・ゼミ) Margaret Shandor Miles, RN, PhD, et al : The Nurse Parent Support Tool, Journal of Pediatric Nursing, Vol14, No1, 1999.	大西文子 岡田摩理
9	家族システム理論 / システムズ・アプローチ	岡田摩理
10	家族コミュニケーション理論	岡田摩理
11	子どものストレスコーピング	岡田摩理
12	家族ストレス対処理論	岡田摩理
13	ストレスコーピング理論 (課題提出・ゼミ) Nancy A. Ryan-Wenger : Children ,Coping, and the Stress of Illness: A Synthesis of the Research, JSPN, Vol1, No3, 1996.	大西文子 岡田摩理
14	家族アセスメントモデル 家族アセスメント・家族生活力量モデル	岡田摩理
15	家族アセスメントモデル カルガリー家族介入モデル・家族エンパワーメントモデル	大西文子 岡田摩理

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

『家族看護学 理論とアセスメント』野島佐由美監訳、へるす出版、2000

参考図書

『FAMILY NURSING Theory and Assessment 2nd ed』Marilyn M.Friedman
Appleton&Lange (1986)

『母子関係の理論1 愛着行動』J. ボウルビィ著、黒田実郎他訳 岩崎学術出版社
(1991)

『母子関係の理論2 分離不安』J. ボウルビィ著、黒田実郎他訳 岩崎学術出版社
(1991)

『母子関係の理論3 対象喪失』J. ボウルビィ著、黒田実郎他訳 岩崎学術出版社
(1991)

他、必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児看護学展開理論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護を展開するオレムセルフケア理論を探究し、セルフケア不足理論・依存的ケア理論について学修し、小児看護学への展開方法を修得する。

【到達目標】

1. オレムセルフケア理論のセルフケア不足理論における依存的ケア理論が理解できる。
2. 依存的ケア理論を用いた紙上事例を用いた看護展開方法が理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/オレムセルフケア理論の概要	大西・岡田
2	セルフケアの概念	大西・岡田
3	オレムセルフケア理論	大西・岡田
4	オレムセルフケア不足理論	大西・岡田
5	依存的ケア理論	大西・岡田
6	依存的ケア理論	大西・岡田
7	小児のセルフケアの考え方	岡田摩理
8	子どもの認知発達	岡田摩理
9	依存的ケア理論に基づく急性期患者紙上事例における看護展開方法(事例1:ヒルシュスプリング病)(ゼミ) 1)アセスメントに必要な小児・家族の理解 2)看護過程展開方法	大西・岡田
10	依存的ケア理論に基づく急性期患者紙上事例における看護展開方法(事例1:ヒルシュスプリング病)(ゼミ) 1)アセスメントに必要な小児・家族の理解 2)看護過程展開方法	大西・岡田
11	依存的ケア理論に基づく慢性期患者紙上事例における看護展開方法(事例2:完全大血管転移症)(ゼミ) 3)アセスメントに必要な小児・家族の理解 4)看護過程展開方法	大西・岡田
12	依存的ケア理論に基づく慢性期患者紙上事例における看護展開方法(事例2:完全大血管転移症)(ゼミ) 3)アセスメントに必要な小児・家族の理解 4)看護過程展開方法	大西・岡田
13	依存的ケア理論に基づく終末期患者紙上事例における看護展開方法(事例3:神経芽細胞腫)(ゼミ) 1)アセスメントに必要な小児・家族の理解 2)看護過程展開方法	大西・岡田
14	依存的ケア理論に基づく終末期患者紙上事例における看護展開方法(事例3:神経芽細胞腫)(ゼミ) 1)アセスメントに必要な小児・家族の理解 2)看護過程展開方法	大西・岡田
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

小野寺杜紀監訳、コニー・M・デニス著：オレム看護論入門セルフケア不足看護理論へのアプローチ、医学書院、2002.

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児看護学評価方法論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理・太田 有美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

子どもと母親・家族の自身の健康状態およびセルフケア能力を中心に、参加観察やインタビューおよび発達スクリーニング、フィジカルアセスメントの方法を用いて子どものヘルスアセスメントを行うための方略や技術・技法を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護分野における子どもと家族を対象とした研究の種類と方略を理解できる。
2. 子どもの健康状態および発達の評価法の実際を理解できる。
3. 小児看護におけるQOLの考え方について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション 小児のセルフケアの考え方、認知発達	大西文子
2	子どもと母親・家族への参加観察やインタビューの特徴と実際	大西文子
3	子どもの状況に応じた発達スクリーニング方法	大西文子
4	子どものフィジカルアセスメント1 (乳児期)	太田有美
5	子どものフィジカルアセスメント2 (幼児期)	太田有美
6	子どものフィジカルアセスメント3 (学童期)	太田有美
7	発達評価法1: 発達研究の系譜、DENVER II デンバー発達判定法	岡田摩理
8	発達評価法2 (ゼミ): 津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法	岡田摩理
9	発達評価法3: 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法、新版K式発達検査法	岡田摩理
10	発達研究の技法1: 発達研究の基礎	大西文子
11	発達研究の技法2: 発達研究の諸技法 (ゼミ)	大西文子
12	発達研究の技法3: 発達研究の実際 (ゼミ)	大西文子
13	子どもと家族のQOL 測定方法、成人のQOLとの違い、QOL測定上の問題点	大西文子 岡田摩理
14	子どもと家族のQOL (ゼミ) 小児看護におけるQOL研究の動向	大西文子 岡田摩理
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回: 講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

『子どものフィジカル・アセスメント』小野田千枝子監修 金原出版 2001
他、必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護学の専門領域に関連した健康問題の判別能力や小児看護実践能力を向上させるための看護技術および倫理的問題を考慮した研究方法について修得する。

【到達目標】

1. 小児看護実践能力を向上させるために必要な小児看護の専門性を理解できる。
2. 小児看護および小児看護研究を実践するために倫理的配慮を理解できる。
3. 小児看護・医療の側面から、小児の健康に関連する環境の現状について分析し、その特徴と課題及び支援方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 課題提示	大西文子
2	高度実践看護師 (APN) の役割と活動	大西文子
3	日本における専門看護師の機能と役割・今後の展望	大西文子
4	小児看護の倫理 子ども・家族と法	大西文子
5	小児看護の倫理 子どもの権利の現状と課題に対する看護 (ゼミ)	大西文子
6	小児看護の倫理 マルトリートメント	大西文子
7	小児看護の倫理 マルトリートメントの現状および課題と求められる看護 (ゼミ)	大西文子
8	小児看護の倫理 子どもと家族の権利擁護	大西文子
9	小児看護の倫理 子どもと家族の権利擁護の現状および課題と求められる看護 (ゼミ)	大西文子
10	小児の療養環境と看護 日本・外国の療養環境の現状の比較	大西文子
11	小児の療養環境と看護 現在の日本の療養環境の課題への取り組み (ゼミ)	大西文子
12	小児看護管理の現状と課題 小児科外来と小児病棟	大西文子
13	小児看護管理の現状と課題 リスクマネジメント	大西文子
14	小児救急医療と看護 小児救急医療の現状と課題	大西文子
15	小児救急医療と看護 家庭看護の現状と小児救急看護のあり方	大西文子
16	小児看護における看護技術 子どもの心身の特徴を踏まえたケア (ゼミ)	大西文子
17	小児の医療を取り巻く環境の現状分析とその特徴および課題への取り組み	大西文子
18	小児の在宅看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴および課題への取り組み (ゼミ)	大西文子
19	小児看護におけるきょうだい支援	岡田摩理
20	小児の災害看護の現状分析とその特徴および課題への取り組み	大西文子
21	小児の災害看護の課題への取り組み (ゼミ)	大西文子
22	子どものインフォームド・コンセント / インフォームド・アセント	大西文子
23	プレパレーション	大西文子
24	キャリアオーバーの問題と成人移行期支援	大西文子
25	発達障害の子どもを取り巻く問題	岡田摩理
26	発達障害の子どもを支えるネットワークと看護	岡田摩理
27	特別支援学校における看護師の役割	大西文子
28	子どもの身体的・精神的・社会的問題と支援 不登校・いじめ・犯罪・性行動	大西文子
29	子どもの生活習慣と健康問題、求められる看護	大西文子
30	まとめ、授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議およびプレゼンテーションへの参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

なし

小児CNS機能と役割演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理・後藤 芳充・太田 有美・田崎 あゆみ・江見 たか江・深谷 基裕			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

既存の研究成果や諸理論の活用、倫理的判断能力、コーディネーション、教育、コンサルテーションの高度な実践技術を学び、複雑な症例について小児と家族及び専門職者に適した援助方法を開発する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 困難な健康障害に応じた子どもの発達段階を考慮したヘルスアセスメント方法の実際および適切な看護援助方法を理解できる。
2. 小児看護領域において、子どもと家族に対する看護の実践と倫理的視点から問題と思われる複雑な症例について分析し、解決方法を提示できる。
3. 小児看護領域におけるコーディネーションについて学び、複雑な症例の問題解決のためのコーディネーションの方略について提示できる。
4. 小児看護職者の教育ニーズを分析し、教育計画の立案ができる。
5. 小児看護職者の実践上の悩みの本質を見出し、コンサルテーションを展開できる。
6. 小児看護領域における課題を抽出し、CNSの6つの機能を用いた解決のための方略について、長期的視点で考えることができる。
7. 小児看護における課題を抽出し、チェンジエージェントとしての意識と6つの機能を用いて、解決するための方略を考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーションと演習計画立案	大西・岡田
2	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント ハイリスク新生児およびNICU看護	江見たか江
3	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント 小児外科疾患	後藤芳充
4	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント 代謝性疾患	後藤芳充
5	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント 小児がん	後藤芳充
6	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント 慢性疾患	後藤芳充
7	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント 脳神経系疾患	後藤芳充
8	困難な健康障害をもつ子どものヘルスアセスメント 障がいをもつ子ども	大西文子
9	人工呼吸器を装着した子どもと家族の看護 実際とその現状・問題	大西文子
10	人工呼吸器を装着した子どもと家族の看護 問題解決支援(ゼミ)	大西文子
11	二分脊椎の子どもと家族の看護 実際とその現状・問題	大西文子
12	二分脊椎の子どもと家族の看護 問題解決支援(ゼミ)	大西文子
13	小児1型糖尿病をもつ子どもと家族の看護 実際とその現状・問題	岡田摩理
14	小児1型糖尿病をもつ子どもと家族の看護 問題解決支援(ゼミ)	岡田摩理
15	脳腫瘍の子どもと家族の看護 実際とその現状・問題	大西文子
16	脳腫瘍の子どもと家族の看護 問題解決支援(ゼミ)	大西文子
17	複雑性てんかんをもつ子どもと家族の看護 実際とその現状・問題	大西文子
18	複雑性てんかんをもつ子どもと家族の看護 問題解決支援(ゼミ) 重症心身障害児と家族の看護 実際と現状・問題解決支援(ゼミ)	大西文子
19	小児看護における高度実践	深谷基裕

回数	内容	担当者
20	小児看護における退院調整（ゼミ）	太田・岡田・大西
21	小児看護における高度実践／倫理調整（ゼミ） 事例分析・援助方法の提案	太田・岡田・大西
22	小児看護における高度実践／倫理調整（ゼミ） 事例分析・援助方法の提案	太田・岡田・大西
23	小児看護における教育（ゼミ） ニード分析・教育計画立案	田崎・岡田・大西
24	小児看護における教育（ゼミ） ニード分析・教育計画立案	田崎・岡田・大西
25	小児看護におけるコーディネーション（ゼミ） 事例分析・コーディネーションの方略の提示	田崎・岡田・大西
26	小児看護におけるコーディネーション（ゼミ） 事例分析・コーディネーションの方略の提示	田崎・岡田・大西
27	小児看護におけるコンサルテーション（ゼミ） ロールプレイによるコンサルテーションの実施・分析	田崎・岡田・大西
28	小児看護におけるコンサルテーション（ゼミ） ロールプレイによるコンサルテーションの実施・分析	田崎・岡田・大西
29	小児看護における課題と解決への方略（研究）（ゼミ） 事例分析	深谷・岡田・大西
30	まとめ 授業評価 1年間の実践計画立案	大西・岡田

授業方法

第1回～第30回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

演習および討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

なし

小児看護支援論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理・山崎 嘉久			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を探求するとともに、母子プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、関係専門職および諸機関に対する今後の課題を修得する。

【到達目標】

1. 現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を理解できる。
2. 小児プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、今後の課題を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/子どもを取り巻く社会環境の概要	大西文子
2	子どもを取り巻く社会環境の現状分析 日本および世界の経済・文化・自然	大西文子
3	子どもを取り巻く社会環境の現状分析 日本の家族、保育園・幼稚園、学校	大西文子
4	母子保健行政と母子保健の現状	大西文子
5	母子保健法による母子保健施策および事業	大西文子
6	学校保健行政と学校保健の現状	大西文子
7	学校保健法による学校保健施策および事業	大西文子
8	健やか親子21	大西文子
9	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	岡田摩理
10	子育て支援、親の育児困難・不安	大西文子
11	児童虐待	山崎嘉久
12	児童虐待防止対策	山崎嘉久
13	親子保健/ペアレンティングエデュケーション/母子プライマリーケア	岡田摩理
14	母子保健・学校保健行政および施策への取り組みと調整方法	大西文子
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

- 『厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2019/2020』財団法人厚生統計協会
- 『福祉指標 増刊 国民福祉と介護の動向 2019/2020』財団法人厚生統計協会

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

小児CNS機能と役割実習	2年前期	2単位 (90時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護におけるCNSの6つの機能、実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究支援とその役割について、小児看護CNSと指導教員のスーパービジョンを受けながら、見学等体験を通して、修得する。

【到達目標】

小児看護における高度実践者としてのCNSの機能と役割について理解し、具体的な活動へと適用できる基礎を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習単位：2単位（90時間集中） 2. 実習場所：名古屋第二赤十字病院 3. 実習のすすめかた 小児看護専門看護師が勤務する臨地において、CNSの6つの役割と機能の実際を、主体的に見学・参加する。特に実践では、小児看護CNSと指導教員のスーパービジョンを受けながら、取り組む。 実習内容 1) 小児看護専門看護師の役割と機能における見学・参加実習内容 小児看護におけるリエゾン看護 コンサルテーション活動 チームアプローチとパートナーシップ 小児看護におけるスタッフ教育 その他：コーチング、ファシリテーション、ソリューションフォーカス等 2) 小児看護専門看護師の役割と機能における実践 先天性奇形・疾病および障害等の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族などへの看護を行う。	大西文子・岡田摩理

授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

評価表（60%）、ケーススタディ評価（20%）、討議への参加度（20%）

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

なし

小児看護高度実践実習	2年通年	4単位 (180時間)	選択
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児に特徴な先天性奇形・疾病および障害等の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族に対して、ケアを実践することによって、症例の分析、コンサルテーション等を含め、対象の健康生活を維持・促進するための援助を専門看護師として実践できる能力を修得する。

【到達目標】

1. 専門看護師の指導のもと、看護の困難な患者とその親および家族のケアを実践できる。
2. 実習における事例の分析を通して、コンサルテーション、倫理的調整等を含めた高度な実践技術を身につけることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>実習期間：小児CNS役割機能実習終了後～2年 実習場所：名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、あいち小児保健医療総合センター、トヨタ記念病院等 必要に応じて必要な医療福祉教育機関も含む。</p> <p>実習内容： 専門看護師の指導のもと、下記6項目について、自立して場や状況の開拓を行い、各2事例以上のレポートをまとめ評価を受ける。事例数については、各自の修得状況によって異なる場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な状況下にある、あるいは解決困難な問題を抱える子どもや親・家族に対して多角的にアセスメントし、エビデンスに基づいた直接ケアを自律的に実践し、評価する。 2. 小児看護師や小児看護領域に携わる医療従事者に対し実施したコンサルテーションについて、その経緯、内容、評価について分析する。 3. 子どもや親・家族、また小児看護師に対し教育的な働きかけを実施し、その目的、内容、実施、結果について評価を行う。 4. 他の専門職との連携や調整を行った事例に対して、その経緯に関する分析と評価を行う。 5. 子どもと家族について権利擁護の観点から、問題となる事象や葛藤に気づき、倫理分析をや倫理調整を具体的に実践し評価を行う。 6. 組織のもつ顕在的な研究ニーズの分析や組織で取り組まれている看護における課題を抽出し、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策について考察・実践する。 	大西文子・岡田摩理

授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

必要時参考文献を配布する。

評価方法

評価表(40%)、ケーススタディ評価(20%)、プロセスレコード評価(20%)、討議への参加度(20%)

フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

その他

なし

精神保健医療論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神的な問題をもつ人の支援に有用な精神保健医療、福祉の制度や体制を理解したうえで、患者と家族の基本的な人権を保障し、QOL向上をめざす精神医療の展望を探求する。

【到達目標】

1. 看護実践上の法的・倫理的概念、健康行動、ソーシャルサポート、エンパワーメント、自立支援の概念が理解できる。
2. 地域の社会資源・施設の有効活用、支援に必要な資源開発の観点、および現状の医療制度における高度専門看護職の機能について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス：精神保健医療福祉政策と社会の諸側面	村瀬 智子
2	精神保健福祉法の歴史	村瀬 智子
3	精神障がい者の現状と国際比較	村瀬 智子
4	精神障がいとスティグマ	村瀬 智子
5	精神保健福祉法と入院制度	村瀬 智子
6	精神障がい者の生活支援制度	村瀬 智子
7	精神障がいと法律	村瀬 智子
8	精神保健医療政策と医療経済	村瀬 智子
9	精神科リハビリテーションの概念（社会療法を含む）	村瀬 智子
10	エンパワーメントとセルフヘルプグループ	村瀬 智子
11	精神障がい者の人権とアドボカシー	村瀬 智子
12	精神看護学における倫理的課題	村瀬 智子
13	産業保健とメンタルヘルス	村瀬 智子
14	学校保健とメンタルヘルス	村瀬 智子
15	まとめ 高度実践看護師の機能と役割、その展望	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

精神保健医療福祉の基盤となる制度や法律を歴史的に概観した上で、具体的な看護ケアの方向性を演習で探求するためには、十分な講義の予習・復習が必要不可欠である。講義の準備と復習に少なくとも1週間程度の時間が必要である。

教科書

『精神保健 - 現代に視点と展開』 上郡博編著 看護の科学社〔493.79/Ka37〕

参考図書

- 『現代精神医学原論』 ナシア・ガミー著 村井俊哉訳 みすず書房〔493.7/G39〕
『メンタルケア論1、2』 メンタルケア協会編 メンタルケア協〔490.14/Me54/1,2〕
『日本精神病治療史』 八木剛平、田辺英著 金原出版〔493.7/Y15〕
『西欧精神医学背景史』 中井久夫著 みすず書房〔439.7/N34〕
『精神保健福祉白書 2015年版』 精神保健福祉白書編集委員会編集 中央法規出版〔369.28/Se19/統計・白書コーナー〕
『看護に必要な精神保健制度ガイド』 植田俊幸、佐々木明子編 野中猛監修 中山書店〔N26/U48/3rd〕
『新・看護者のための精神保健福祉法Q & A』 日本精神科看護協会監修〔369.28/N71/'15〕
他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神健康行動評価論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・大島 泰子・服部 希恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神病理のアセスメントと診断のための概念と理論、精神の健康生活の評価の方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 精神障がい の病因・徴候・経過と予後についてライフスパンにおいて捉え理解できる。
2. DSM-5 や ICD-10 などの精神障がい診断基準について比較検討し、看護の視点から評価できる。
3. 精神状態を評価する様々な評価尺度の活用方法について理解できる。
4. ライフステージやライフコースに応じた評価尺度の選択について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス / 高度実践看護師の機能と役割	村瀬 智子
2	看護過程と看護診断	村瀬 智子
3	看護面接技術と情報収集	村瀬 智子
4	精神状態のアセスメント (Mental Status Examinations)	大島 泰子
5	心理社会的アセスメントと評価	村瀬 智子
6	精神障害診断基準: DSM-5 と ICD-10	大島 泰子
7	統合失調症の理解と評価	大島 泰子
8	感情障がいの理解と評価	村瀬 智子
9	認知機能障がいの理解と評価	村瀬 智子
10	自殺のアセスメント	村瀬 智子
11	不安・抑うつ・怒り・攻撃性のアセスメントと評価	村瀬 智子
12	暴力被害サバイバーのアセスメント	村瀬 智子
13	薬物・アルコール使用のアセスメント	村瀬 智子
14	精神身体合併症とフィジカル・アセスメント	村瀬 智子
15	まとめ: 精神保健医療において看護の視点でアセスメントし評価判定することの意義と重要性について討論する。	村瀬 智子 服部 希恵

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

なし

参考図書

- 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]
- 『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014 [493.72/A44/5th]
- 『ICD-10 精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン』 WHO 編 融道男他訳 医学書院 [493.72/W67]
- 『看護診断ハンドブック』 第 11 版 リンダ J.カルベニート 竹花富子訳 医学書院 [N74.1/C21/10th]
- 『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020』 T.ヘザー・ハードマン編 中木高夫訳 医学書院 [N74.1/N48/'15-17]
- 『ケアの評価とナースサポート 精神看護エキスペール 9』 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/9]
- 『身体合併症の看護精神看護エキスペール 3』 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/3]
- 『衝動性と精神看護 精神看護エキスペール 20』 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/20]
- 『統合失調症急性期看護マニュアル』 阿保順子編 すぴか書房 [N21/A14/2nd]
- 『精神科看護：原理と実践』 Stuart,G & Laraia,M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
- 『Physical examination & health assessment』 Jarvis, C : (8th ed.) , Saunders. [N10.12/J25/7th]
- 『心理社会的援助の看護マニュアル』 Gorman, L. M., Sultan, D. F., & Raines, M. L. 池田明子訳 医学書院 [N01.2/G68]
- 『抗精神病薬の「身体副作用」がわかる』 長嶺敬彦 医学書院 [493.763/N15]
- 他、適宜紹介する。

評価方法

受講態度（5%）、討論参加（30%）、プレゼンテーション（50%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神健康行動ケア特論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・服部 希恵・牛山 喜久恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神保健医療を、メンタルヘルス・リエゾンを含めた幅広い視点でとらえ、精神保健医療チームの中で精神看護専門家として卓越した高度実践ができるために、必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論、セルフケア、ストレスマネジメント、リエゾン精神看護といった基礎概念や理論をライフスパンの視点を通して理解できる。
2. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論の効果的な適用方法が理解できる。
3. 高度精神看護師の精神科看護及びメンタルヘルスにおける役割の方向性や、看護の課題、ケアの基準について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス / 社会のニーズと高度実践専門職の課題	村瀬 智子
2	対人関係論(トラベルビー)、行動システム(ジョンソン)	村瀬 智子
3	危機理論とセルフケア理論	原田 真澄
4	ストレスコーピングと適応	原田 真澄
5	ライフスパン(児童、青少年、成人、高齢者)の視点から捉えたケアの特徴	原田 真澄
6	暴力の評価とアンガーコントロール	原田 真澄
7	トラウマ、虐待、DV の評価と対処	原田 真澄
8	慢性疾患患者の治療における心理学的側面	村瀬 智子
9	ターミナルケア、グリーフケア	原田 真澄
10	せん妄の評価と対処	原田 真澄
11	AIDSの精神医学的側面	村瀬 智子
12	アサーション(コーチング、リーダーシップを含む)	村瀬 智子
13	看護師のメンタルヘルス支援	村瀬 智子
14	組織的援助活動のダイナミクス: 病院組織の文化と病者の世界 - 認知行動特性	村瀬 智子 服部 希恵
15	身体と健康障がいとこころの問題: 疼痛、治療方法、予後への不安、受容に 関連する心身の症状(終末期ケア、緩和ケア)	村瀬 智子 牛山喜久恵

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

『リエゾン精神看護 - 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版
2004 [N20/N98]

参考図書

『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編]
医学書院 2014 [493.72/A44/5th]
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric
Pub [493.72/A44]
他、適宜紹介する。

評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神科治療と看護	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・石黒 千映子・平野 千晶・山田 浩雅・加藤 明美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護介入として、対象のライフステージに応じた精神領域の個別のセラピーができるために、精神領域で適用される、身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について学ぶ。

【到達目標】

1. 身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について説明できる。
2. 心理社会的療法について、訓練を受けた専門家が言語を用いて実施する精神心理療法と病理に直接働きかける療法について概念・理論・研究・実践の基本を理解できる。
 - (1) 精神心理療法(精神分析、交流分析/人間関係アプローチ、理性感情行動療法(REBT)、現実療法/実存主義的アプローチ、行動療法・認知療法・認知行動療法などについて説明できる。
 - (2) 洞察的精神療法、表現的精神療法、イメージ療法について説明できる。
 - (3) 広義の精神療法として集団・家族・環境療法や補完・代替療法について説明できる。
 - (4) 療法の各ライフステージへの適用、適切な看護介入について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス 精神科治療と高度実践看護師の役割	村瀬 智子 加藤 明美
2	身体医学療法：薬物動態学と薬力学・薬物代謝	平野 千晶
3	精神薬物療法：看護師の役割	村瀬 智子
4	精神薬物療法	山田 浩雅
5	社会・心理的療法：精神分析、交流分析 / 人間関係アプローチ	石黒千映子
6	社会・心理的療法：現実 / 実存主義的アプローチ	石黒千映子
7	社会・心理的療法：行動、認知、認知行動療法、REBT	石黒千映子
8	社会・心理的療法：洞察、表現、イメージ療法	石黒千映子
9	集団療法	村瀬 智子
10	家族療法	原田 真澄
11	環境療法	村瀬 智子
12	補完・代替療法	村瀬 智子
13	演習：各アプローチの代表的理論家、治療のゴール、期待する状態の変化、治療テクニック・看護への適用を比較検討する。	村瀬 智子
14	演習：精神科治療において、ライフスパンを幅広く包括する看護介入の重要性について検討する。	村瀬 智子
15	まとめ：治療における高度看護実践の方向性について討論する。 討論全体の総括：主担当 教育・研究の視点提供：主担当 臨地実践の視点の提供：CNS他	CNS他 担当教員全員

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

必要時、提示する。

参考図書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart , G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン〔N20/10th〕
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby〔N20/St9/10th〕
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub〔493.72/A44〕
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association〔編〕 医学書院 2014〔493.72/A44/5th〕
『カウンセリングの理論』 国分康孝 誠信書房〔146.8/Ko45〕
『グループサイコセラピー ヤーロムの集団精神療法の手引き』 Yalom, I. D. Vinogradov, S. 著 川室優訳 金剛出版〔146.8/Y17〕
『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編集 日本看護協会出版会〔N20/U92〕
『専門看護師の思考と実践』 井部俊子、大生定義監修 医学書院〔N89/Se71〕

評価方法

受講態度（5%）、討論参加（30%）、プレゼンテーション（50%）、小論文（15%）
提示する評価表の項目に沿って評価する。

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

心身の健康と環境看護論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

人間は開放系として、環境との相互作用を行いながら生活を営んでいる。したがって、環境の影響は全人的な健康を保持・増進する上で重要な要因となる。本科目では精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直す。その上で、環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、ストレンスを活かしながら自己決定を支える看護の視点から具体的事例に基づき論考する。

【到達目標】

1. 全人的な健康を保持・増進する上で、環境が重要な影響要因であることが理解できる。
2. 精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直すことができる。
3. 環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、家族構造や生活環境の変化の観点から述べることができる。
4. ストレンスを活かしながら自己決定を支える看護という視点から具体的事例を検討することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 心身の健康と環境看護	村瀬 智子
2	文化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
3	文化と心身の健康（実践編）：自閉症、広汎性発達障害	原田 真澄
4	家族構造の変化と心身の健康（理論編）	原田 真澄
5	家族構造の変化と心身の健康（実践編）：虐待、育児放棄、老年期精神病	原田 真澄
6	生活環境の変化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
7	生活環境の変化と心身の健康（実践編1）：環境汚染病、過敏症、依存症	村瀬 智子
8	生活環境の変化と心身の健康（実践編2）：急性ストレス障害、適応障がい、摂食障がい、高次脳機能障害	原田 真澄
9	統合・崩壊過程と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
10	統合・崩壊過程と心身の健康（実践編）：統合失調症、人格障害	原田 真澄
11	病の進化論とライフサイクル（理論編）	村瀬 智子
12	病の進化論とライフサイクル（実践編）：ライフサイクルにおける気分障害、認知症	原田 真澄
13	ストレンスを活かし自己決定を支える精神看護	村瀬 智子
14	構造主義の観点から捉えた環境看護論	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するためには、全人的な健康とは何かということを改めて問い直し、文化、家族、生活を含む広義の“環境”という概念を検討するための基本的知識が必要であり、その上で、精神疾患について捉えなおすことが求められる。そのため、本科目を受講するにあたっては、教科書や参考図書などを事前に十分予習して授業に臨み、その後は授業で学んだことや、引用された文献を読み直すなど、学びを振り返る復習が必要不可欠である。講義の準備と復習に少なくとも1週間程度の時間が必要である。

教科書

『人間エコロジーと環境汚染病：公害医学序談』 セロン・G・ランドルフ著 農山漁村文化協会 1986

参考図書

- 『生命とストレス』 ハンス・セリエ 工作舎 1997 [491.349/Se49]
- 『Florence Nightingale Today』 B. M. Dossey, L. C. Selanders, D. M. Beck and A. Attewell American Nurses Association, Silver Spring, Maryland 2005 [N02.8/N71]
- 『The Strengths Model 3rd』 C. A. Rapp & R. J. Goscha Oxford University Press 2012 [369.28/R17]
- 『文明と病氣 上下 (岩波新書青版 850,851)』 H. E. シゲリスト 岩波書店 1973 [080/195/850,851]
- 『生涯発達心理学 エリクソンによる人間の一生とその可能性 新版』 B. M. Newman & P. R. Newman著 福富護訳 川島書店 1988 [143/N68]
- 『はじめての構造主義 (講談社現代新書 898)』 橋爪大三郎 講談社 1988 [080/Ko19/898]
- 『化学物質過敏症 (文春新書 230)』 柳沢幸雄、石川哲、宮田幹夫 文藝春秋 2002 [080/B89/230]
- 『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

評価方法

受講態度 (5%)、討論参加 (40%)、プレゼンテーション (40%)、小論文 (15%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神看護学教育論	2年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神科看護で用いられる“癒しの技”は、個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい“目に見えない技”である。そのため、その“癒しの技”を教育する方法は、これまでには徒弟的な伝承に依るところが多かった。本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠である精神看護学教育の方法論について検討する。具体的には、認識論を基盤として、看護学基礎教育における実践例をもとに、精神看護学の教育方法について論考する。

【到達目標】

1. 個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい精神科看護の“目に見えない技”を教育する方法論について検討することができる。
2. 認識過程におけるメタ認識について理解し、看護過程と教育過程の同型性を論考することができる。
3. 認識論を基盤として、看護学基礎教育及び継続教育における教育方法について実践例をもとに考察することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 精神看護学教育法における現状と課題	村瀬 智子
2	精神看護学教育の特性	原田 真澄
3	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（理論編）	村瀬 智子
4	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（実践編）	原田 真澄
5	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（理論編）	村瀬 智子
6	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（実践編）	原田 真澄
7	精神看護学における“癒しの技”と直観（理論編）	村瀬 智子
8	精神看護学における“癒しの技”と直観（実践編）	原田 真澄
9	認識の進化と精神看護学（理論編）	村瀬 智子
10	認識の進化と精神看護学（実践編）	村瀬 智子
11	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（理論編）	村瀬 智子
12	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（実践編）	村瀬 智子
13	精神看護における認識過程（理論編）	村瀬 智子
14	精神看護における認識過程（実践編）	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠な精神看護学教育の方法論について検討する。そのためには、教育過程の基盤となる認識論を学び、具体的な教育過程を検討することが必要になる。授業内容は広範囲でかつ深い内容であるため、講義の準備と復習に少なくとも1週間程度の時間が必要である。

教科書

『技を育む』 神田橋條治 中山書店 2011〔493.7/Ka51〕

参考図書

『発生的認識論』 ジャン・ピアジェ 白水社 1972 [143/P58]
『Exploring the Interface between the Philosophy and Discipline of Holistic Nursing』 H. L. Erickson, editor Unicorns Unlimited, Createspace 2010 [N01.0/E67]
『精神医学的面接』 H. S. サリヴァン みすず書房 1986 [493.72/Su55]
『認識の生物学：理性の系統発生史的基盤』 R. リードル 思索社 1990 [461/R38]
『暗黙知の次元』 マイケル・ポラニー 紀伊國屋書店 1980 [115/P75]
『援助技法としてのプロセスレコード』 宮本真巳編著 精神看護出版 2003 [N85.1/Mi77]
『科学的看護論』 薄井坦子 日本看護協会出版会 1997 [N04/U95/3rd]
『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

精神看護学原論	2年前期	1単位 (15時間)	選択
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護学を探究するためには、これまでの物質科学の方法では捉えきれない人間に関する統合的理解に基づく創造的なアプローチが必要である。特に、精神看護学では、精神障がいをもつ人の意識や無意識といった目には見えない心の世界を捉えるために、心の世界の表現である言動の意味を全体論的な観点に立って、深く洞察することが必要である。本科目では、看護者としての自己理解を含め、精神障害をもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーション論などの諸理論について、精神看護学の原点に立って論考する。

【到達目標】

1. 精神障がいをもつ人の意識や無意識という目には見えない心的世界の表現である言動の意味を全体論的な観点に立って深く洞察することができる。
2. 看護者としての自己理解を含め、物質科学と生命科学の相違を理解することができる。
3. 精神障がいをもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーションなどの諸理論について、精神看護学の原点に立って論考することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 全体論と心身の健康	村瀬 智子
2	科学基礎論 - 物質科学と生命科学	村瀬 智子
3	精神障がいをもつ人の言動の意味と現象学	村瀬 智子
4	精神看護ケアの場における論理	村瀬 智子
5	精神と環境	村瀬 智子
6	自己と他者 - コミュニケーション論	村瀬 智子
7	弁証法と主観 - 客観の対立的共存	村瀬 智子
8	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目は、精神障がいをもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーションなどの諸理論について理解しようとする主体的な学習が求められる。それらの予習を踏まえて、精神看護学の原点に立ち返り、精神看護学とは何かについて論考することを目的に授業を行う。授業内容は広範囲でかつ深い内容であるため、講義の準備と復習に少なくとも1週間程度の時間が必要である。

教科書

『看護の原理：ケアすることの本質と魅力』 菱沼典子、井上智子、武田利明編集・執筆
ライフサポート社 2009〔N01/H76〕

参考図書

『西田幾多郎 哲学論集 論理と生命』 上田閑照編 岩波文庫 1988〔080.1/N81〕
『歴史としての生命』 村瀬雅俊 京都大学学術出版会 2000〔461/Mu57〕
『精神のコミュニケーション』 G. ベイトソン & J. ロイシュ 新思索社 1995〔493.7/B27〕
『精神の生態学』 改訂第2版 G. ベイトソン 新思索社 2000〔389.04/B27/2nd〕
『免疫の意味論』 多田富雄 青土社 1993〔491.8/Ta16〕
『精神科看護 - 原理と実践 - 』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby〔N20/St9/10th〕

評価方法

受講態度 (5%)、討論参加 (40%)、プレゼンテーション (40%)、小論文 (15%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

メンタルヘルスと司法看護学	2年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・加藤 明美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神の健康の増進と病気の予防に関する理論と実際を学び、メンタルヘルスにかかわる看護の役割を考察する。

【到達目標】

1. ストレス、危機、防衛機制の概念と理論が理解できる。
2. 発達段階と家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスについて説明できる。
3. 司法に関わる暴力（児童虐待、親密なパートナーからの暴力、高齢者虐待など）やそのトラウマがメンタルヘルスに及ぼす影響を検討し、看護の役割についての自己の考えを討論の場で展開できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス、メンタルヘルス支援と司法精神看護	村瀬 智子
2	発達課題と家庭や学校におけるメンタルヘルスの問題	村瀬 智子
3	学童期のメンタルヘルス支援の必要性和支援技法：自己への気づきとアサーション	村瀬 智子
4	演習：学校看護における家族相談家族システムのアセスメント	村瀬 智子
5	思春期の課題とメンタルヘルスケア：ケアの基本と技法	加藤 明美
6	演習：思春期の課題：引きこもりのアセスメントと支援プログラム	村瀬 智子
7	演習：思春期の課題（キレル子供・生徒・学生）：問題の理解とアサーション、怒り・衝動のコントロール支援プログラムの作成	村瀬 智子
8	職場の健康管理：メンタルヘルスの現状と支援の現状	村瀬 智子 原田 真澄
9	演習：職場のメンタルヘルスケア：メンタルヘルスケアとプログラム作成の基本	村瀬 智子 原田 真澄
10	ドメスティックバイオレンスの現状と法制度・社会的支援の仕組み（多職 種連携を含む）	原田 真澄
11	子供への虐待の実態と病理	原田 真澄
12	トラウマを持つ子供への支援	原田 真澄
13	虐待と夫婦間の虐待：問題の理解と社会的課題、支援	原田 真澄
14	介護者による虐待の課題と支援	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子 原田 真澄

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

適宜資料を配布する。

参考図書

『法医学と看護』 改訂 2 版 澤口聡子著 鹿島出版会〔498.9/Sa93/2nd〕
『司法精神看護』 Chris Chaloner, Michael Coffy 著 川野雅資訳 真興貿易(株)医書出版部〔N20/C31〕
『フォレンジック看護』 加納尚美他編集 医歯薬出版株式会社〔N20/Ka58〕
『心的外傷と回復』 <増補版> Judith Herman 著 中井久夫、小西聖子訳 みすず書房〔493.7/H53〕
『知っていますか？ ドメスティック・バイオレンス一問一答』 日本 DV 防止・情報センター 解放出版社〔367.1/N71/4th〕
『Q&A 児童虐待防止ハンドブック』 児童虐待問題研究会編 ぎょうせい〔367.6/J48/2nd〕
『Forensic Nursing Science』 Mosby 2 版〔498.9/L99/2nd〕
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association〔編〕医学書院 2014〔493.72/A44/5th〕
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub〔493.72/A44〕

評価方法

授業態度（5%）、討論参加（30%）、プレゼンテーション（50%）、小論文（15%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

精神科治療と看護演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・平野 千晶			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護における専門家として、個人、家族および集団に対し、ライフスパンにおいて対象を捉え、急性期、回復期、維持期といった障がいの回復段階に応じて卓越した働きかけができるために必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 問題解決、症状管理、再発予防、精神リハビリテーションといった看護場面において卓越した実践を行うための重要なポイントについて理解できる。
2. 問題解決、症状管理、再発予防、精神リハビリテーションといった看護場面において卓越した実践を行うための支援方法について理解できる。
3. ライフスパンにおいて対象を理解し、ライフステージに応じた具体的な支援方法を考察できる。
4. 事例検討や討議をとおして、学んだ知識と技術を多様な場面へ適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス、精神障がいの回復段階に沿った高度看護実践	村瀬 智子
2	討議：環境管理 - ミリューセラピーと急性期相互作用の治療的意義 - 回復 過程と治療的環境、ケアの継続性と人のライフスパン	村瀬 智子
3	精神科リハビリテーション 統合失調症（事例演習）：アセスメントと診断	平野 千晶
4	精神科リハビリテーション 統合失調症急性期：急性期入院患者の疾病認知と服薬管理	平野 千晶
5	精神科リハビリテーション 統合失調症急性期：疾病管理の心理教育プログラム構成	平野 千晶
6	精神科リハビリテーション 統合失調症急性期：入院患者の問題行動の理解とケア	平野 千晶
7	精神科リハビリテーション 統合失調症急性期：急性期入院患者家族の心理社会的問題とケア	平野 千晶
8	精神科リハビリテーション 統合失調症急性期：急性期患者の家族教室のプログラム構成	平野 千晶
9	統合失調症回復期～社会復帰期：社会資源とケースマネジメント	村瀬 智子
10	統合失調症回復期～社会復帰期：退院支援における環境のアセスメント	村瀬 智子
11	統合失調症回復期～社会復帰期：就業支援とリハビリテーション	村瀬 智子
12	統合失調症回復期～社会復帰期：地域生活支援と疾病管理指導・再発予防	村瀬 智子
13	統合失調症回復期～社会復帰期：多職種連携とケースマネジメント	村瀬 智子
14	統合失調症回復期～社会復帰期：ピアカウンセリングの意義	村瀬 智子
15	統合失調症回復期～社会復帰期：家族支援と家族教室	村瀬 智子
16	統合失調症回復期～社会復帰期：外来支援・訪問看護によるケアの実際と可能性	村瀬 智子
17	統合失調症回復期～社会復帰期：複合的な問題を持つ人のケースマネジメント	村瀬 智子
18	発達障がい（事例演習）：診断・アセスメント・治療	平野 千晶
19	発達障がい（事例演習）：外来支援、訪問支援における看護の役割	原田 真澄
20	発達障がい（事例演習）：地域における家族支援・親子支援	原田 真澄
21	発達障がい（事例演習）：発達障がい児の理解と関わり	原田 真澄

回数	内容	担当者
22	発達障がい（事例演習）：発達障がい児の家族支援・親子支援と看護	原田 真澄
23	心理社会的アプローチ（事例演習）：集団療法	村瀬 智子
24	心理社会的アプローチ（事例演習）：家族療法	村瀬 智子
25	心理社会的アプローチ（事例演習）：環境療法、補完・代替療法	村瀬 智子
26	ライフスパンにおける対象の理解と看護実践（事例演習）：障害の回復段階における児童・思春期のケア - 1	村瀬 智子
27	ライフスパンにおける対象の理解と看護実践（事例演習）：障害の回復段階における児童・思春期のケア - 2	村瀬 智子
28	ライフスパンにおける対象の理解と看護実践（事例演習）：障害の回復段階における高齢者の看護ケア - 1	村瀬 智子
29	ライフスパンにおける対象の理解と看護実践（事例演習）：障害の回復段階における高齢者の看護ケア - 2	村瀬 智子
30	まとめ：入院から地域生活への継続ケアの現状と今後の支援の可能性	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

必要時、提示する。

参考図書

『精神科看護 - 原理と実践 - 』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
 原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby [N20/St9/10th]
 『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014 [493.72/A44/5th]
 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]

評価方法

受講態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%：プレゼンテーション45%、レポート20%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

精神科治療と看護の事前履修が望ましい。
 履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神健康行動評価演習	2年前期	2単位 (60時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

個人・集団・家族療法と援助に関して、対象のライフステージに幅広く対応した高度な看護実践における活用・応用力を養う。

【到達目標】

討論、模擬事例、ロールプレイ、視覚的教材、体験学習の演習を通して、人のライフパンにおける複雑な場面に対して、包括的アセスメントと対人的関係技術を適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス、アセスメントと対人的関係技術	村瀬 智子 原田 真澄
2	ロールプレイとプロセスレコード分析 1	村瀬 智子
3	アセスメントと対人的関係技術：ライフスパンにおける幅広い対象の理解	村瀬 智子
4	アセスメントと対人的関係技術：ロールプレイとプロセスレコード分析 2	村瀬 智子
5	家族療法理論のクリティーク	原田 真澄
6	ポーエンの家族療法理論のクリティーク 23回から28回(6回)のプレゼンテーションのための課題提起	原田 真澄
7	グループ・プロセスの理解	村瀬 智子 原田 真澄
8	グループ・ダイナミクス 1: グループ討議によるテーマの設定とグループ討論(45分間)の第1回 ビデオ撮影 撮影したビデオの運営についてグループで決定する。	村瀬 智子 原田 真澄
9	グループ・ダイナミクス: 抵抗	村瀬 智子 原田 真澄
10	グループ・ダイナミクス 2: 第2回ビデオ撮影 グループ討論による第1回ビデオの振り返りと分析	村瀬 智子 原田 真澄
11	グループ・ダイナミクス: コミュニケーション・パターン	村瀬 智子 原田 真澄
12	グループ・ダイナミクス 3: 第3回ビデオ撮影 グループ討論による第2回ビデオの振り返りと分析	村瀬 智子 原田 真澄
13	グループ・ダイナミクス: グループメンバーの役割	村瀬 智子 原田 真澄
14	グループ・ダイナミクス 4: グループメンバーの力 第4回ビデオ撮影 グループ討論による第3回ビデオの振り返りと分析	村瀬 智子 原田 真澄
15	グループ・ダイナミクス: グループの基準	村瀬 智子 原田 真澄
16	グループ・ダイナミクス 5: 第5回ビデオ撮影 グループ討論による第4回ビデオの振り返りと分析	村瀬 智子 原田 真澄
17	グループ・ダイナミクス: グループの凝集性	村瀬 智子 原田 真澄
18	グループ・ダイナミクス 6: 第6回ビデオ撮影 グループ討論による第5回ビデオの振り返りと分析	村瀬 智子 原田 真澄
19	グループ・ダイナミクス: グループの発展段階	村瀬 智子 原田 真澄
20	グループ・ダイナミクス 7: 第7回ビデオ撮影 グループ討論による第6回ビデオの振り返りと分析 グループの成長過程について振り返り分析する。	村瀬 智子 原田 真澄
21	グループダイナミクス: グループリーダーの役割と責任	村瀬 智子 原田 真澄

回数	内容	担当者
22	グループダイナミクス8： グループ討論による第7回ビデオの振り返り 全体のグループの成長過程について振り返り分析する。	村瀬 智子 原田 真澄
23	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：ボーエン家族療法による自己家族の分析 - 1	原田 真澄
24	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：ボーエン家族療法理論による自己家族の分析 - 2	原田 真澄
25	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：ボーエン家族理論による自己家族の分析 - 3	原田 真澄
26	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：カルガリー家族理論による統合失調症の母親を持つ 家族の分析と支援	原田 真澄
27	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：ミラノ派家族理論によるアルコール依存症を持つ家 族の分析と支援	原田 真澄
28	家族システムアセスメントと支援 - 学生による発表と討論 仮テーマ：ミニューチンの家族理論による摂食障害児を持つ家 族の分析と支援	原田 真澄
29	まとめ：高度実践看護師に求められるライフスパンにおいて対 象を捉える、高度なアセスメント技術と看護実践について討論 する。	村瀬 智子 原田 真澄
30	まとめ：高度実践看護師に求められる高度なアセスメント技術 と看護実践 について討論する。	村瀬 智子 原田 真澄

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

『ファミリーナーシングプラクティス - 家族看護の理論と実践』 森山美知子、鞠子英雄
医学書院〔N51/Mo73〕
『家族療法テキストブック』 日本家族研究・家族療法学会編 金剛出版 2013〔
146.8/N71〕

参考図書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジ
ャパン〔N20/St9〕
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart, G &
Laraia, M: Mosby〔N20/St9/9th〕
『グループサイコセラピー - ヤーロムの集団精神療法の手引き』 Irvin D. Yalom
Sophia Vinogradov 著 川室優訳 金剛出版〔146.8/Y17〕
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編]
医学書院 2014〔493.72/A44/5th〕
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric
Pub〔493.72/A44〕
『家族療法技法ハンドブック』 ロバート・シャーマン、ノーマン・フレッドマン 星和
書店〔146.8/Sh14〕
『家族評価 - ボーエンによる家族探究の旅』 Michael E. Kerr & Murray Bowen 金剛
出版 2001〔493.72/Ke58〕
『家族療法入門 システムズアプローチの理論と実践』 遊佐安一郎著 星和書店 1984
〔146.8/Y99〕
『家族療法的カウンセリング - 21世紀カウンセリング叢書』 亀口憲治 駿河台出版社
2003〔146.8/Ka33〕

評価方法

授業態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%：プレゼンテーション45%、レポート20%）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

精神健康行動評価論の事前履修が望ましい。

学生は自らの他者とのかかわりのパターンを吟味検討し、小グループにおいて、いくつかみられる予知可能で系統的な方法（あり方）を学ぶ。

1. 学生はグループでの経験によりグループダイナミクスを学ぶ。
2. 学習はビデオ撮影したグループ活動を観察・分析することで促進される。
小グループによる学習は、分析的・社会理論の観点から行われる。

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神看護援助方法の開発演習	1・2年通年	2単位 (60時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子・服部 希恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度な看護実践において活用・応用力を養い、効果的な援助方法を開発する。

【到達目標】

1. 「精神CNS機能と役割実習」と「精神看護高度実践実習」のフィールドで実際に起こってきた精神科保健医療としての精神科臨床とメンタルヘルスの問題からテーマを選択し、文献（概念・理論・研究）とフィールドワーク（経験）により看護援助方法について探究できる。
2. 治療環境としての施設のアセスメントにより把握した実習施設の特徴を踏まえて、治療的な相互作用の分析、入院、外来における患者と家族のケア及び相談、連携、指導に関するアクティブな事例や課題をテーマとして、高度実践を推進する力を養うことができる。
3. 幅広い対象（ライフスパン、ケアの場の設定）について事例を提示し検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス 施設機能分析と看護機能強化の焦点：フレームワークの提示と説明（地域、施設の特徴と人的資源、連携、機能 施設内文化）	村瀬 智子
2	施設アセスメント演習：学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、治療 的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	村瀬 智子 大島 泰子
3	総合病院入院患者におけるリエゾン機能と事例 <成人・高齢者> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討：（インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思 決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者 の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他）	村瀬 智子 服部 希恵
4	総合病院入院患者におけるリエゾン機能と事例 <成人・高齢者> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討：（インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思 決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者 の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他）	村瀬 智子 服部 希恵
5	総合病院入院患者におけるリエゾン機能と事例 <乳幼児・小児> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討：（インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思 決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応 関係性の破綻、拒否、暴力等その他）の検討	村瀬 智子 服部 希恵
6	総合病院入院患者におけるリエゾン機能と事例 <乳幼児・小児> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討：（インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思 決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応 関係性の破綻、拒否、暴力等その他）の検討	村瀬 智子 服部 希恵
7	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 慢性疾患に関連した課題と看護援助方法： 糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・精神身体的合併症その他	村瀬 智子
8	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 慢性疾患に関連した課題と看護援助方法： 糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・精神身体的合併症その他	村瀬 智子
9	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 ターミナルケア、グリーフケアに関連した課題と看護援助： 認知症・せん妄その他意識障害・疼痛マネジメントその他	村瀬 智子
10	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 ターミナルケア、グリーフケアに関連した課題と看護援助： 認知症・せん妄その他意識障害・疼痛マネジメントその他	村瀬 智子

回数	内容	担当者
11	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 自殺に関連した課題と看護援助	村瀬 智子
12	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 自殺に関連した課題と看護援助	村瀬 智子
13	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族 いじめ、不登校その他	村瀬 智子
14	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族 いじめ、不登校その他	村瀬 智子
15	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 評価、感情のマネジメント、トラウマケアプログラムその他	村瀬 智子
16	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 評価、感情のマネジメント、トラウマケアプログラムその他	村瀬 智子
17	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 依存症（薬物、アルコール）に関連した課題と看護援助	原田 真澄
18	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 依存症（薬物、アルコール）に関連した課題と看護援助	原田 真澄
19	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 スティグマに関連した課題と看護援助： 精神障害、AIDS その他	村瀬 智子
20	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 スティグマに関連した課題と看護援助： 精神障害、AIDS その他	村瀬 智子
21	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント	原田 真澄
22	学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討 対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント	原田 真澄
23	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など	村瀬 智子
24	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など	村瀬 智子
25	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他	村瀬 智子
26	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他	村瀬 智子
27	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 社会参加支援プログラム ケアの継続、ネットワークづくりその他	原田 真澄
28	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 社会参加支援プログラム ケアの継続、ネットワークづくりその他	原田 真澄

回数	内容	担当者
29	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 学生による実習内容についての課題発表またはフィールドからの問題提起による討論	村瀬 智子 原田 真澄子 大島 泰子
30	学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討 学生による実習内容についての課題発表またはフィールドからの問題提起による討論	村瀬 智子 原田 真澄子 大島 泰子

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、講義の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

必要時、提示する。

参考図書

『精神科看護 - 原理と実践 - 』 Stuart , G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン〔N20/St9〕
 原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby〔N20/St9/10th〕
 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub〔493.72/A44〕
 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』 日本精神神経学会監修 医学書院〔493.72/A44〕
 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub〔493.72/A94〕
 『ICD-10 精神および行動の障害 - 臨床記述と診断ガイドライン』 融道男他著 医学書院〔493.72/W67〕

評価方法

授業態度（5%）、討論への参加（45%）、課題（50%：ケースプレゼンテーション30%、ケースレポート20%）

フィードバック

各回の授業は学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

精神CNS機能と役割実習、精神看護学高度実践実習の同時履修が望ましい。
履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

精神CNS機能と役割実習	1・2年通年	2単位 (90時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護における高度実践者として、講義と演習で習得した内容を統合し、CNSの機能と役割の実際を、所属のCNSと指導教員のSupervisionを受けながら、見学・参加・実践を通して学ぶ。

【到達目標】

精神看護における高度実践者としてのCNSの機能と役割について理解し、具体的な活動へと適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>精神専門看護師（CNS）が勤務する臨地において、CNSの6つの役割と機能の実際を主体的に見学、参加する。そして実践を組み合わせた実習を計画、実施し、課題に取り組み、学内の精神看護援助方法の開発演習の活動と組み合わせ総的に評価する。</p> <p>1. 直接ケア： (1) 精神疾患を持つ対象の複雑で高度な精神看護のアセスメントができ、CNSとして拡大した役割の枠組みでケースマネジメントを考えることができる。 (2) 精神科的診断を系統的に整理し明確な語句表現で記述できる。 (3) 機能アセスメント、ケースマネジメント、対象が所属する家族、施設、地域資源のアセスメントに焦点を当てて実践できる。</p> <p>2. 相談：看護者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行い、コンサルティのフィードバックを受ける。</p> <p>3. 教育：実習施設をアセスメントし、ケア向上に必要と考えられる内容について教育プログラムを計画、実施し、フィードバックを受ける。</p> <p>4. 研究：自己の研究分野に関連したケースの分析により、組織的な計画を立案する。</p> <p>5. 調整：所属CNSの組織における役割やポジションを理解し、保健医療福祉関連スタッフおよび機関との間で、必要性に応じて行われる調整活動を見学、参加、あるいは実践する。</p> <p>6. 倫理調整：個人、家族、集団の権利保護にかかわる倫理的な問題や葛藤の解決に関する調整活動を見学、参加、あるいは実践する。</p> <p>7. 課題として提示された施設アセスメントとケーススタディをまとめ、学内発表し、同僚のフィードバックにより考察を深めて提出する。</p> <p>実習場所 CNSが在籍する病院（名古屋第一赤十字病院、共和病院、東尾張病院）</p>	<p>村瀬 智子 原田 真澄 大島 泰子</p>

授業方法

実習

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、教育におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、受講前の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

なし

参考図書

『精神科看護 - 原理と実践 - 』 Stuart , G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/9th] 』
DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編]
医学書院 2014 [493.72/A44/5th]

評価方法

1. 評価表 : 40% :
 - 1) 実習記録、実習ログ、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
 - 2) 最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 課題 - 施設アセスメント評価 (20%)
3. 課題 - ケーススタディ評価 (20%)
4. 学内発表や討論への参加 (20%)

フィードバック

実習記録を確認するとともに、適宜学生と面接を行い、実習における学びについてフィードバックを行う。

その他

精神看護援助方法の開発演習と同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年通年	4単位 (180時間)	選択
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神疾患をもつ対象（児童・青少年・成人・高齢者など）の複雑で高度な精神看護実践について、実践実習を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 入院、救急、外来、開業医やクリニックの第一次ケア、訪問在宅ケアなどの設定において、直接看護ケア（実践）、コンサルテーション（相談）、教育、コーディネーション（調整）、倫理調整、研究支援、および精神療法の実際について理解できる。
2. 1. であげた精神看護実践について、Supervision（以下SVと省略する）を受けながら実践できる。
3. 児童・青少年・成人・高齢者に提供される高度な看護実践ができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>健康状態と精神障がいアセスメントを行い、診断、個人・集団・家族療法を、SVを受けながら提供する。また、児童・青少年・成人・高齢者を対象とするケアの質の改善にむけて、精神保健医療チームの一員としてリーダーシップを発揮して、スタッフの教育・トレーニング・プログラム開発に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直接ケア： <ol style="list-style-type: none"> (1) 担当ケースについて、多職種チームの一員としてケースマネジメントに共同参加できる。 (2) 現行の治療過程のoutcomeを個人・家族・グループ・環境・リエゾン・（心理教育）介入において評価できる。 (3) 臨地において、指導者や同僚との活動、討論、その他の場面で生じる治療的な問題を認識できる。 (4) 担当ケースについて、研究や理論に裏付けられた説明と論議を提供することができる。 2. 相談：臨地において、看護者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行い、フィードバックを受けて評価できる。 3. 教育：ケア向上に必要と考えられる内容について、教育プログラムを計画、実施、評価できる。 4. 研究：臨地において、スタッフや施設の研究支援活動ができる。あるいは、担当ケースの分析により、自己の研究分野に活用できる。 5. 調整：CNSや指導教員のSVを受けながら、必要性に応じて、保健医療福祉関連スタッフおよび機関との間の調整活動を行うことができる。 6. 倫理調整：CNSや指導教員のSVを受けながら、個人、家族、集団の権利保護にかかわる倫理的な問題や葛藤の解決に関する調整活動を行うことができる。 7. 課題として、プロセスレコード（導入時と特定の現象を認識した場面）と、ケーススタディ（初期アセスメント時と、担当ケースの総合ケーススタディ）をまとめ、学内発表する。 <p>実習病院 名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、豊田西病院、もりやま総合心療病院、共和病院、刈谷病院、三重県立こころの医療センター、藤田こころケアセンター、東尾張病院</p>	<p>村瀬 智子 原田 真澄 大島 泰子</p>

授業方法

実習

時間外学習

本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。そのため、受講前の準備に少なくとも1週間程度の時間が必要である。また受講後は、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させてほしい。

教科書

なし

参考図書

『精神科看護 - 原理と実践 - 』 Stuart , G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン〔N20/St9〕
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby〔N20/St9/10th〕

評価方法

1. 評価表 (20%) 評価表 (20%)
 - 1) 実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
 - 2) 最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. ケーススタディ評価 (20%)
3. プロセスレコード評価 (20%)
4. 学内発表や討論への参加 (20%)

フィードバック

実習記録を確認するとともに、適宜学生と面接を行い、実習における学びについてフィードバックを行う。

その他

精神 CNS 機能と役割実習の事前あるいは同時履修とする。また、精神看護援助方法の開発演習とも同時履修が望ましい。

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域生活看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三・小林 尚司・大西 文子・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活するすべての人々の健康増進、あるいは健康上の課題に焦点をあて、看護支援方法について探求する。

【到達目標】

1. 児童から成人期に生じやすい健康上の課題とその背景について説明し、記述することができる。
2. 地域で生活する子どもや高齢者の健康上の課題と援助方法について考察し、記述することができる。
3. 在宅療養者とその家族の健康上の課題と援助方法について考察し、記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域で生活する人々への看護支援の意義および特性	長谷川喜代美
2	地域生活と健康増進 : 地域の環境と健康	森田一三
3	地域生活と健康増進 : 学校保健と児童生徒の健康	森田一三
4	地域生活と健康増進 : 地域における健康づくり活動	森田一三
5	地域生活と健康増進 : 産業ストレスとワークライフバランス	大谷喜美江
6	地域生活と健康増進 : 労働衛生管理と健康管理	大谷喜美江
7	地域で生活する子どもと家族への看護援助方法 医療的ケア・セルフケアを支援する看護の役割	大西文子
8	地域で生活する子どもと家族への看護援助方法 生活の場における看護の役割	大西文子
9	高齢者の生活と健康 : 高齢者の生活と健康上の課題	小林尚司
10	地域で生活する高齢者への看護 : 生活不活発病の予防	小林尚司
11	地域で生活する高齢者への看護 : 認知症の予防	小林尚司
12	地域で生活する高齢者への看護 : 肺炎の予防	小林尚司
13	在宅療養者の生活と健康 : 生活と健康上の課題	長谷川喜代美
14	在宅療養者の生活と健康 : 日常生活上の援助	長谷川喜代美
15	まとめ	森田一三・ 小林尚司

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。(適宜)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(40%)、参加状況(30%)、課題レポート(30%)で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションあるいはディスカッションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域保健統計学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域保健の課題を理解し、効果的な対策を企画し、その実践的な評価を行うためには、統計的解析が必須である。ここでは、統計的推論、測定信頼性と妥当性、因子分析やロジスティック回帰分析などの地域保健の統計的解析に必要な知識とスキルを身につけることを目指す。このために、さまざまなデータについて実際にSPSSを用いて分析をして習得する。

【到達目標】

1. データに適した統計分析手法を決定できる。
2. SPSSを用いてデータの統計分析を行うことができる。
3. 統計分析で得られた結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域保健と統計分析	森田一三
2	統計的推論	森田一三
3	分散分析	森田一三
4	回帰分析	森田一三
5	測定の信頼性	森田一三
6	測定の妥当性	森田一三
7	主成分分析	森田一三
8	因子分析	森田一三
9	クラスター分析	森田一三
10	判別分析	森田一三
11	ロジスティック回帰分析	森田一三
12	対数線形モデル	森田一三
13	生存時間データの解析	森田一三
14	多変量解析法	森田一三
15	まとめ	森田一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。(1時間)
授業中に課題となったことについて復習してきてください。(30分)

教科書

『SPSS による統計データ解析』 柳井晴夫、緒方裕光編著 現代数学社〔417/Y54〕

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度(議論への参加度・貢献度)〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

択共通科目「統計学」を履修していること。選択共通科目「統計学」で扱う統計手法についてSPSSを用いて実施できること。
データを保存するためのUSBメモリ(空き容量は1GB程度あれば充分)を持参すること。

地域生活看護学（地域高齢者ケアシステム論）	1年後期	2単位（30時間）	選択
担当：長谷川 喜代美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活している高齢者の現状と健康問題を理解し、必要とされている看護援助について探求する。
在宅看護の実際について学び、多職種及び住民が一体となった地域ケアシステムを構築する能力を養う

【到達目標】

1. 地域で生活する高齢者の現状と健康上の課題について説明できる。
2. 高齢者の健康問題を明確化し、必要な看護支援について考えることができる。
3. 在宅で行われる看護の特性について述べるができる。
4. 地域で生活する高齢者の課題を明確化し、地域ケアシステムづくりについて考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域における高齢者：高齢者の生活	長谷川喜代美
2	地域における高齢者：健康上の課題	長谷川喜代美
3	地域高齢者の健康問題と看護：身体疾患	長谷川喜代美
4	地域高齢者の健康問題と看護：メンタルヘルス	長谷川喜代美
5	地域高齢者の健康問題と看護：社会生活	長谷川喜代美
6	地域高齢者の健康問題と看護：家族支援	長谷川喜代美
7	地域における高齢者看護：情報収集からアセスメント	長谷川喜代美
8	地域における高齢者看護：看護計画の立案、必要となる看護援助	長谷川喜代美
9	在宅看護の実際：在宅看護の制度	長谷川喜代美
10	在宅看護の実際：看護の役割	長谷川喜代美
11	在宅看護の実際：多職種の連携	長谷川喜代美
12	地域ケアシステム：地域課題の明確化	長谷川喜代美
13	地域ケアシステム：解決策の検討	長谷川喜代美
14	地域ケアシステム：システムづくりと評価	長谷川喜代美
15	地域における高齢者看護の課題	長谷川喜代美

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。（適宜）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（50%）、参加状況（30%）、課題レポート（20%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域生活看護学（高齢者療養看護論）	1年前期	2単位（30時間）	選択
担当：小林 尚司			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

長期間にわたって療養を必要とする高齢者とその家族の看護に必要な専門的知識と技術について学び、老年期の生活をその人らしく送るための看護のあり方を探究する。

【到達目標】

1. 療養を必要とする高齢者の健康問題の実際について説明できる
2. 療養生活を支えるサポートシステムについて説明できる
3. 老年期の生活をその人らしく送るための看護について探求し、記述できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス・老化と老い	小林尚司
2	高齢者の身体的機能の評価	小林尚司
3	高齢者の心理的機能の評価	小林尚司
4	高齢者と生涯発達	小林尚司
5	高齢者を取り巻く保健医療福祉：介護保険制度とケアマネジメント	小林尚司
6	高齢者を取り巻く保健医療福祉：介護サービスと看護	小林尚司
7	高齢者の家族への看護	小林尚司
8	健康問題に応じた療養看護の探求：呼吸・循環機能障害	小林尚司
9	健康問題に応じた療養看護の探求：運動機能障害	小林尚司
10	健康問題に応じた療養看護の探求：感覚・認知機能障害	小林尚司
11	健康問題に応じた療養看護の探求：高齢者に起こりやすい事故	小林尚司
12	在宅・施設における看取り：制度と現状	小林尚司
13	在宅・施設における看取り：介護・医療との連携	小林尚司
14	在宅・施設における看取り：望ましい看護の探求	小林尚司
15	まとめ	小林尚司

授業方法

- 1：講義
- 2～15：講義とプレゼンテーション・討議

時間外学習

予習：該当内容の文献学習、発表準備。（適宜）
復習：講義の内容について、理解できるまで時間をかけて行う。（1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

適宜紹介する。

評価方法

課題（プレゼンテーション30%・レポート40%）、参加状況（30%）を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションと討議に対してその場でフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域生活看護学（認知症ケア論）	1年後期	2単位（30時間）	選択
担当：小林 尚司			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

認知症を持つ高齢者やその家族への看護に必要な専門的知識と技術を学び、認知症を持つ高齢者の生活を支える看護を探究する。

【到達目標】

1. 認知症高齢者とその生活のアセスメントについて理解できる。
2. 認知症高齢者を支えるサポートシステムについて理解できる。
3. 認知症高齢者のより良い生活と、そのための看護について検討し記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	老いと認知症のとらえ方に関する歴史	小林尚司
2	認知症の病態と治療	小林尚司
3	認知症のリハビリテーション・非薬物療法	小林尚司
4	認知症の心理行動症状	小林尚司
5	認知症高齢者における倫理的問題	小林尚司
6	認知症高齢者の主観的な体験	小林尚司
7	認知症高齢者のケアの原則	小林尚司
8	Pearson-Centered Careの概念とケアマッピング	小林尚司
9	認知症高齢者とのコミュニケーション	小林尚司
10	認知症高齢者のアセスメント	小林尚司
11	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林尚司
12	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林尚司
13	認知症高齢者の家族の支援	小林尚司
14	認知症高齢者を看護する看護師の課題	小林尚司
15	まとめ：認知症ケアのエキスパート像	小林尚司

授業方法

- 1～9・13～14：講義
10～12・15：演習

時間外学習

- 予習：該当内容の文献学習、発表準備。（適宜）
復習：講義の内容について、理解できるまで時間をかけて行う。（1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

適宜紹介する。

評価方法

参加状況（30%）、課題（プレゼンテーション30%・レポート40%）を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションおよび討議に対して、その場でフィードバックを行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域生活看護学演習	1年前期	1単位 (30時間)	選択
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域生活看護学領域で、学生が関心のあるテーマ、現象、理論などについて文献検討を行い、自己の研究課題の明確化を図る。

【到達目標】

1. 文献検索および文献検討の方法について述べるができる。
2. 自分で関心のある文献を選択、熟読し、文献の要旨を記述することができる。なお、プレゼンテーションと討議のなかで、英語文献を2編以上含めること。
3. 文献に関する評価を述べるができる。
4. 文献検討より自己の研究課題を記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、英語論文講読の基本	長谷川喜代美、森田一三
2	英語論文講読の方法	森田一三
3	英語論文講読の実際	森田一三
4	論文の構成と読み方	長谷川喜代美
5	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
6	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
7	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
8	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
9	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
10	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
11	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
12	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
13	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
14	学生のプレゼンテーションと討議	長谷川喜代美、森田一三
15	まとめ	長谷川喜代美、森田一三

授業方法

演習

時間外学習

プレゼンテーションの準備および次回授業に向けた修正をする。(適宜)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(50%)、参加状況(30%)、まとめレポート(20%)で評価する。

フィードバック

演習の中で、随時疑問点に回答、解説を行う。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

地域生活看護学演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 長谷川 喜代美・小林 尚司・森田 一三・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域生活看護学演習 での学習をもとに、研究計画書の作成のプロセスを実践的に学ぶ。

【到達目標】

1. 文献検討を行い、自己の研究課題を記述することができる。
2. 研究目的、方法を記述することができる。
3. 研究における倫理的配慮を記述することができる。
4. データ収集に必要な質問項目、インタビューガイドなどを作成することができる。
5. 上記 1 ~ 4 に基づき、研究計画書を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、各自の研究課題を背景、動機とともに発表、討議	長谷川喜代美、 小林尚司、森田 一三、大谷喜美 江
2	研究課題をとりまく文献検討内容の発表、討議	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
3	研究課題をとりまく文献検討内容の発表、討議	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
4	研究課題をとりまく文献検討結果の整理、文章化	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
5	研究課題をとりまく文献検討結果の整理、文章化	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
6	研究目的の明確化及び研究課題に適した研究デザインの検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
7	研究目的の明確化及び研究課題に適した研究デザインの検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
8	研究方法と倫理的配慮に関する検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
9	研究方法と倫理的配慮に関する検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
10	質問項目、インタビューガイドについての検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
11	質問項目、インタビューガイドについての検討	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江

回数	内容	担当者
12	研究計画書の作成	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
13	研究計画書の作成	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
14	研究計画書の発表	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江
15	研究計画書の発表	長谷川喜代美、 小林尚司、 森田一三、 大谷喜美江

授業方法

演習

時間外学習

プレゼンテーションの準備および次回授業に向けた修正をする。（適宜）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（40%）、参加状況（30%）、研究計画書（30%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学概論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害による人々の健康や生活への影響、および国内外の災害救援、災害看護に関する基本的知識を学び、防災・減災・災害救援における看護活動と看護の役割を探究する。

【到達目標】

1. 災害による人々の健康、生活への影響について説明できる
2. 防災・減災・災害対策について説明できる
3. 災害救援活動における看護活動と看護職の役割について考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	がたん、災害、および災害関連概念	小林洋子
2	災害の発生と災害救援の歴史	小林洋子
3	国内外の災害発生状況と被害の変化	小林洋子
4	災害が人々の生活に及ぼす影響	小林洋子
5	災害が人々の健康に及ぼす影響	小林洋子
6	災害における傷病の特徴と災害医療(1)自然災害	花木芳洋
7	災害における傷病の特徴と災害医療(2)人為災害	花木芳洋
8	災害における傷病の特徴と災害医療(3)感染症	小林洋子
9	わが国の災害に関連する法律、防災・減災・災害救援の仕組み	小林洋子
10	救護組織における災害救護の仕組み(日本赤十字社)	小林洋子
11	災害看護と災害看護の対象と特徴	小林洋子
12	災害における看護援助の特徴	小林洋子
13	災害看護の動向と課題	小林洋子
14	災害看護に関する研究の動向(1)災害急性期の看護	小林洋子
15	災害看護に関する研究の動向(2)災害復興期・静穏期の看護	小林洋子

授業方法

第1回～第13回：講義 第14回～第15回：発表・討議

時間外学習

- ・授業受講、および発表の準備をする(適宜)
- ・授業後、自己の課題を明らかにし、文献等を活用し授業の理解を深める(適宜)

教科書

特に指定しない。 授業中、適宜資料を配布する

参考図書

- ・『原発災害とアカデミズム 福島大・東大からの問いかけと行動』福島大学原発災害支援フォーラム(2013) 合同出版〔543.5/F84〕
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕
- ・『東日本大震災 石巻災害医療の全記録』石井正(2012) 講談社〔498.89/I75〕
- ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012)日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
- ・『災害社会学入門』大矢根淳編(2007) 弘文堂〔369.3/Sa17/1〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2013) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/3rd〕
- ・『大災害と法』津久井進(2012) 岩波新書〔080/I95/1375〕
- ・『未曾有と想定外』畑村洋太郎(2011) 講談社現代新書〔369.31/H41〕
- ・『新版世界と日本の赤十字』枅居孝 森正尚(2014)東信堂

評価方法

レポート(80%)、課題への取り組み・発表(20%)を合計して算出されます。

フィードバック

- ・授業中、適宜質問に応える
- ・発表に、その場で助言する

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害と法律・制度	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子・花木 芳洋・山崎 栄一			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

国内外の災害に関する法律や制度を学び、災害看護活動における法律や制度の活用と課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害に関する法律，制度を理解する。
2. 災害看護に関連する法律，制度について災害看護の実践場面における活用を考えられる。
3. 災害看護に関連する法律や制度の視点から現在の災害対策の課題を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	がたん 災害に関する法律と制度	小林洋子
2	法体系と制度	山崎栄一
3	赤十字の災害看護の歴史	小林洋子
4	赤十字の災害看護における法律・制度上の課題	小林洋子
5	防災・減災に関する法律と制度	山崎栄一
6	防災・減災に関する法律と制度上の課題	山崎栄一
7	災害発生時に関する法律と制度	山崎栄一
8	災害発生時に関する法律と制度上の課題	山崎栄一
9	被災者支援に関する法律と制度	山崎栄一
10	被災者支援に関する法律と制度上の課題	山崎栄一
11	災害復興に関する法律と制度	山崎栄一
12	災害復興に関する法律と制度上の課題	山崎栄一
13	東南海地震など大規模災害に関する法律と制度	花木芳洋
14	東南海地震など大規模災害に関する法律と制度上の課題	小林洋子
15	まとめ	小林洋子

授業方法

第1回～第15回：講義・討議

時間外学習

- ・災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする(適宜)。
- ・受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し授業の理解を深める(適宜)。

教科書

適宜、授業中に資料を配布する

参考図書

- ・『自然災害と被災者支援』山崎栄一(2013)日本評論社
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010)明石書店〔369.3/H48〕
- ・『大災害と法』津久井進(2012)岩波新書〔08/195/1375〕
- ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012)日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
- ・『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010)南山堂〔N105.51/027〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2013)Springer Publishing Company〔N105.51/V53/3rd〕

評価方法

レポート(80%) 授業への参加態度(20%)を合計して算出されます。

フィードバック

- ・授業中に質問に答える
- ・討議において、助言、質問に答える

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学対象論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害により心身や生活に影響を受けた人々を個として、集団として理解し、災害サイクルにそってどのような健康上の問題があるかを考察する。

【到達目標】

1. 災害看護の対象に関連する理論を学ぶ。
2. 災害から影響を受ける人々、特に要配慮者の特徴を理解できる。
3. 被災者の生活環境の特徴と、その特徴がおよぼす被災者の健康問題を理解できる。
4. 災害救援活動による災害救援者への影響を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：災害看護の対象と健康問題	小林洋子
2	被災者の理解に関連する理論： 危機理論、適応理論、ストレスコーピング理論	小林洋子
3	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (1)	小林洋子
4	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (2)	花木芳洋
5	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (3)	花木芳洋
6	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (4)	小林洋子
7	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (1)	小林洋子
8	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (2)	長尾佳世子
9	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (3)	長尾佳世子
10	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (4)	長尾佳世子
11	被災者と生活する地域の文化 (1) 人々の生活と文化	長尾佳世子
12	被災者と生活する地域の文化 (2) 異文化における災害看護	長尾佳世子
13	災害救援活動に伴う災害救援者への影響と健康問題 (ストレス) (1)	長尾佳世子
14	災害救援活動に伴う災害救援者への影響と健康問題 (感染等) (2)	長尾佳世子
15	まとめ、災害看護の対象特性に関する討議	小林・長尾

授業方法

第1回～5回：講義、第6回：発表・討議、第7回～8回：講義、第9回～10回：発表・討議

第11回～14回：講義、第15回：討議

時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度) 受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

- 『災害の襲うとき：カタストロフィーの精神医学』 ラファエル, B (1995) みすず書房 [369.3/R17]
- 『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/027]
- 『3・11 福島から東京へ 広域避難者たちと歩む』 東京災害支援ネット編 (2013) 山吹書店 [369.36/To46]
- 『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]
- 『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]
- 『アンダーグラウンド』 村上春樹 (1997) 講談社 [916/Mu43]

評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学援助論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子・小原 真理子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

救援のあらゆる場において、災害サイクルに応じて災害の影響を受けた人々、およびその生活状況をアセスメントし、看護援助を必要とする人々への看護援助を考察する。さらに看護専門職として、災害救援に関わる専門職や関連機関と協働し効果的に救援活動が実践できる方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 災害時における医療・看護の基本的対応を理解できる
2. 災害サイクル各期において看護の対象を理解した看護の実践を理解できる
3. 救護所、避難所、病院における救護体制の設営・運営を理解できる
4. 災害時救援に関わる他専門職、関連機関との連携・協働の方法を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害サイクルと災害看護	小林 洋子
2	体系的対応：Command and Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transportation (CSCATTT)	小原 真理子
3	災害時の情報収集・発信	小原 真理子
4	災害時救援に関わる他専門職、関連機関との連携・協働と課題	小原 真理子
5	被災者、救援者とのコミュニケーション(こころのケア)と課題	長尾 佳世子
6	被災病院における救護体制設置と看護活動と課題	長尾 佳世子
7	救護所の設営・運営と看護活動と課題	長尾 佳世子
8	避難所の設営・運営と看護活動と課題	小原 真理子
9	在宅被災者への看護活動と課題	小林 洋子
10	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(1)	小林 洋子
11	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(2)	小林 洋子
12	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(3)	小林 洋子
13	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(4)	小林 洋子
14	災害サイクル各期の災害救援者への看護と課題	小林 洋子
15	まとめ、災害看護の援助方法に関する討議	小林・長尾

授業方法

第1回～5回：講義・討議、第6回～9回：発表・討議、第10回～15回：講義・討議

時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度) 受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

『スフィア・プロジェクト 人道憲章と人道対応に関する最低基準』 Sphere Project
編 難民支援協会訳 (2012) 難民支援協会 [R0.11/Sp4/'11]
『東日本大震災とこころのケア』 浅野弘毅 (2011) 批評社 [369.31/Se19/64]
『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』 大災害と国際協力研究会 (2013)
佐伯印刷 [369.3/D14]
『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]
『事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア』 黒田裕子 (2012) 日本看護協会出版
会 [N10.51/Ku72]
『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/027]
『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012)
日本看護協会出版会 [N05.9/N77/'12]
『災害時の健康支援 行動科学からのアプローチ』 災害行動科学研究会 (2012) 誠信書
房 [498.89/Sa17]
『緊急対応ハンドブック 日本語版』 UNHCR (2000) UNHCR 日本・韓国地域事務所
[369.38/Ko49/2nd] <http://www.unhcr.or.jp/info/handbook.html>
『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and
radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co.
2013 [N10.51/V53/3rd]

評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学教育・管理論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期における病院や地域における住民，学生，看護職を対象にした防災・減災に関する教育の方法，および防災・減災体制のマネジメントを探究するとともに，災害に関する教育やマネジメントの重要性と看護職の役割を考察する．

【到達目標】

- 1．静穏期における防災・減災に関する教育の方法を理解できる
- 2．静穏期における病院や地域における防災・減災体制のマネジメントを理解できる
- 3．災害発生時の施設，および救援活動におけるマネジメントを理解できる
- 4．災害における看護活動と看護職の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	災害看護における教育とマネジメント	小林洋子
2	防災・減災に関する教育の変遷と課題	小林洋子
3	自助・共助を促進する防災・減災教育	小林洋子
4	住民を対象にした防災・減災教育の方法(計画・実施・評価)	小林洋子
5	災害時要援護者を対象にした防災・減災教育	小林洋子
6	救援要員を対象にした防災・減災，救援活動に関する教育の現状と課題	小林洋子
7	救援要員を対象にした防災・減災，救援活動に関する教育(計画)	小林洋子
8	救援要員を対象にした防災・減災，救援活動に関する教育(実施・評価)	小林洋子
9	災害救援の教育に関する看護基礎教育と看護継続教育の連携	小林洋子
10	施設における防災・減災に関するマネジメントの変遷と課題	小林洋子
11	施設における防災・減災に関するマネジメントの実際	小林洋子
12	救護班の災害救援活動における看護職によるマネジメント(1)	小林洋子
13	救護班の災害救援活動における看護職によるマネジメント(2)	小林洋子
14	救護員の教育・マネジメントに関する研究の動向	小林洋子
15	まとめ，災害に関する教育活動，管理活動と看護職の役割に関する討議	小林洋子

授業方法

第1回～第6回：講義・討議 第7回～第8回：発表・討議 第9回～第15回：講義・討議

時間外学習

災害，災害看護や科目に関する情報をえるとともに，関連文献を読み受講の準備をする．受講後は，学習上の自己の課題を明らかにし，必要な文献等を活用し，授業の理解を深める．

教科書

授業中，適宜資料を配布する

参考図書

- 『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010) 南山堂〔N105.51/027〕
『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2013) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/3rd〕
『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕

評価方法

レポート(80%) 授業への参加(20%)を合計して算出する

フィードバック

・討議・発表時にその場で助言、質問に応える

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害急性期を想定した災害救護訓練に準備の段階から評価まで参加し、医療・看護援助の提供方法、他職種、関連部門、関連組織との連携のありかたを学ぶ。

【到達目標】

1. 災害急性期における医療・看護援助の提供方法を説明できる。
2. 災害急性期に活動する他職種、関連部門、関連組織との連携方法を説明できる。
3. 災害急性期の救援活動における倫理的対応を説明できる。
4. 災害急性期における救援活動、および関連部門、組織との連携における看護職の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：（授業の進め方等）、災害救護訓練の概要、参加方法	小林・長尾
2	災害救護訓練の準備に参加	小林・長尾
3	災害救護訓練の準備に参加	小林・長尾
4	災害救護訓練の準備に参加	小林・長尾
5	災害救護訓練の準備に参加	小林・長尾
6	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
7	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
8	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
9	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
10	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
11	災害救護訓練の評価に参加	小林・長尾
12	災害救護訓練の評価に参加	小林・長尾
13	救援活動における倫理的対応、看護職の役割と課題	小林・長尾
14	救援活動における倫理的対応、看護職の役割と課題	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

授業方法

第 1 回：講義、第 2 回～ 12 回：演習、第 13 回～ 15 回：講義
演習の進め方

1. 演習する施設を選択し、決定する
2. 施設の救護訓練準備に参加する
3. 施設の救護訓練、および評価に参加する
4. 1～3を通して災害救護訓練における看護職の役割を考察する

時間外学習

災害、災害看護や科目に関連する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。（1時間程度）受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。（1時間程度）

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会（2012）
日本看護協会出版会〔N05.9/N77/'12〕

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監（2010） 南山堂〔N10.5/027〕

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013〔N10.51/V53/3rd〕

『自然災害と復興支援』 林勲男（2010） 明石書店〔369.3/H48〕

評価方法

授業への参加（20%）、課題への取り組み（30%）、レポート（50%）

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子・小原 真理子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

防災・減災教育について教育計画を立案し、対象に応じた方法や教材の検討、実際の教育活動、評価を通して、防災・減災教育のあり方と看護職の役割を考察する。

【到達目標】

1. 対象に応じた防災・減災教育の計画を立案できる。
2. 防災・減災教育に対象に応じて適切な方法や教材を選択できる。
3. 教育計画に基づき、防災・減災教育を実施できる。
4. 実施した防災・減災教育を評価し、防災・減災教育のあり方と看護職の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：（授業の進め方等）	小林 洋子
2	防災・減災教育の対象に応じた教育計画	小林・長尾
3	防災・減災教育の対象に応じた教育計画	小林・長尾
4	防災・減災教育の対象に応じた教育計画の教材	小林・長尾
5	防災・減災教育の対象に応じた教育計画の教材	小林・長尾
6	防災・減災教育の対象に応じた教育計画の教材	小林・長尾
7	防災・減災教育計画の立案	小林・長尾
8	防災・減災教育計画の立案	小林・長尾
9	防災・減災教育計画の立案	小林・長尾
10	防災・減災教育計画の立案	小林・長尾
11	防災・減災教育の実施・評価	小林・長尾・小原
12	防災・減災教育の実施・評価	小林・長尾・小原
13	防災・減災教育と看護職の役割と課題	小林・長尾
14	防災・減災教育と看護職の役割と課題	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

授業方法

第1回～2回：講義、第3回～10回：演習、第13回～15回：講義
演習の進め方

1. 教育の対象を決定する
2. 教育目的・目標を決定する
3. 教育目的・目標に基づき教育計画を作成する
4. 教育計画に基づき、教材を工夫し、60分の教育を計画する
5. 模擬対象に対して、教育計画に基づき教育を実施する
6. 実施した教育について、模擬対象、教員からの反応を得て評価する

時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報、活動、情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。

（1時間程度）

受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。（1時間程度）

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012)
日本看護協会出版会 [N05.9/N77/'12]
『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.5/027]
『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and
radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co.
2013 [N10.51/V53/3rd]
『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

評価方法

授業への参加 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学演習	2年前期	1単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

病院，行政，地域における防災・減災計画の作成，災害救援活動におけるネットワークと他専門職や関連機関との連携を検討し，防災・減災，および救援活動におけるマネジメントと看護職の役割を考察する．

【到達目標】

- 1．病院，行政，地域における防災・減災計画を説明できる
- 2．病院，行政，地域における防災・減災に関わる人材の組織化と役割を説明できる
- 3．病院，行政，地域における防災・減災，災害発生時の情報の収集と分析，発信について説明できる
- 4．病院，行政，地域におけるネットワークと連携について説明できる
- 5．防災・減災，災害救援活動における看護活動と看護職の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 災害看護とマネジメント	小林洋子
2	病院，行政，地域の防災・減災計画	小林洋子
3	病院，行政，地域の防災・減災計画	小林洋子
4	病院，行政，地域の防災・減災計画	小林洋子
5	防災・減災計画と課題，発表と討議	小林洋子
6	防災・減災計画と課題，発表と討議	小林洋子
7	災害救護活動における病院，行政，地域のネットワークと他専門職，関連機関との連携，情報の収集と分析，発信	小林洋子
8	災害救護活動における病院，行政，地域のネットワークと他専門職，関連機関との連携，情報の収集と分析，発信	小林洋子
9	災害救護活動における病院，行政，地域のネットワークと他専門職，関連機関との連携，情報の収集と分析，発信	小林洋子
10	病院，行政，地域におけるネットワークと連携，情報収集・発信の課題，発表と討議	小林洋子
11	病院，行政，地域におけるネットワークと連携，情報収集・発信の課題，発表と討議	小林洋子
12	病院，行政，地域におけるネットワークと連携，情報収集・発信の課題，発表と討議	小林洋子
13	防災・減災，災害救援活動における看護活動と看護職の役割	小林洋子
14	防災・減災，災害救援活動における看護活動と看護職の役割	小林洋子
15	まとめ	小林洋子

授業方法

第1回：講義 第2回～第4回：演習 第5回～第6回：発表・討議 第7回～第10回：演習
第11回～第12回：発表・討議 第14回～第15回：講義・討議

時間外学習

災害、災害看護や科目に関連する情報をえるとともに、関連文献を読み演習に備える。受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。

教科書

特に指定しない

参考図書

『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010) 南山堂〔N105.51/027〕
『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2013) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/3rd〕
『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕

評価方法

レポート(60%) 課題への取り組み(30%) 授業参加態度(10%)を合計して算出されます

フィードバック

授業時、発表時に助言、質問に応える

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学演習	1年後期	1単位 (30時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害看護に関する研究文献の検索方法、入手方法を学び、入手した文献のクリティークを通して、自己の研究課題を明確にするとともに研究方法を検討し、修士論文研究計画書の作成を学ぶ。

【到達目標】

1. 研究文献を検索し、入手できる。
2. 研究文献のクリティークを通して、自己の研究課題を明確にできる。
3. 自己の研究課題に応じた研究方法を検討できる。
4. 自己の研究課題に基づき、研究計画書が作成できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：（授業の進め方等）、災害看護に関する研究文献のクリティーク	小林 洋子
2	関心あるテーマに関する文献をクリティークする	小林・長尾
3	関心あるテーマに関する文献をクリティークする	小林・長尾
4	関心あるテーマに関する文献をクリティークする	小林・長尾
5	研究課題の検討	小林・長尾
6	研究課題の検討	小林・長尾
7	研究課題の検討	小林・長尾
8	研究課題の検討	小林・長尾
9	研究方法の検討	小林・長尾
10	研究方法の検討	小林・長尾
11	研究方法の検討	小林・長尾
12	研究方法の検討	小林・長尾
13	研究計画書の作成	小林・長尾
14	研究計画書の作成	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

授業方法

- 第1回：講義、第2回～14回：発表・討議、第15回：講義・討議演習の進め方 1. 授業や実践の経験から範囲を決めて、文献を検索する。
2. 授業において討議し、助言を得ながら研究計画書を作成する。

時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報や関連文献を読み、自己の研究課題に関心を向ける。
（適宜）
受講後は、必要な文献等を活用し、研究課題、研究計画書の理解を深める。（適宜）

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

- 『バーズ&グローブ看護研究入門 - 実施・評価・活用 - 』 Burns,Grove 著 黒田裕子他監訳（2007）エルゼビア・ジャパン〔N07/B43〕
『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema,TG Springer Pub Co. 2013〔N10.51/V53/3rd〕
『自然災害と復興支援』 林勲男（2010）明石書店〔369.3/H48〕

評価方法

授業参加度（20％）、課題への取り組み（30％）、レポート（50％）

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学実習	1・2年通年	1単位 (45時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期、復興期において、病院、行政、地域における防災・減災体制および災害に備えた看護活動、看護援助方法を参加観察し、防災・減災体制や災害に備えた看護活動を考察する。

【到達目標】

1. 静穏期、復興期において、病院、行政、地域における防災・減災計画、体制が説明できる。
2. 静穏期、復興期において、災害に備えた看護活動が説明できる。
3. 静穏期、復興期において実施される防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加できる。
4. 実習施設所在地に災害発生時、関連機関との連携を説明できる。
5. 実習施設所在地以外に災害が発生した際の救援体制を説明できる。
6. 静穏期、復興期、および災害が発生した際の看護職の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>1. 実習内容：</p> <p>1) 実習施設における防災・減災計画、体制、看護活動について説明を受ける。</p> <p>2) 実習施設における防災・減災計画に基づく、備えを見学する。</p> <p>3) 日常の業務と災害への備えの関連、および職員の協働体制を参加観察する。</p> <p>4) 防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加する。</p> <p>5) 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する。</p> <p>2. 実習施設：</p> <p>履修学生が、実習目的・目標に基づき実習施設を選択する。</p> <p>3. 実習の進め方</p> <p>1) 履修学生は、自己の実習目的・目標に基づき実習施設を選定する。</p> <p>2) 1) について、教員の助言を得て実習施設を決定する。</p> <p>3) 実習目的・目標に基づき実習指導者と打ち合わせを行い、実習する。</p> <p>4) 実習中、実習目標の達成を評価し、実習指導者と討議しながら実習をすすめる。</p> <p>5) 実習終了時、実習目標の達成を評価し、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方に関する課題を明らかにする。</p>	小林・長尾

授業方法

実習

時間外学習

授業の復習、および実習に関する文献を読み実習の準備をする。実習後は、自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、実習の体験、学びを深める。

教科書

なし

参考図書

適宜紹介する。

評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

フィードバック

学生のカンファレンスの場、およびレポートにフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

災害看護学実習	1・2年通年	1単位 (45時間)	選択
担当: 長尾 佳世子・小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

自己の研究課題に基づき、実習施設における看護活動に参加し、研究課題の焦点化、および研究方法を探索する。

【到達目標】

1. 自己の研究における課題を明確にできる。
2. 研究課題に基づき、研究方法を明確にできる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習内容： 1) 実習施設において、自己の研究課題に関連する事柄、現象、対象について参加観察する。 2) 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する 2. 実習施設： 大学院生の研究課題に応じて大学院生が選択決定する。 3. 実習の進め方 1) 大学院生は自己の研究課題に基づき実習施設を選定する。 2) 自己の研究課題に関連する事柄、現象、対象について倫理的な配慮をして実習する。 3) 必要な場合、施設の倫理審査を受審する。	小林・長尾

授業方法

実習

時間外学習

災害看護に関する情報、活動、情報をえるとともに、関連文献を読み自己の研究課題を明確にし、実習に備える。実習後は、自己の研究課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、自己の研究計画を発展させる。

教科書

適宜、資料を配布する。

参考図書

『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77'12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/027]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

フィードバック

学生のカンファレンスの場、およびレポートにフィードバックする。

その他

履修を希望する学生は、履修登録前に必ず学務課に相談すること。

課題研究	2年通年	2単位 (60時間)	選択
担当: 野口 眞弓・大西 文子・村瀬 智子・原田 真澄・長田 知恵子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

学生が興味をもつ特定の重要な現象、援助技術、理論及びその活用方法について、集中的な文献検討を行う。そしてこれまでの研究結果を批判的に吟味することで、特定の重要な現象を解釈し、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行う。さらに、これらの文献検討をもとに、実習を通じて、特定の研究課題を見だし、臨地実践の知識を深め、蓄積するような、あるいは援助法の開発や評価など臨地における研究に重点を置き、論文としてまとめることができる能力を養う。

【到達目標】

1. 学生が興味をもつ特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などを集中的な文献検討により行うことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 臨地実践の知識を深め、蓄積するような、あるいは援助法の開発や評価など臨地における研究を論文としてまとめることができる。
4. 看護研究に必要な倫理的配慮をもって研究を実施することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	文献の批判的検討	担当教員全員
2	研究課題の検討 探求したい領域の現象について研究課題となりうるかの検討	
3~6	研究方法の検討 探求したい現象についての研究デザインについての検討 探求したい現象についてのデータ収集方法の検討 探求したい現象についての研究での倫理的配慮の検討 探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討（質問項目作成、インタビューガイド作成など）	
7~8	研究計画書の作成 文献検討の文章化、研究方法の文章化、研究の倫理的配慮の文章化、アンケート項目の作成あるいはインタビューガイドの作成	
9 ~ 10	研究対象者、研究協力施設との調整	
11 ~ 12	データ収集・整理	
13 ~ 22	データ分析 研究デザインに応じたデータ分析	
23 ~ 30	課題研究論文の作成 方法の文章化、結果の文章化、考察の文章化、序論の文章化、要約の文章化	
領域・分野により、進行・内容を変更する場合がある。		

授業方法

演習

時間外学習

指導内容を踏まえ、計画的に研究を遂行する。（適宜）

教科書

各担当教員により提示する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

課題研究論文審査

フィードバック

研究計画書審査結果及び論文審査結果をフィードバックする。

その他

専攻する領域・分野の課題研究以外の科目が履修済みあるいは履修中であること。授業内容及び計画については、担当教員と具体的に検討して進行する。
研究計画書の審査を受ける必要がある。

特別研究	2年通年	6単位 (180時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい・松浦 正子・山田 聡子・東野 督子・石黒 千映子・野口 眞弓・大西 文子 ・村瀬 智子・原田 真澄・長谷川 喜代美・小林 尚司・森田 一三・大谷 喜美江・小林 洋子・ 中島 佳緒里・長田 知恵子・岡田 摩理・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

文献レビューやフィールドに出ながら、重要な課題を明らかにし、各自で探求すべき課題を選定する。選定した課題に相応しい研究方法を選び、研究が実施可能なレベルの研究計画書を作成する。研究計画に基づき、課題の解明を試み、論文としてまとめる能力を養う。

【到達目標】

1. 各自の研究テーマを明らかにし、研究計画書を作成することができる。
2. データ収集および分析に必要な手法を理解し、実施することができる。
3. 修士論文を作成することができる。
4. 看護研究に必要な倫理的配慮をもって研究を実施することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1~4	文献の批判的検討	担当教員全員
5~8	研究課題の検討 探求したい現象について研究課題となりうるかの検討	
9~14	研究方法の検討 探求したい研究デザインについての検討 探求したい現象についてのデータ収集方法の検討 探求したい現象についての研究での倫理的配慮の検討 探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討 (質問項目作成、インタビューガイド作成など)	
15~34	研究計画書の作成 文献検討の文章化、研究方法の文章化、研究の倫理的配慮の文章化、アンケート項目の作成あるいはインタビューガイドの作成	
35~38	プレテスト	
39~42	研究対象者、研究協力施設との調整	
43~50	データ収集・整理	
51~66	データ分析 研究デザインに応じたデータ分析	
67~88	修士論文の作成 方法の文章化、結果の文章化、考察の文章化、序論の文章化、要約の文章化	
89・90	修士論文の発表と評価	

授業方法

演習

時間外学習

指導内容を踏まえ、計画的に研究を遂行する。(適宜)

教科書

各担当教員により提示する。

参考図書

授業中に適宜紹介する。

評価方法

特別研究論文審査

フィードバック

研究計画書審査結果および論文審査結果をフィードバックする。

その他

専攻する領域・分野の特別研究以外の科目が履修済みあるいは履修中であること。授業内容及び計画については、担当教員と具体的に検討して進行する。
研究計画書の審査を受ける必要がある。

看護理論	1年前期	2単位 (30時間)	必修
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

諸学問の知識を基盤とした看護知識体系の構造とその意義を理解し、より科学的で卓越した看護実践を目指して理論やモデルを根拠として活用することや、卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考することができる。

【到達目標】

1. 看護知識体系の構造とその意義を説明できる。
2. 看護理論または看護モデルを選択し、その看護理論または看護モデルについて概要を説明し、評価できる。
3. 選択した看護理論または看護モデルを事例に適用し、卓越した看護実践について根拠をもって説明できる。
4. 卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護知識の体系化とその意義, 理論と理論の適用範囲	村瀬 智子
2	看護モデル・理論開発の系譜	村瀬 智子
3	主要な看護モデル・理論の特徴と事例への適用 各看護理論または看護モデル(1~10)の背景、前提、主要概念の定義等の概説と理論評価及び事例への適用について、学生の選択学習による発表と討論を行う。この選択学習の過程において、卓越した看護実践について根拠をもって説明すると共に、卓越した看護実践に存在する臨床知を明らかにするための理論構築を行う必要性について論考できる。 1. ナイチンゲール: 創まりの看護理論『看護覚え書』	村瀬 智子
4	2. ヘンダーソン: 人間のニードと看護の定義	村瀬 智子
5	3. ペプロー: 人間関係の看護論	村瀬 智子
6	4. トラベルビー: 人間対人間の関係モデル	村瀬 智子
7	5. ロイ: 人と環境の適応モデル	村瀬 智子
8	6. オレム: セルフケア不足理論	村瀬 智子
9	7. ロジャーズ: ユニタリ・ヒューマン・ビーイングスの科学	村瀬 智子
10	8. M. ニューマン: 意識の拡張としての健康の理論	村瀬 智子
11	9. ワトソン: ケアリングの哲学と科学	村瀬 智子
12	10. レイニンガー: 文化ケアの多様性と普遍性	村瀬 智子
13	その他の中範囲・小範囲理論と看護理論の評価	村瀬 智子
14	理論の研究への活用: 理論的枠組み、調査票作成	村瀬 智子
15	理論構築の方法・まとめ	村瀬 智子

授業方法

1・2回及び13回～15回は講義と討議を行い、3回～12回は学生のプレゼンテーション及び演習を行う。

時間外学習

看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として成り立っています。それらを含めて看護理論を理解するためには、理論書を読むことが必要です。そのため、理論の概要を理解するだけでも、予習・復習を含めて1講義につき2週間程度の時間外学習は必要になります。

教科書

『看護理論家の業績と理論評価』筒井真由美 医学書院

参考図書

『看護理論家とその業績』第3版 A. M. トメイ & M. R. アリグット編著（都留伸子監訳）医学書院 2004 [N01/Ma52/3rd]
『フォーセット 看護理論の分析と評価』J. フォーセット著（太田喜久子，筒井真優美監訳）医学書院 2008 [N01/F16]
『看護における理論構築の方法 4th ed.』 L. O. Walker & K. C. Avant著（中木高夫，川崎修一訳）医学書院 2008
『Strategies for Theory Construction in Nursing 6th ed.』 L. O. Walker & K. C. Avant著，Pearson Health Science, 2019

評価方法

課題レポート(40%)、プレゼンテーション (20%)、グループワーク(20%)、課題の提出(10%)、受講態度(10%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

看護倫理	1年後期	1単位 (15時間)	必修
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護専門職者として人々の尊厳を保つために必要な倫理に関する基礎知識を学修し、事例をもとに倫理調整のプロセスを探究する。

【到達目標】

1. 看護倫理の基盤となる概念が理解できる。
2. 医療及び看護における倫理に関する歴史の変遷が理解できる。
3. 看護実践における倫理的課題と、その検討方法が理解できる。
4. 事例に基づき倫理調整のプロセスを考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護倫理の基盤となる概念：尊厳、アドボカシー、インフォームドコンセント、守秘義務とプライバシー	山田 聡子
2	医療・看護倫理の歴史の変遷 徳の倫理と原則の倫理、看護者の倫理綱領	山田 聡子
3	看護実践における倫理的課題：母性・小児領域	山田 聡子
4	看護実践における倫理的課題：老年・精神領域	山田 聡子
5	看護実践における倫理的課題：救急・終末期の場面	山田 聡子
6	倫理的課題の検討方法：4ステップモデル、臨床倫理4分割法	山田 聡子
7	事例検討：関係者間（医療者、患者-家族）の意見の不一致	山田 聡子
8	事例検討：ジレンマを抱える看護師	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2・6回、プレゼンテーション・討議：第3-5、7-8回

時間外学習

プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
レポート課題の作成に向けた準備を進める（適宜）。
関連事項を学習し討議に備える（適宜）。
初回講義時にプレゼンテーション課題とレポート課題を提示する。

教科書

『看護師の倫理調整力』鶴若麻理・長瀬雅子編 日本看護協会出版会

参考図書

『看護倫理学-看護実践における倫理的基盤』松木光子編 ニューベルヒロカワ
『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』小西恵美子編、南江堂
『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』Jonsen 他著
赤林朗他訳 新興医学出版社
この他、随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30%）、討議参加状況（20%）、レポート（50%）

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

赤十字と看護	1年後期	2単位 (30時間)	必修
担当: 小林 洋子・大川 四郎			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

赤十字の看護の歴史を通して歴史の中にある看護師の養成や活動を探求し、赤十字の看護師が果たした役割とその背景を学ぶ。さらにさまざまな立場にある人々のあらゆる健康レベルに応じた看護の実践に赤十字の基本原則を基盤とした赤十字の看護がどのように寄与することができるのか考察する。

【到達目標】

1. 赤十字の看護の歴史から看護師養成の背景と目的を理解できる。
2. 赤十字の看護の歴史にある看護活動から看護師の役割を理解できる。
3. 赤十字の基本原則および国際的な枠組みから赤十字を理解できる。
4. 赤十字の活動と国際人道法の関係を理解できる。
5. 赤十字の基本原則を基盤とした赤十字の看護について考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 赤十字と日常生活とのつながり	小林・大川
2	赤十字の創設 - 赤十字国際委員会の発足とジュネーヴ条約	大川 四郎
3	博愛社の創設 - パリ・ウィーン両万博における佐野常民と赤十字パビリオンとの出会い、岩倉遣欧使節団に対するスイス側からの働きかけ	大川 四郎
4	博愛社から日本赤十字社への改組 - 日本政府によるジュネーヴ条約調印・批准	大川 四郎
5	日本赤十字社における看護師の養成 - 看護人 (= 男性看護師) の養成、救護看護婦養成の開始とその根本方針	大川 四郎
6	日本赤十字社における戦時救護活動(1) - 日清戦争、日露戦争	大川 四郎
7	日本赤十字社における戦時救護活動(2) - 第一次世界大戦、第二次世界大戦	大川 四郎
8	1949年のジュネーヴ条約大改正 - 両大戦の経験に依拠	大川 四郎
9	国際人道法の成立 - ジャン・ピクテと赤十字基本原則	大川 四郎
10	国際人道法の拡大 - ジュネーヴ条約第一追加議定書、同第二追加議定書	大川 四郎
11	日本赤十字社の平時の活動：安全講習，医療・福祉事業，血液事業	小林 洋子
12	日本赤十字社の平時の活動：災害救護，国際救援活動，ボランティア	小林 洋子
13	日本赤十字社における平時の活動：看護師養成	小林 洋子
14	災害救護、国際救援活動における看護実践と行動規範	小林 洋子
15	平時の看護実践と行動規範	小林 洋子

授業方法

第1回～10回：講義、第11回～15回：講義、および関連資料に基づき発表・討議

時間外学習

- ・ 授業テーマに関する予習(教科書の指定箇所を読む)と復習を適宜行い、各授業への参加および発表・討議に参加する準備を行う。
- ・ 国内外の人道や、国際人道法、赤十字に関するニュースに関心を払い把握する。

教科書

『戦争と国際人道法 -その歴史と赤十字のあゆみ-』井上忠男著 東信堂 2015年 [R0.12/157]

参考図書

- 『日本赤十字社と人道援助』黒沢文貴 河合利修共編 東京大学出版会 2009年〔R1.02/Ku76〕
- 『新版 世界と日本の赤十字 - 世界最大の人道機関の活動』梶居孝、森正尚共著。東信堂 2014年〔R0.7/Ma67〕
- 『ドクター・ジュノーの戦い』ジュノーノ丸山幹正訳1981年 勁草書房〔R0.2/J96〕
- 『赤十字標章の歴史 - “人道のシンボル”をめぐる国家の攻防』フランソワ・ブニヨン著 井上忠男訳 東信堂 2012年〔R0.11/B85〕
- 『解説 赤十字の基本原則 - 人道機関の理念と行動規範 第2版』ジャン・ピクテ著 井上忠男訳 2010年 東信堂〔R0.1/P65/2nd〕
- 『赤十字と国際人道法』日本赤十字社国際部(2016), 日赤サービス
- 『新版 国際人道法』藤田久一著 有信堂 2003年〔R0.12/F67〕
- 『医師・看護師の有事活動マニュアル 医療関係者の役割と権利義務』井上忠男著 東信堂 2011年〔394/I57/2nd〕
- 『戦争と人道援助 - 戦争の被災をめぐる人道の政治』上野友也著 東北大学出版会 2012年〔319/Ka37〕
- 『戦争と看護婦』川嶋みどり、川原由香里、山崎祐二、吉川龍子共著 図書刊行会 2016年〔N02.9/Ka37〕
- 『紛争地の看護師』白川優子著 小学館 2018年〔329.36/Sh83〕
- 『ナイチンゲール 神話と真実』ヒュー・スモール著 田中京子訳 2003年 みすず書房〔N02.8/N71〕
- 『救護体験記 60.8.12日航機墜落事故現場から』日本赤十字社新興部報道課 編 日本赤十字社 1996年〔R1/02/N77〕
- From Solferino to Tsushima- History of the International Committee of the Red Cross, vol.1, by Boisser(pierre), Henry Dunant Institut, Geneva, 1985〔R02/H76/1〕
- From Sarajevo to Hiroshima- History of the International Committee of Rd Cross, vol.2, by Durand (Andre), Henry Dunant Institut, Geneva,1984〔R02/H76/2〕
- Nightingale (Florence), “The Crimean War”, vol.14, in “The Collected Works of Florence Nighingale”, edited by Lynn McDonald, Wilfrid Laurier University Press, Waterloo (Canada), 2010〔NO 2.8/N71/14〕
- Nightingale (Florence), “Florence Nighingale on wars and the war office”, vol.15, in “The Collected Works of Florence Nighingale”, 2011〔NO 2.8/N71/15〕
- Nightingale (Florence), “Florence Nighingale and hospital reform”, vol.16, in “The Collected Works of Florence Nighingale”, 2012〔NO 2.8/N71/16〕

評価方法

レポート(80%), 授業への参加(討議への参加, 授業内・後の質問を含む)(20%)

フィードバック

授業、および討議の際に、適宜フィードバックする。

その他

なし

教育方法・評価論	1年前期	1単位（15時間）	選択
担当：龍崎 忠			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

これからの社会を生きる人間に求められる資質・能力をいかにして育むか、という教育方法の根本的な課題を検討することを通して、指導に活かす評価の在り方にも焦点を当てつつ、教育方法・評価の機能と役割について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

1. とくに学校教育において求められる資質・能力とは何かを説明できる。
2. 資質・能力を育むための具体的な方法について説明できる。
3. 教育評価についての基本的な理解を基に、自身の教育観や指導観を深めることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：教育方法とは何か	龍崎 忠
2	教育方法の歴史：教えることは学ぶこと	龍崎 忠
3	主体的・対話的で深い学びの実現のために	龍崎 忠
4	求められる資質・能力：グローバル化する社会を生き抜く	龍崎 忠
5	教育評価とは何か：その機能と役割	龍崎 忠
6	なぜ評価が必要なのか(1)：PDCAと教育	龍崎 忠
7	なぜ評価が必要なのか(2)：指導と評価の一体化	龍崎 忠
8	なぜ評価が必要なのか(3)：子ども理解は自己理解	龍崎 忠

授業方法

講義を中心に展開する。具体的なケースを取り上げて参加者で議論する機会ももちたい。

時間外学習

取り上げた内容について理解や関心が深まったものをさらに調べる（各回ごとに2時間）。

教科書

特に指定しない。

参考図書

初回に文献一覧を配付する。

評価方法

各回でのリアクション・ペーパー（受講状況を含む、50%）と試験（もしくはレポート、50%）によって総合的に実施する。

フィードバック

リアクション・ペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて各回で全体でシェアリングする。

その他

研究・教育者コース必修

統計学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

統計学（記述統計、推定統計）の総合的知識を習得し、統計解析パッケージ SPSS を用いた統計分析の方法を習得し、各自の研究や実務に用いることができることを目的とする。

【到達目標】

1. 統計分析を行うための仮説を示すことができる。
2. データを SPSS で統計分析することができる。
3. 統計の分析結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	統計学概論（1） 統計学の仕組み	森田 一三
2	統計学概論（2） 統計学の成り立ち	森田 一三
3	SPSS の紹介と統計分析の準備	森田 一三
4	記述統計：度数分布 / エクセルとの連携	森田 一三
5	記述統計：代表値	森田 一三
6	記述統計：散布度	森田 一三
7	間隔・比尺度同士の関係	森田 一三
8	順序尺度同士の関係	森田 一三
9	名義尺度同士の関係：カイ二乗分析	森田 一三
10	名義尺度同士の関係：オッズ比	森田 一三
11	比率の差の分析：カイ二乗分析	森田 一三
12	平均の差の分析：t 検定	森田 一三
13	差を分析する：一元配置分散分析	森田 一三
14	中央値の差の分析	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ・授業中に課題となったことについて復習してきてください。

教科書

『SPSS によるやさしい統計学』 第2版 岸学著 オーム社 2012 [417/Ki56/2nd]

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

パソコンの基礎的な操作（ファイル管理等）およびエクセルの基礎的な操作ができること。
データを保存するためのUSBメモリ（空き容量は1GB程度あれば充分）を持参すること。

統計学	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護、公衆衛生の課題を理解し、効果的な対策を企画し、その実践的な評価を行うためには、統計的解析が必須である。ここでは、統計的推論、測定の信頼性と妥当性、因子分析やロジスティック回帰分析など、看護、公衆衛生の統計的解析に必要な知識とスキルを身につけることを目指す。このために、さまざまなデータについて実際に SPSS を用いて分析をして習得する。

【到達目標】

1. データに適した統計分析手法を決定できる。
2. SPSSを用いてデータの統計分析を行うことができる。
3. 統計分析で得られた結果を正しく解釈できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	データの要約	森田 一三
2	統計的推論	森田 一三
3	分散分析	森田 一三
4	回帰分析	森田 一三
5	測定の信頼性	森田 一三
6	測定の妥当性	森田 一三
7	主成分分析	森田 一三
8	因子分析	森田 一三
9	クラスター分析	森田 一三
10	判別分析	森田 一三
11	ロジスティック回帰分析	森田 一三
12	対数線形モデル	森田 一三
13	生存時間データの解析	森田 一三
14	多変量解析法	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

授業方法

講義、演習

時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。
- ・授業中に課題となったことについて復習してきてください。

教科書

『SPSS による統計データ解析』 柳井晴夫、緒方裕光編著 現代数学社〔417/Y54〕

参考図書

講義中に適宜紹介

評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕より算出されます。

フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

その他

選択共通科目「統計学」を履修していること。選択共通科目「統計学」で扱う統計手法について SPSSを用いて実施できること。
データを保存するためのUSBメモリ（空き容量は1GB程度あれば充分）を持参すること。

看護研究（概論）	1年前期	1単位（15時間）	選択
担当：野口 眞弓			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護研究に求められる知識の全体像を理解し、看護研究の基礎的知識を獲得する。

【到達目標】

1. 看護研究の必要性や重要性を説明できる。
2. 看護研究における倫理を説明できる。
3. 研究の問いを明らかにするための文献検索と文献検討の方法を説明できる。
4. 量的および質的アプローチの研究方法を説明できる。
5. 研究計画書を作成する意義とその内容を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護研究とは何か 教科書 第1章	野口 眞弓
2	研究の問い 教科書 第2章	野口 眞弓
3	看護研究における倫理 教科書 第3章	野口 眞弓
4	文献検索と文献検討 教科書 第4章	野口 眞弓
5	看護研究の方法 教科書 第5章	野口 眞弓
6	量的なアプローチの研究方法 教科書 第6章	野口 眞弓
7	質的なアプローチの研究方法	野口 眞弓
8	研究計画書の作成 教科書 第13章	野口 眞弓

授業方法

第1～8回 講義

時間外学習

本科目を受講するにあたり、事前に教科書の指定部分を読む。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを再度読み直すことにより知識を深める。

教科書

『黒田裕子の看護研究Step by Step』第5版 黒田裕子著 医学書院

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

討議への参加 [20%]、文献検討のレポート [40%]、研究計画書のレポート [40%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

専門看護師コース必修
認定看護管理者コース必修

看護研究（量的研究法）	1年前期	2単位（30時間）	選択
担当：野口 眞弓・森田 一三			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

量的研究の方法を理解し、看護研究を行うための基礎的能力を獲得する。

【到達目標】

1. 研究問題、研究設問と仮説、文献レビューや概念的文脈の開発を説明することができる。
2. 量的研究のデザインについて説明することができる。
3. 標本抽出およびデータ収集について説明することができる。
4. データの質の評価について説明することができる。
5. 量的研究をクリティークすることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	研究問題、研究設問と仮説 第4章	野口 眞弓
2	文献レビュー 第5章	野口 眞弓
3	概念的文脈の開発 第6章	野口 眞弓
4	量的研究のデザイン 第8章	野口 眞弓
5	量的研究における厳密性の強化 第9章	野口 眞弓
6	さまざまな目的に応じた量的研究 第10章	野口 眞弓
7	量的研究のクリティークの視点 第15章（参考文献）	野口 眞弓
8	標本抽出のデザイン 第13章	森田 一三
9	標本抽出のデザインの実例の検討	森田 一三
10	データ収集計画のデザインと実施 第14章	森田 一三
11	データ収集計画のデザインと実施の実例の検討	森田 一三
12	自己報告データの収集、観察データの収集 第15章、第16章	森田 一三
13	データの収集の実例の検討	森田 一三
14	データの質の評価 第18章	森田 一三
15	量的研究のクリティーク	野口・森田

授業方法

第1～7回 講義・討議、第8～14回 講義・討論、第15回 発表

時間外学習

本科目を受講するにあたり、事前に教科書の指定部分を読む。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを再度読み直すことにより知識を深める。

教科書

『看護研究 原理と方法』第2版 Polit, D.F.& Beck, C.T.著 /近藤潤子監訳 医学書院

参考図書

『黒田裕子の看護研究Step by Step』第5版 黒田裕子著 医学書院

評価方法

参加の状況（20%）、プレゼンテーション（20%）、量的研究のクリティークのレポート（60%）により総合評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。討議の中で講評を行う。

その他

なし

看護研究（質的研究法）	1年後期	2単位（30時間）	選択
担当：村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

質的研究の意義を理解し、看護の実践や教育の場で共通して活用できる質的な看護研究の基礎的知識を深める。さらに質的研究を用いた論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用方法を判断する能力を高める。

【到達目標】

1. 基本的な各質的研究の方法論を中心に、理論的基盤・哲学的背景・データ収集、分析方法等について理解できる。
2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方について考えることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス、質的研究の意義と方法論	村瀬 智子
2	看護実践における様々な質的研究の可能性と限界	村瀬 智子
3	質的研究の理論と哲学的背景： 科学性と一般化、理論化に関する問題、看護援助方法、および技術の開発・推進	村瀬 智子
4	援助者の視点と研究の倫理的限界 質的研究におけるサンプリングとデータ収集、分析視点	村瀬 智子
5	事例研究：歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
6	事例研究の文献クリティーク	村瀬 智子
7	質的記述的研究：歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
8	質的記述的研究の文献クリティーク	村瀬 智子
9	グランデッドセオリー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
10	グランデッドセオリーの文献クリティーク	村瀬 智子
11	エスノグラフィー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
12	エスノグラフィーの文献クリティーク	村瀬 智子
13	現象学的アプローチ： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
14	現象学的アプローチの文献クリティーク	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

1～4回及び15回は講義と討議を行い、5回～14回は学生のプレゼンテーション及び演習を行う。

時間外学習

大学院においては主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要です。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考書・文献等を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠です。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができます。

教科書

『バーンズ&グローブ看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成』Burns, N. & Grove, S. 黒田裕子監訳, エルゼビア・ジャパン

『質的研究入門 - <人間の科学>のための方法論』ウヴェ・フリック, 小田博志他訳, 春秋社

『質的研究の実践と評価のためのサブストラクション』北素子, 谷津裕子 医学書院

参考図書

- 『The Practice of Nursing Research』 8th ed. Burns and Grove, Elsevier, 2017
『Nursing Research 3rd ed.』 Kader Parahoo, Palgrave, 2014
『Knowledge Development in Nursing 10th ed.』 P. L. Chinn and M.K. Kramer, Elsevier, 2015
『Narrative Methods for the Human Science』 C. K. Riessman, Sage Publication, 2008
『人間科学のためのナラティブ研究法』 C. K. Riessman著, 大久保功子・宮坂道夫監訳, クオリティケア, 2014
『Nursing Research using Life History』 M. D. Chesnay ed., Springer Publishing Company, 2015
『質的研究をめぐる10のキークエスチョン』 M. Sandelowski著, 谷津裕子・江藤博之訳, 医学書院
『参加観察法入門』 J. P. Spradley著, 田中美恵子・麻原きよみ訳, 医学書院
『質的研究のピットフォール』 萱間真美, 医学書院
『リサーチ・クエスチョンの作り方』 福原俊一著, 健康医療評価研究機構
『臨床看護研究サクセスマニュアル』 竹内登美子監修.: アンファミエ.
『はじめて学ぶ質的研究』 Richards, N.& Morse, J.N. 小林奈美監訳, 医歯薬出版
『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方』 グレグ美鈴他, 医歯薬出版
『よくわかる看護研究論文のクリティーク Critique』 山川みやえ・牧本清子編, 日本看護協会出版会
『質的研究法ゼミナール GTAを学ぶ』 戈木クレイグヒル滋子編集, 医学書院
『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』 木下康仁編著 弘文堂
『現象学的看護研究 - 理論と分析の実際』 松葉祥一・西村ユミ編 医学書院
『研究デザイン - 質的・量的・そしてミックス法』 Creswell著/操華子他訳, 日本看護協会出版
『質的研究ハンドブック 1 : 質的研究のパラダイムと眺望』 デンジン リンカン著/ 平山満義
岡野一郎 古賀正義訳, 北大路書房
『エスノグラフィー』 Roper, J.M. & Shapira, J. 著/麻原きよみ, グレグ美鈴訳, 日本看護協会出版
『エスノグラフィー入門』 小田博志, 春秋社, 2014

評価方法

授業態度(5%)、討論への参加(30%)
課題(65%) (プレゼンテーション45%、レポート20%)

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

セルフマネジメント論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

急性期病院では、入院期間が短縮化され、患者自身が退院後の生活をマネジメントする必要がある。従来、患者教育は説明する方法が用いられ、効果の測定は困難であった。行動科学における行動の原理に基づき、セルフマネジメントの技法を理解し、実施できることを目的とする。

【到達目標】

1. 基本的な行動原理として、強化、消去、弱化、刺激性制御を理解できる。
2. 行動を観察し、三項随伴性に基づく分析ができる。
3. 新しい行動を形成する方法として、シェイピング、チェイニングを理解できる。
4. 望ましい行動を増やす方法として、分化強化、先行子操作を理解できる。
5. セルフマネジメントの技法を理解し、実施できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	人間の行動と行動変容	鎌倉 やよい
2	行動を観察する視点：三項随伴性とABC分析	鎌倉 やよい
3	基本的な行動原理：強化・弱化・消去	鎌倉 やよい
4	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
5	基本的な行動原理：刺激性制御（弁別と般化）	鎌倉 やよい
6	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
7	新しい行動を形成する方法：シェイピング・チェイニング	鎌倉 やよい
8	新しい行動を形成する方法：プロンプトと刺激性制御の転移	鎌倉 やよい
9	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
10	望ましい行動を増やす技法：分化強化	鎌倉 やよい
11	望ましい行動を増やす技法：先行子操作	鎌倉 やよい
12	望ましい行動を増やす技法：セルフマネジメント	鎌倉 やよい
13	事例に基づく演習	鎌倉 やよい
14	シングルケース研究法による行動変容の測定	鎌倉 やよい
15	まとめ	鎌倉 やよい

授業方法

基礎的な講義の後に演習を行い、理解を促す。

時間外学習

基礎的な講義には予習して臨み、事例に基づく演習において理解を深めること。事例演習に関する課題を作成して、理解を深めること。

教科書

「行動変容法入門」レイモンド・G・ミルテンバーガー著、園山繁樹他（訳）、二瓶社

参考図書

「応用行動分析学」ジョン・O・クーパー他著、中野良顯（訳）、明石書店

評価方法

事例演習に関する課題の提出〔40%〕、受講態度（参加・貢献度）〔10%〕、レポート〔50%〕

フィードバック

課題に関する回答、レポートについては、授業においてフィードバックする。

その他

成人看護学領域の学生は必修とする。

感染制御論	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 下間 正隆・東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療・看護サービスの受け手に安全な医療・看護サービスを提供することは看護管理にとって最優先の課題である。安全を脅かす感染から病院内の患者と医療従事者を守るためには、「微生物」と「感染対策に対する人の行動」を相手にしなければならない。看護管理者として知っておくべき感染制御に関する知識と、感染予防のための医療者アドヒアランス向上のための取り組みについて学習する。

【到達目標】

1. 感染対策の基本を説明できる。
2. 3つの感染経路別対策と感染防護対策を説明できる。
3. 耐性菌とその対策について、説明できる。
4. アウトブレイクの予防と対策を説明できる。
5. 職業感染予防と管理について説明できる。
6. 感染対策ソフトによる医療関連感染サーベイランスについて理解できる。
7. サーベイランスの4つの視点から、感染予防とケアを説明できる。
8. 看護管理の視点から、医療者アドヒアランス向上のための取り組みについて理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	感染制御論概論： 院内感染を正しく理解して、適切に行動する 病院内で感染を起こす微生物	下間 正隆
2	感染対策の基本： スタンダードプリコーション（SP：標準予防策）；手指消毒	下間 正隆
3	3つの感染経路 感染経路別対策：接触感染対策，飛沫感染対策，空気感染対策	下間 正隆
4	個人防護具（Personal Protective Equipment：PPE）による対策	下間 正隆
5	環境に対する感染防護対策	下間 正隆
6	耐性菌：MRSA対策	下間 正隆
7	耐性菌：薬剤耐性菌の問題	下間 正隆
8	アウトブレイク：予防，早期対応，事例	下間 正隆
9	アウトブレイク対策：MRSA 細菌と抗菌薬	下間 正隆
10	アウトブレイク対策：ノロウイルス，インフルエンザ	下間 正隆
11	職業感染予防と管理 感染対策ソフトによる情報共有と医療関連感染サーベイランス	下間 正隆
12	侵襲的処置に関連する感染に対する感染予防対策 血流感染（BSI：Blood Stream Infection）	東野 督子
13	尿路感染（UTI：Urinary Tract Infection）	東野 督子
14	人工呼吸器関連肺炎（VAP：Ventilator Associated Pneumonia）	東野 督子
15	手術部位感染（SSI：Surgical Site Infection）	東野 督子

授業方法

第1回～第15回：講義，討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う（適宜）。

教科書

- ・「イラストみんなの感染対策」下間正隆（2016）照林社
- ・適宜資料を提供する。

参考図書

・「院内感染予防必携ハンドブック」洪愛子（2013）中央法規

評価方法

試験（60％）、レポート(30%)、授業への参加度(10%)から総合的に評価する。

フィードバック

授業内の質問について、各授業においてフィードバックする。

その他

認定看護管理者コースの学生は履修が望ましい。

病態生理学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい・三木 研作・下間 正隆・巻野 雄介・金盛 琢也			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

病態生理学は、解剖学や生理学などで学習する正常な構造や機能を基礎に、正常な機構の破綻により発生した各種疾患の成り立ちについて学習する学問である。主要な症状・徴候の病態生理を学ぶことによって、臨床推論の基礎を修得することを目的とする。

【到達目標】

1. 病態生理学における病態推論の基本を理解することができる。
2. 看護実践上、遭遇頻度が高く重要な症状・徴候の病態生理を理解することができる。
3. 症状・徴候から診断・治療に至る臨床推論の過程を理解することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	三木 研作
2	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：意識障害	三木 研作
3	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	三木 研作
4	脳神経・感覚機能・筋骨格系障害に関する病態推論 ：運動麻痺・運動失調、腰痛・関節痛	三木 研作
5	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉やよい
6	脳神経・感覚機能障害に関する病態推論 ：嚥下障害	鎌倉やよい
7	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
8	消化器系障害に関する病態推論 ：嘔吐・下痢	下間 正隆
9	呼吸機能障害に関する病態推論 ：呼吸困難	下間 正隆
10	循環機能障害に関する病態推論 ：不整脈、ショック	下間 正隆
11	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	金盛・鎌倉
12	内部環境調節機能・腎泌尿器系障害に関する病態推論 ：浮腫・脱水、排尿障害	金盛・鎌倉
13	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	金盛・下間
14	栄養代謝機能（肝機能）障害に関する病態推論 ：栄養障害、腹水	金盛・下間
15	造血・免疫機能障害に関する病態推論 ：出血傾向	巻野・鎌倉

授業方法

講義・演習（教員による講義、次に受講生によるプレゼンテーションを実施する。担当は開講後に調整する。）

時間外学習

各回の内容について参考図書等に基づき事前に学習し、授業において相互に討議ができるよう準備していただきたい。特に、プレゼンテーション時には、十分に復習して準備し、十分に論議ができる内容となることを期待する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

『病態生理学』山内豊明編集、メディカ出版
『症状の基礎からわかる病態生理』 第2版 松尾理監訳 メディカルサイエンスインターナショナル〔491.6/Si4/2nd〕
『一目でわかる病態生理』 松野一彦 メディカルサイエンスインターナショナル〔491.6/Ma83〕
そのほか適宜紹介する。

評価方法

受講態度 30%、レポート 70%

フィードバック

プレゼンテーション・討議に対してその場でフィードバックする。

その他

専門看護師コース必修

臨床薬理学	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 池田 義明・山田 浩雅			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

複雑な健康問題を抱えた対象の特性や症状をもとに、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、日常生活行動の調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るために、専門看護師としての知識と看護技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 対象者の病態に基づいた薬剤使用の判断に関するエビデンスを説明できる。
2. 小児、成人、高齢者等の各ライフステージの特徴も踏まえた薬物療法の特徴を学ぶ。
3. 対象者が安全で効果的な薬物療法を継続するための支援方法について学ぶ。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	薬理学の概念	池田 義明
2	小児・成人・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の管理	池田 義明
3	緊急応急処置（筋弛緩薬、局所麻酔薬、自律神経作用薬）	池田 義明
4	麻酔薬、疼痛薬、睡眠薬と投与後の患者モニタリング	池田 義明
5	神経症、気分障害、統合失調症、癲癇、パーキンソン病、認知症	池田 義明
6	慢性疾患管理に必要な薬剤（心臓血管作用薬）	池田 義明
7	抗炎症薬と回復力の促進	池田 義明
8	呼吸器系作用薬と回復力の促進	池田 義明
9	消化器系作用薬と症状調整	池田 義明
10	ホルモン系・生殖器系作用薬	池田 義明
11	抗感染症薬と薬剤使用の判断および投与の患者モニタリング	池田 義明
12	抗悪性腫瘍薬、漢方薬	池田 義明
13	神経・精神疾患患者への薬物療法と生活調整について	山田 浩雅
14	高度実践看護師が行う服薬管理能力向上のための援助技術	山田 浩雅
15	臨床薬理学関連の研究課題報告(プレゼンテーション)	池田 義明

授業方法

第1回～第14回：講義、第15回：発表

時間外学習

授業後は、わからないことはそのままにせず、調べたり聞いたりして理解を深める。(適宜)

教科書

『わかりやすい薬理学』第3版 安原一、小口勝司編 ニューヴェルヒロカワ〔491.5/Y64/3rd〕
適宜、資料を配布する。

参考図書

『薬がみえるvol.1～vol.3』 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア〔492/Ku93/1,2,3〕

評価方法

研究課題報告書(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)を合算する。

フィードバック

授業前後における疑問や質問は次回講義までにハンドアウトを作成してフィードバックする。

その他

専門看護師コース必修

ヘルスアセスメント	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 中島 佳緒里・山内 豊明			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践看護師として、複雑な健康問題をもった対象の身体・心理・社会的側面を包括的にとらえ、臨床看護判断を行うためのアセスメント能力を養う。

【到達目標】

1. ヘルスアセスメント (Health Assessment) の定義について説明できる。
2. 複雑な健康問題をもった対象のフィジカルアセスメント (Physical Assessment) を実施できる。
3. 臨床推論を用いて、対象の健康上の問題を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 看護師によるヘルス・アセスメントと臨床推論	中島佳緒里
2	臨床推論における思考過程	中島佳緒里
3	全身状態の把握, 栄養評価	中島佳緒里
4	脳神経の診査	中島佳緒里
5	症状・徴候からの推論	山内 豊明
6	呼吸器系 - 胸部	山内 豊明
7	呼吸器系 - 呼吸音	山内 豊明
8	循環器系 - 心音	山内 豊明
9	循環器系 - 末梢血管	山内 豊明
10	消化器系 - 腹部	山内 豊明
11	消化器系 - 食物摂取と感覚系	山内 豊明
12	運動系 - 骨格筋, 運動に関わる神経	中島佳緒里
13	腎泌尿器系 - 腎の炎症, 尿路 (膀胱, 前立腺等), 浮腫	中島佳緒里
14	症例検討	中島佳緒里
15	症例検討	中島佳緒里

授業方法

講義, 演習

第1・2回, 第5回～11回: 講義, 第3・4・12・13回: 演習、

第14～第15回: 発表、討論

時間外学習

授業への参加準備, 関連文献を読む (適宜)。

診査内容・項目に関連した形態機能学の知識, 代表的な疾患を確認する (1時間程度)。

診査結果に基づく臨床推論の思考過程を復習する (30分程度)。

教科書

『実践! フィジカル・アセスメント 第3版』小野田千枝子監修 高橋照子 芳賀佐和子
佐藤 富美子編集金原出版

『フィジカルアセスメントガイドブック』 山内豊明著 医学書院

参考図書

『フィジカルアセスメントがみえる』熊谷たまき他監修 メディックメディカ
『ベイツ診察法』福井 次矢 井部 俊子監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル
Jarvis, C: Physical examination & health assessment (8th ed.), Saunders.
『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020』NANDAインターナショナル著 医学書院
『フィジカルアセスメント ワークブック』山内豊明著 医学書院
『見る・聴く・触るを極める！山内先生のフィジカルアセスメント 技術編』山内豊明解説 エスエムエス
『患者さんのサインを読み取る！山内先生のフィジカルアセスメント 症状編』山内豊明解説 エスエムエス『聞く技術 答えは患者の中にある 第2版』マーク・ヘンダーソン著
山内豊明訳 日経BPマーケティング
『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』田崎義昭、斉藤佳雄著 南山堂

評価方法

成績評価は、討論参加〔30%〕、レポート〔70%〕を合計して算出される。

フィードバック

症例検討を行う際に、その場でフィードバックする。レポート課題については、教員評価を記載して学生に返却する。

その他

専門看護師コース必修
診査技術を実施するため、2名以上の受講を望む。

コンサルテーション論	1年後期	2単位 (30時間)	選択
担当: 村瀬 智子・井上 さよ子・大島 泰子・田崎 あゆみ・木全 美智代・長尾 大地			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師の6つの役割と機能の中の相談機能を果たすためのコンサルテーションの意義等の基本的概念と具体的方法について学ぶ。

【到達目標】

1. コンサルテーションの基本的概念について説明できる。
2. 臨床現場で起こる様々な問題や課題に対して、直接的あるいは間接的に問題解決を行うためのコンサルテーションの具体的方法を事例に適用できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス コンサルテーションの変遷とニーズ	村瀬 智子
2	コンサルテーション概論 : 定義・タイプ・介入の方向性・役割	村瀬 智子
3	コンサルテーション過程と倫理的課題 コンサルタントに求められる能力と教育	村瀬 智子
4	コンサルテーションにおけるアセスメント : 医療における組織分析とクライアントの状況	村瀬 智子
5	コンサルティとコンサルタントの関係におけるダイナミクス : 自身の異和感に気づくこととアセスメント	村瀬 智子
6	コンサルテーションの評価とスーパービジョン	村瀬 智子
7	コンサルテーション演習: 慢性期看護事例 慢性期看護事例に関するアセスメントとコンサルテーションプロセス	井上・村瀬
8	コンサルテーション演習: がん・終末期看護事例 がん・終末期看護事例に関するアセスメントとコンサルテーションプロセス	井上・村瀬
9	コンサルテーション演習: 急性期看護事例 急性期看護事例に関するアセスメント	長尾・村瀬
10	コンサルテーション演習: 急性期看護事例 慢性期看護事例に関するコンサルテーションプロセス	長尾・村瀬
11	コンサルテーション演習: 小児看護事例 小児看護事例に関するアセスメントとコンサルテーションプロセス	田崎・村瀬
12	コンサルテーション演習: 母性看護事例 母性期看護事例に関するアセスメント	木全・村瀬
13	コンサルテーション演習: 母性看護事例 母性看護事例に関するコンサルテーションプロセス	木全・村瀬
14	コンサルテーション演習: 精神科看護事例 精神科看護事例に関するアセスメントとコンサルテーションプロセス	大島 泰子
15	コンサルテーション演習: リエゾン精神看護事例 リエゾン精神看護事例に関するアセスメントとコンサルテーションプロセス まとめ	大島・村瀬

授業方法

第1回～第6回 : 講義・グループ討議

第7回～第15回: 講義・演習(ロールプレイを含む)・グループ討議

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前準備が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くことー』 エドガー・H・シャイン著、稲葉元吉他訳 白桃書房

参考図書

“Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach” 6th ed. A. B. Hamric, et. Al. Saunders/Elsevier

『高度実践看護 統合的アプローチ』 A. B. Hamric, et Al. . / 中村美鈴他訳、へるす出版

『リエゾン精神看護 - 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著、医歯薬出版
“The Consulting Process In Action” 2th ed., Lippitt, R. & Lippitt, G. Jpssey-Bass/Pfeiffer

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』宇佐美しおり・野末聖香編、医学書院

『専門看護師の思考と実践』井部俊子他監修、医学書院

評価方法

出席〔5%〕、討論参加〔50%〕、プレゼンテーション〔30%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議やロールプレイを組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

認定看護管理者コース必修

看護管理論	1年前期	1単位 (15時間)	選択
担当: 小林 洋子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

質の高い看護サービスを効果的、効率的に提供することを目的とする看護管理に必要な知識を学ぶとともに、高度実践看護師が活動するためのマネジメント上の課題を検討する。

【到達目標】

1. 看護サービス提供における看護管理過程を説明できる。
2. 高度実践看護師の活動における看護管理者との協働・調整を説明できる。
3. 高度実践看護師として活動するためのマネジメント上の課題を探索し考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護管理の歴史, 看護管理過程	小林 洋子
2	看護管理に関連する法律・制度	小林 洋子
3	組織と組織文化	小林 洋子
4	仕事意欲と動機付け	小林 洋子
5	看護サービス提供における質保証	小林 洋子
6	看護サービス提供における多職種との協働・調整	小林 洋子
7	高度実践看護師の活動における看護管理者との協働・調整	小林 洋子
8	看護サービス提供と看護管理上の課題	小林 洋子

授業方法

第1回～第7回：講義と課題発表・討議、第8回：討議

時間外学習

- ・各回のテーマについて予習や発表・討議の準備をする(適宜)
- ・看護管理の今日的課題に関する職能団体の動向や医療制度の動向に注目する(適宜)

教科書

なし。 授業資料を配布する

参考図書

1. 『看護サービス管理 第5版』中西睦子 小池智子 松浦正子編(2018)医学書院
2. 『組織行動のマネジメント』Stephan, RP. 著 高木晴夫監訳(2009)ダイヤモンド社
3. Hersey P, B. Kenneth H, Johnson D, E. (1996). Management of Organizational Behavior: Utilizing Human Resources (7th). 山本成二, 山本あづさ訳(2000)入門から応用へ行動科学の展開(新版)人的資源の活用, 生産性出版
4. 『看護管理に活かすベンチマーキング 看護サービスの質改善のために』菅田勝也編(2012) 中山書店
5. 『看護者の基本的責務 2019年版』日本看護協会監修(2019)日本看護協会出版会

評価方法

レポート(60%)、発表(30%)、授業への参加態度(10%)を合計して評価する

フィードバック

発表後、および次回の授業中にフィードバックする

その他

認定看護管理者コース必修

看護政策論	1年後期	1単位 (15時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護の質向上に関する制度と政策的な活動を学修し、看護職者が政策決定過程に関わる意義を理解する。さらに現状から看護政策上の課題を探求する。

【到達目標】

1. 看護を取り巻く政策の動向と課題を理解する。
2. 政策決定への過程を理解し、政策提言に向けた方略を考察できる。
3. 看護に関する制度や法律を踏まえ、看護政策の視点から課題を提示できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、基礎知識の確認 (政策とは何か、 政治過程とは何か)、看護職者と政策 (看護職者の政治的発達、 看護職者の社会的責務)	山田 聡子
2	政策決定過程における看護職者の活動 国政と地方政治：国会議員の活動、厚生労働省および地方自治体における看護政策に関する歴史的背景と看護職の活動	山田 聡子
3	政策決定過程における看護職者の活動 関連団体：日本看護協会等の設立と活動の実際	山田 聡子
4	政策決定過程における看護職者の活動 研究成果：政策研究の実際と課題	山田 聡子
5	関連する法律・制度と政策 保健師助産師看護師法：法令内容の確認・課題の討議	山田 聡子
6	関連する法律・制度と政策 看護師等の人材確保に関する法律：法令内容の確認・課題の討議	山田 聡子
7	関連する法律・制度と政策 診療報酬制度：看護職員人員配置基準・看護技術の評価に関する実際の確認・課題の討議	山田 聡子
8	看護政策上の課題：トピックの提示と討議 まとめ	山田 聡子

授業方法

講義・討議：第1-4回、プレゼンテーション・討議：第5-8回

時間外学習

プレゼンテーションの準備を進める (適宜)。
レポート課題の作成に向けた準備を進める (適宜)。
関連事項を学習し討議に備える (適宜)。
初回講義時にプレゼンテーション課題とレポート課題を提示する。

教科書

なし

参考図書

『看護管理学習テキスト第3版 第1巻ヘルスケアシステム論』増野園恵編 日本看護協会出版会
『看護職者のための政策過程入門』見藤隆子、石田昌宏、大串正樹、北浦暁子、伊勢田暁子執筆 日本看護協会出版会

評価方法

プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)、レポート (50%)

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。レポートにコメントを入れて返却する。

その他

認定看護管理者コース必修

現任教育論	1年後期	1単位 (15時間)	選択
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師や看護管理者として期待される教育的機能を果たすための基礎知識を学修し、看護における継続教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 継続教育の意義と目的について理解できる。
2. 継続教育の現状と課題について考察できる。
3. 院内教育プログラムの計画と評価方法について理解できる。
4. 教育的機能を果たすための方略を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護基礎教育と継続教育	山田 聡子
2	学習者の理解 (アンドラゴジー、モチベーション、キャリアアップ、リフレクション、熟達)	山田 聡子
3	継続教育の現状と課題 新人看護職員	山田 聡子
4	継続教育の現状と課題 プリセプター・メンター・実地指導者	山田 聡子
5	継続教育の現状と課題 臨地実習指導者	山田 聡子
6	継続教育の現状と課題 高度実践看護師、認定看護師	山田 聡子
7	継続教育の現状と課題 特定行為研修	山田 聡子
8	院内教育プログラムの計画と評価	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2・8回、プレゼンテーション・討議：第3-7回

時間外学習

プレゼンテーションの準備を進める (適宜)。
 レポート課題の作成に向けた準備を進める (適宜)。
 関連事項を学習し討議に備える (適宜)。
 初回講義時にプレゼンテーション課題とレポート課題を提示する。

教科書

なし

参考図書

『看護教育学』杉森みど里、舟島なをみ、医学書院
 『看護教育学』グレッグ美鈴、池西悦子編、南江堂
 『ベナー看護実践における専門性』パトリシア・ベナー、クリスティン・タナー、キャサリン・チェスラ、医学書院

評価方法

プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)、レポート (50%)

フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。レポートにコメントを入れて返却する。

その他

認定看護管理者コース必修

看護管理学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

サービスの質を保証しながら効果的効率的に看護サービスが提供できるよう人的、物的、財政的資源や情報を統合して展開される看護管理について諸理論および管理過程に焦点をあて学ぶ。

【到達目標】

1. 医療・看護サービス提供における組織について説明できる。
2. 多職種、および看護職と協力しながら医療・看護サービス提供におけるマネジメントおよび看護管理過程について説明できる。
3. 看護サービスの質の保証と看護サービスを提供する仕組みについて説明できる。
4. 質の高い看護サービスの提供に果たす看護管理の役割を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 看護管理の定義, 看護管理過程	松浦・南谷
2	看護管理に関連する法律	松浦 正子
3	マネジメントの変遷	松浦 正子
4	組織, 医療・看護提供組織	松浦 正子
5	組織風土, 組織文化	松浦 正子
6	組織の意思決定と変革	松浦 正子
7	医療・看護サービスと提供方法	南谷 志野
8	医療・看護サービスの質保証と評価	南谷 志野
9	看護管理と医療・看護情報の活用	松浦 正子
10	グループマネジメントとリーダーシップ	南谷 志野
11	医療職間の協働と調整	南谷 志野
12	コンフリクトマネジメント	松浦 正子
13	医療・看護提供組織の看護管理の実際: 業務割り当てと権限委譲	南谷 志野
14	医療・看護提供組織の看護管理の実際: 看護サービスの質保証と評価	南谷 志野
15	まとめ	松浦・南谷

授業方法

第1回: 講義 第2回~第14回: 講義, 発表・討議, 第15回: 講義・討議

時間外学習

・授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う(適宜)。

教科書

特に指定ない

参考図書

1. 『看護サービス管理 第5版』 小池智子 松浦正子 中西睦子編(2018)医学書院
2. 『Outcome Management Applications to Clinical Practice』 Wojner Ann, Mosby(2001)
3. 『アウトカム・マネジメント - 科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用』 井部俊子監修(2003)日本看護協会出版会
4. 『看護管理に活かすベンチマーキング 看護サービスの質改善のために』 菅田勝也編(2012) 中山書店
5. 『組織行動のマネジメント』 Stephan, RP. 著高木晴夫監訳(2009)ダイヤモンド社
6. 『看護者の基本的責務 2019年版』 手島恵監修(2019)日本看護協会出版会

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック
学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他
なし

人的資源管理論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野・勝原 裕美子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護専門職に焦点をあて、医療・看護サービス提供に関わる組織成員の能力発揮に向けて必要な支援や仕組みについて諸理論を踏まえ、人的資源をどのように開発し活用すればよいか探求する。

【到達目標】

1. 人的資源の開発と活用に関するマネジメントを説明できる。
2. 諸理論を踏まえて人的資源開発・活用を説明できる。
3. 質の高い看護サービスと看護サービスを提供する仕組みが説明できる。
4. 看護実践や看護管理の実際から人的資源の開発・活用について探求し提言できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 人的資源管理と人的資源開発	松浦・南谷
2	看護専門職の役割と機能	松浦 正子
3	看護専門職の社会的責任と法的根拠	松浦 正子
4	多様な働き方とWLB	南谷 志野
5	人材フローのマネジメント	松浦 正子
6	看護職とモチベーション	勝原 裕美子
7	キャリア開発・継続教育	勝原 裕美子
8	目標管理	勝原 裕美子
9	コーチング	松浦 正子
10	チーム医療とスペシャリストの活用	南谷 志野
11	人的資源開発・活用と人事考課	松浦 正子
12	人的資源開発・活用とストレスマネジメント	松浦 正子
13	人的資源開発・活用における看護管理の実際：職場環境	南谷 志野
14	人的資源開発・活用における看護管理の実際：コーチング	松浦 正子
15	まとめ	松浦・南谷

授業方法

第1回：講義 第2回～第12回：発表・討議 第13回～第14回：講義
第15回：講義・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う（適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

1. 『Management of Organizational Behavior: Utilizing Human Resources(7th)』
Hersey P, B. Kenneth H, Johnson D, E. (1996)
『入門から応用へ行動科学の展開（新版）人的資源の活用』Hersey PAul他著 山本成二訳 山本あづさ訳(2000) 生産性出版
2. 『Outcome Management Applications to Clinical Practice』Wojner
Ann, Mosby(2001)
『アウトカムマネジメント - 科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用』
井部俊子監修(2003)日本看護協会出版会
3. 『新版 看護者の基本的責務』日本看護協会監修(2006)日本看護協会
4. 『看護管理学習テキスト 第2版 看護における人的資源活用論』井部俊子, 中西睦子監修(2011)日本看護協会出版会
5. 『看護職のキャリア開発 変革期のヒューマンリソースマネジメント』平井さよ子著(2002)日本看護協会出版会
6. 『看護職のキャリア開発 改訂版 転換期のヒューマンリソースマネジメント』平井さよ子著(2009)日本看護協会出版会

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

なし

保健医療福祉組織論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

保健医療福祉政策の動向を理解するとともに、社会から求められるヘルスケアサービス見出し、それに応える組織の構築に関する知識を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会保障，保健医療福祉制度・政策が説明できる
2. マーケティングについて説明できる
3. ヘルスケアサービスに応える組織デザインについて説明できる
4. ヘルスケアサービス組織の危機管理について説明できる
5. ヘルスケアサービスの創造として、看護事業の開発について提言できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	社会保障	松浦 正子
2	諸外国の保健医療福祉	松浦 正子
3	保健医療福祉政策	松浦 正子
4	看護制度・政策	松浦 正子
5	制度・政策と看護管理	松浦 正子
6	保健医療福祉サービスにおけるマーケティング	松浦 正子
7	保健医療福祉サービスにおけるマーケティング : 演習	松浦 正子
8	組織分析	南谷 志野
9	組織分析 : 組織の分析, 評価 演習	南谷 志野
10	組織デザイン :	南谷 志野
11	組織デザイン : 演習	南谷 志野
12	ヘルスケアサービスの創造	松浦 正子
13	ヘルスケアサービスの創造 : 看護事業の開発 演習	松浦 正子
14	組織の危機管理 : 経営上の危機, 訴訟	南谷 志野
15	組織の危機管理 : 暴力・ハラスメント	南谷 志野

授業方法

第1回～第6回, 8回, 10回, 12回, 14回, 15回: 講義,
第7回, 9回, 11回, 13回: 演習, 発表・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う(適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

1. 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会編
2. 『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』池上直己(2017) 日本経済新聞出版社
3. 『看護サービス管理』第5版 小池智子、松浦正子、中西睦子編(2018) 医学書院
4. 『医療福祉経営入門』中島明彦(2017) 同友館
5. 『医療供給政策の政策過程 地域医療計画の形成・決定・実施過程と政策の変容』中島明彦(2017) 同友館

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

なし

看護管理学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護管理学に関する研究文献の検討を通して看護管理学の研究にかかわる概念や理論への理解を深め、看護実践における看護管理学研究の課題を考察する。明らかにされた看護管理学研究の課題についてフィールドワークを通して明確にするとともに探求方法を考察する。

【到達目標】

1. 看護管理学に関する文献を系統的に検索できる
2. 文献をクリティークし、要約を記述できる
3. 看護管理学の課題を探求する研究方法が理解できる
4. フィールドワークを通して課題の探求方法を理解できる
5. 課題を探求する研究計画書が理解できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 看護管理学研究の動向	松浦・南谷
2	文献検索方法	松浦・南谷
3	文献クリティークの方法 : 対象文献の理解	松浦・南谷
4	文献クリティークの方法 : 研究過程との比較	松浦・南谷
5	文献クリティークの方法 : 研究の要素と研究の論理性	松浦・南谷
6	文献クリティークの方法 : 先行研究と研究段階の評価	松浦・南谷
7	文献クリティークの方法 : 倫理的配慮	松浦・南谷
8	文献クリティークの方法 : 文献クリティーク結果の記載	松浦・南谷
9	文献検索: 演習	松浦・南谷
10	文献クリティーク: 演習	松浦・南谷
11	文献クリティーク: 発表・討議	松浦・南谷
12	文献クリティーク: 発表・討議	松浦・南谷
13	文献クリティーク: 発表・討議	松浦・南谷
14	文献クリティーク: 発表・討議	松浦・南谷
15	研究計画の立案	松浦・南谷
16	看護管理学における研究方法 看護師の成長	松浦・南谷
17	看護管理学における研究方法 看護管理実践力	松浦・南谷
18	看護管理学における研究方法 変革	松浦・南谷
19	看護管理学における研究方法 看護管理の評価	松浦・南谷
20	研究課題, 研究目的	松浦・南谷
21	フィールドワークガイダンス	松浦・南谷
22	フィールドワーク	松浦・南谷
23	フィールドワーク	松浦・南谷
24	フィールドワーク	松浦・南谷
25	フィールドワーク	松浦・南谷
26	フィールドワークのまとめ: 演習	松浦・南谷
27	フィールドワークのまとめ・討議	松浦・南谷
28	研究計画の検討 : 研究デザイン	松浦・南谷
29	研究計画の検討 : 概念と概念枠組み	松浦・南谷
30	研究計画の検討 : 研究方法と倫理的配慮	松浦・南谷

授業方法

第1, 2, 15, 21回: 講義. 第3~14回, 第16~20回, 第26~30回: 発表・討議.
第22~25回: フィールドワーク

時間外学習

看護管理に関する関心のテーマについて検索し、関連文献を読む(適宜)
プレゼンテーションおよび討議への参加の準備を行う(適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

授業中に適宜提示する

評価方法

課題レポート(40%)，プレゼンテーション(30%)，討議への参加(30%)

フィードバック

プレゼンテーションの際にその場でフィードバックする

その他

研究・教育者コース必修

組織経営・経済論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・米本倉基			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

変化する環境の中で、社会から求められるヘルスケアサービスの提供に向けて、組織の構築とその運営に必要な組織経営の知識を学ぶ。その際、看護の基盤にたつ組織経営として看護の理念を踏まえた運営について考察を深めるとともに、その組織経営者に求められる役割を探求する。

【到達目標】

1. 組織経営の考え方が説明できる
2. 組織経営における財務管理、経営分析が説明できる
3. ヘルスサービスにおける経営と質管理・経済性が説明できる
4. 組織経営における倫理的意思決定が説明できる
5. 組織経営者の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	医療福祉と経済論	松浦 正子
2	医療福祉経営	松浦 正子
3	財務管理 : 原価の基礎的概念, 経営データ,	米本 倉基
4	財務管理 : 財務分析, 病院会計準則, 財務リスク	米本 倉基
5	財務管理 : 財務管理演習	米本 倉基
6	経営分析 : 貸借対照表, 損益計算書,	松浦 正子
7	経営分析 : 在庫管理, 設備機械の投資計画, 減価償却	松浦 正子
8	経営分析 : 経営分析演習	松浦 正子
9	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 効率・効果的資源運用	松浦 正子
10	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : 看護必要度, 配置と経済性	松浦 正子
11	ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 : ベンチマークと顧客満足	松浦 正子
12	最新の労使関係法規の動向	松浦 正子
13	組織の危機管理	松浦 正子
14	経営管理者の倫理的意思決定	松浦 正子
15	まとめ	松浦 正子

授業方法

第1回～4回, 第6回, 7回, 9回～14回: 講義, 第5回, 8回, 15回: 演習, 発表・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う(適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

授業中に適宜紹介する

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

認定看護管理者コース必修

医療安全論	1年前期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 飛田 伊都子・坂之上 ひとみ			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療におけるセーフティマネジメントとリスクマネジメントの概念理解は、患者に安全な医療を提供するうえで重要な課題である。医療安全元年と言われる1999年以降の医療事故の動向および対策を理解し、看護管理上必要な組織的安全管理のための環境づくりについて考察する。

【到達目標】

1. 患者安全について説明できる
2. 医療事故の動向およびその分析方法が説明できる
3. 医療事故における社会的責任について説明できる
4. 看護管理の視点から、組織的安全管理に向けた環境づくりについて考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	患者安全とは	飛田 伊都子
2	Safety 1 とSafety 2 の概念	飛田 伊都子
3	医療事故の動向と分析手法	飛田 伊都子
4	医療事故における民事責任・刑事責任・行政責任について	飛田 伊都子
5	医療安全領域の研究の動向	飛田 伊都子
6	医療安全管理者に求められるコンピテンシー	飛田 伊都子
7	医療機関における医療安全の現状と課題	坂之上 ひとみ
8	医療機関における医療安全の現状と課題	坂之上 ひとみ

授業方法

第1回～第8回：講義，発表・討議

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う（適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

- ・『人は誰でも間違える：より安全な医療システムを目指して』米国医療の質委員会(2000)日本評論社
- ・『WHO患者安全カリキュラム多職種版』東京医科大学HP

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)

フィードバック

学生が行うプレゼンテーションの場においてフィードバックする

その他

認定看護管理者コース必修

看護管理学実習	2年通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療機関の看護単位におけるマネジメントの実際と管理者の役割を理解し、担当部署において看護管理過程を展開する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 病棟や外来等の看護単位におけるマネジメントの実際を理解する。
2. 病棟や外来等の看護単位における看護管理者の役割を理解する。
3. 病棟や外来等の看護単位における看護管理者の役割を果たすための自身の課題を明らかにする。
4. 病棟や外来等の看護単位における看護管理過程について考察する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	実習単位：2単位（90時間） 実習場所：科目担当教員との相談の上、受講生の所属場所以外の医療機関を受講生が選定する。 実習内容・方法： 複数名の看護師長及び看護主任（係長・副看護師長）にシャドーイングし、看護単位におけるマネジメントの実際を理解する。 複数名の看護師長及び看護主任（係長・副看護師長）の指導のもと、看護師長業務および看護主任業務を体験し、マネジメントの実際と役割を理解する。 シャドーイングと業務体験から、看護管理者の役割を果たすための自身の課題を明らかにする。 既習内容と本実習での学びから、看護単位における看護管理過程を考察する。	松浦・南谷

授業方法

臨地実習

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習目的・目標および実習計画を立案する。
 実習施設の選定と、実習受け入れの交渉を行う。選定と交渉は科目担当教員が支援する。

教科書

なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

実習内容（目標到達状況・態度）60%、レポート内容40%

フィードバック

実習中のカンファレンス時にフィードバックを行う。また、レポートにコメントを記載して返却する。

その他

認定看護管理者コース必修
 本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護管理学実習	2年通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

医療機関の看護部門管理者におけるマネジメントの実際と役割を理解し、組織マネジメント力および人材育成力の基礎を修得する。

【到達目標】

1. 医療機関における看護部門責任者の役割を理解する。
2. 看護部門における組織マネジメントの実際を理解する。
3. 看護部門における人材育成の実際を理解する。
4. 看護部門管理者の組織マネジメント力と人材育成力について考察する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	実習単位：2単位（90時間） 実習場所：認定看護管理者が看護部門責任者を担っている医療機関。 科目担当教員との相談の上、受講生の所属施設以外の医療機関を受講生が選定する。 実習内容・方法： 看護部門責任者にシャドーイングし、マネジメントの実際と役割を理解する。 看護部門の副責任者（副看護部長等）にシャドーイングし役割を理解する。 看護部門責任者および副責任者にインタビューを行い、組織マネジメントと人材育成上の課題を学ぶ。 既習内容と本実習での学びから、看護部門管理者の組織マネジメント力と人材育成力を考察する。	松浦・南谷

授業方法

臨地実習

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習目的・目標および実習計画を立案する。
 実習施設の選定と、実習受け入れの交渉を行う。選定と交渉は科目担当教員が支援する。

。

教科書

なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

実習内容（目標到達状況・態度）60%、レポート内容40%

フィードバック

実習中のカンファレンス時にフィードバックを行う。また、レポートにコメントを記載して返却する。

その他

認定看護管理者コース必修

本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護管理学実習	2年通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 松浦 正子・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域包括ケアシステムの観点から、在宅サービスを担う訪問看護ステーション等における看護管理の実際を見学し、その役割を理解する。

【到達目標】

1. 訪問看護ステーション等の組織管理の実際を理解する。
2. 訪問看護ステーション等の人材育成の実際を理解する。
3. 訪問看護ステーション等の看護部門責任者の役割を理解する。
4. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考察する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	実習単位：2単位（90時間） 実習場所：訪問看護ステーションや小規模多機能型居宅介護施設等。 科目担当教員との相談の上、受講生の所属施設以外の施設を受講生が選定する。 実習内容・方法： 看護職施設長にシャドーイングし、組織管理と人材管理の実際を理解する。 看護職施設長にインタビューを行い、施設長の役割を理解する。 既習内容と本実習での学びから、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考察する。	松浦・南谷

授業方法

臨地実習

時間外学習

授業目的と目標に基づき、具体的な実習目的・目標および実習計画を立案する。
 実習施設の選定と、実習受け入れの交渉を行う。選定と交渉は科目担当教員が支援する。

教科書

なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

実習内容（目標到達状況・態度）60%、レポート内容40%

フィードバック

実習中のカンファレンス時にフィードバックを行う。また、レポートにコメントを記載して返却する。

その他

認定看護管理者コース必修

本科目は認定看護管理者コースの学生のみが履修できる。

看護教育学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育に関する基礎知識を学修し、看護基礎教育と継続教育ならびに看護教員・指導者養成の現状と課題を考察することで看護教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護教育に関連する法律・制度について理解できる。
3. 看護基礎教育と継続教育の現状と課題について考察できる。
4. 看護教育における教員・指導者養成の課題について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護教育とその目的	山田 聡子
2	看護教育の歴史的変遷	山田 聡子
3	看護教育関連法規 憲法・教育基本法・学校教育法	山田 聡子
4	看護教育関連法規 大学設置基準・専修学校設置基準	山田 聡子
5	看護教育関連法規 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	山田 聡子
6	看護基礎教育の現状	山田 聡子
7	看護基礎教育の課題	山田 聡子
8	継続教育の現状	山田 聡子
9	継続教育の課題	山田 聡子
10	看護教員の養成と課題	山田 聡子
11	臨地実習指導者の養成と課題	山田 聡子
12	新人看護職員実地指導者の養成と課題	山田 聡子
13	諸外国の看護教育の現状	山田 聡子
14	看護教育の展望	山田 聡子
15	まとめ	山田 聡子

授業方法

講義：第1・2回、プレゼンテーション・討議：第3-15回

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
各回の討議に備えて関連事項を自己学習する（適宜）。

教科書

なし

参考図書

- 『看護教育学』杉森みど里、舟島なをみ、医学書院
『看護教育学 看護学テキストnice』グレッグ美鈴、池西悦子編、南江堂

評価方法

課題レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議参加状況（20%）

フィードバック

討議・発表時にその場でフィードバックする。課題レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

看護技術学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 中島 佳緒里			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護技術に関する基礎知識を修得し、看護技術における現状と課題について考察する。

【到達目標】

1. 看護技術の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護技術における倫理性ならびに倫理的問題について理解できる。
3. 看護技術における科学的原理と法則性について考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	看護技術に関する主要概念(技術学, ケアリング)	中島 佳緒里
2	看護技術の歴史的変遷	中島 佳緒里
3	ヒューマンサイエンスとしての看護技術	中島 佳緒里
4	ヒューマンサイエンスとしての看護技術	中島 佳緒里
5	看護技術に影響を及ぼす諸要因	中島 佳緒里
6	看護技術における倫理的問題	中島 佳緒里
7	看護技術における科学的原理と法則性	中島 佳緒里
8	看護技術の原理と法則性 : 生活援助技術	中島 佳緒里
9	看護技術の原理と法則性 : 生活援助技術	中島 佳緒里
10	看護技術の原理と法則性 : 安寧を提供する技術	中島 佳緒里
11	看護技術の原理と法則性 : 対人関係技術	中島 佳緒里
12	看護技術の原理と法則性 : 患者指導技術	中島 佳緒里
13	看護技術の原理と法則性 : 診療に伴う援助技術	中島 佳緒里
14	看護技術の開発	中島 佳緒里
15	開発した看護技術の臨床適用	中島 佳緒里

授業方法

講義: 第1回、プレゼンテーション・討議: 第2-15回

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。
適宜、プレゼンテーションと討議の準備を行う。

教科書

なし

参考図書

- 『看護技術の基礎理論』川島みどり、ライフサポート社
『ケア技術のエビデンス』深井喜代子、医学書院
『ケア技術のエビデンス』深井喜代子、医学書院
『ケア技術のエビデンス』深井喜代子、医学書院

評価方法

プレゼンテーション(50%)、討議参加度(50%)

フィードバック

討議・発表時にその場でフィードバックする

その他

なし

看護教育方法論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 中島 佳緒里・山田 聡子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育課程および教育展開方法の基礎知識を学修し、看護教育の方法を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育課程の編成と展開の基盤となる主要概念と理論について理解できる。
2. 看護教育課程および編成方法について理解できる。
3. 看護教育の方法と評価について理解し考察できる。
4. 授業設計と展開方法について理解し実践できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、看護教育課程とは	山田 聡子
2	主要概念・理論 レディネス、モチベーション、アンドラゴジー、職業的アイデンティティ	山田 聡子
3	主要概念・理論 ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、リフレクション	山田 聡子
4	看護基礎教育課程と編成方法	山田 聡子
5	看護教育の方法と評価：基礎知識	山田 聡子
6	看護教育の方法と評価：看護観、倫理観	山田 聡子
7	看護教育の方法と評価：対人関係スキル	中島 佳緒里
8	看護教育の方法と評価：アセスメント力	山田 聡子
9	看護教育の方法と評価：生活援助技術	中島 佳緒里
10	看護教育の方法と評価：診療の補助技術	山田 聡子
11	臨地実習における教育方法と評価	山田 聡子
12	授業設計と展開方法 指導観・学生観・教材観	山田 聡子
13	授業設計と展開方法 授業計画の立案	山田 聡子
14	授業設計と展開方法 授業計画の実施	山田・中島
15	授業設計と展開方法 授業計画の評価	山田・中島

授業方法

講義：第1回、プレゼンテーション・討議：第2 - 13・15回、授業の実施：第14回

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーションの準備を進める（適宜）。
授業実施に向けて準備を進める（適宜）。

教科書

なし

参考図書

- 『看護教育における授業設計』佐藤みつ子、宇佐美千恵子、青木康子、医学書院
- 『看護教育学』杉森みど里、舟島なをみ、医学書院
- 『看護教育学』グレッグ美鈴、池西悦子編、南江堂

評価方法

プレゼンテーション（30%）、授業計画・実施（40%）、授業計画の評価レポート（30%）

フィードバック

プレゼンテーションや授業実施後にその場でフィードバックする。授業計画の評価レポートにコメントを入れて返却する。

その他

なし

看護教育・技術学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 山田 聡子・中島 佳緒里			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育および看護技術に関する研究方法を考察し、研究計画の立案・実施に向けた基礎力を修得する。

【到達目標】

1. 看護教育および看護技術に関する研究方法を理解できる。
2. フィールドワークから研究方法を具体化する。
3. 研究計画の立案方法を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、研究計画立案方法	山田 聡子
2	看護教育に関する研究方法 認識・経験・行動の概念化	山田 聡子
3	看護教育に関する研究方法 認識・経験・行動の概念化	山田 聡子
4	看護教育に関する研究方法 実践能力の測定	山田 聡子
5	看護教育に関する研究方法 実践能力の測定	山田 聡子
6	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価1 (講義・演習)	山田 聡子
7	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価1 (講義・演習)	山田 聡子
8	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価2 (実習)	山田 聡子
9	看護教育に関する研究方法 教授活動の評価2 (実習)	山田 聡子
10	看護技術に関する研究方法 看護技術の効果測定	中島 佳緒里
11	看護技術に関する研究方法 看護技術の効果測定	中島 佳緒里
12	看護技術に関する研究方法 看護技術の開発	中島 佳緒里
13	看護技術に関する研究方法 看護技術の開発	中島 佳緒里
14	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
15	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
16	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
17	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
18	研究計画の検討 研究課題と研究目的	山田・中島
19	フィールドワーク	山田・中島
20	フィールドワーク	山田・中島
21	フィールドワーク	山田・中島
22	フィールドワーク	山田・中島
23	フィールドワーク	山田・中島
24	フィールドワーク	山田・中島
25	研究計画の検討 研究デザイン	山田・中島
26	研究計画の検討 研究デザイン	山田・中島
27	研究計画の検討 主要概念または概念枠組み	山田・中島
28	研究計画の検討 主要概念または概念枠組み	山田・中島
29	研究計画の検討 研究方法	山田・中島
30	研究計画の検討 研究方法	山田・中島

授業方法

第1回は講義を行う。第2-13回は事前に配布する文献を用いた討議を行う。第14-18・25-30回は発表・討議を行う。第19-24回は各自の研究課題に沿って研究計画の立案に要するフィールドワークを行う。フィールドワークの開始までにフィールドワークの計画を立案し、必要な調整を行うこと。

時間外学習

初回講義時にプレゼンテーション課題を提示する。プレゼンテーション準備と討議準備を行う（適宜）。
授業内容に基づき研究計画の立案を進める（適宜）。
フィールドワークの準備を進める（適宜）。

教科書

なし

参考図書

随時紹介する

評価方法

プレゼンテーション（35%）、討議参加度（30%）、フィールドワーク状況（35%）

フィードバック

発表・討議時にその場でフィードバックする

その他

なし

成人看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人看護は、対象の健康状態において必要とされる看護援助の特性に焦点を当てた考えに基づいている。ここでは、関連する理論を踏まえて、急性増悪期、周手術期、感染予防に焦点を当てて、身体における侵襲と反応、急性疼痛、感染予防について最新の研究動向を文献に基づき学習し看護を考察する。同様に、身体のみならず心においても看護実践および看護研究への活用を探求する。さらに、量的研究の文献を用いて、統計分析された結果を読み解く視点から検討する。

【到達目標】

1. 成人看護に関連する最新の文献を検討し、急性増悪期、周手術期、感染予防の研究について説明できる。
2. 急性期看護に関連する理論を理解し説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	成人看護特論のオリエンテーション、サブストラクション	東野 督子
2	成人看護学に関連した理論：ストレス・コーピング理論	東野 督子
3	急性期の状態にある患者と家族を理解するための概念：危機モデル，ボディーイメージ	東野 督子
4	ストレス・コーピング，危機モデル，ボディーイメージに関連した演習	東野 督子
5	手術侵襲と生体反応，術後の急性疼痛と看護	東野 督子
6	成人看護に関連した理論：ソーシャル・サポート	東野 督子
7	成人看護に関連した理論：ソーシャル・サポート	東野 督子
8	QOL と看護	東野 督子
9	QOL と看護	東野 督子
10	医療の動向と感染予防	東野 督子
11	医療の動向と感染予防	東野 督子
12	感染予防における看護の役割	東野 督子
13	感染予防における看護の役割	東野 督子
14	感染予防における看護の役割	東野 督子
15	まとめ	東野 督子

授業方法

講義：第1,2,3,4,5,6,7,8,10,12,13回

演習：第7,9,11,14,15回

時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業にのぞんで下さい。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する

その他

なし

周術期ケア開発特論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 東野 督子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周術期とは、手術を受ける患者の入院から退院までの期間を指す。周術期にある患者が健康危機状況にあるときから回復期までの、回復過程をたどる患者・家族の特徴とQOLの向上を目指した援助について、諸理論を活用しながら探求する。

【到達目標】

1. 疾病により変化した身体の機能の回復に向けての援助を検討する。
2. 周術期患者・家族への看護実践に関する事例等の文献を活用し、その援助方法について理論的に探究する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	東野 督子
2	手術侵襲に関する講義	東野 督子
3	呼吸器障害に対する援助	東野 督子
4	呼吸器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
5	循環器障害に対する援助	東野 督子
6	循環器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
7	消化器障害に対する援助	東野 督子
8	消化器障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
9	脳神経障害に対する援助	東野 督子
10	脳神経障害に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
11	術後合併症予防に対する援助	東野 督子
12	術後合併症予防に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
13	急性期患者の家族に対する援助	東野 督子
14	急性期患者の家族に対する援助に関する文献に基づく演習	東野 督子
15	まとめ	東野 督子

授業方法

講義：第1・2・3・5・7・9・11・13回

演習：第4・6・8・10・12・14・15回

時間外学習

予習・復習を十分な時間を使って授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

慢性病ケア開発特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 石黒 千映子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

慢性病・障害をもつ患者・家族への看護に活用できる概念や理論についての理解を深めるとともに、研究および実践の現状分析から慢性病看護の課題について検討する。さらに、慢性病・障害を持つ患者とその家族への、変化する健康の各段階に応じた看護ケアの方法について探求する。

* 慢性病には、きわめて長い経過をたどる疾患（慢性疾患）だけでなく、それによって引き起こされる心理社会的な実態が含まれる。また、慢性疾患から生じる障害は、身体機能にとどまらず生活機能全般に及ぶ。

【到達目標】

1. 慢性病・障害をもつ患者・家族の理解や看護に活用できる概念、理論について説明できる。
2. 慢性病・障害をもつ患者・家族への看護実践と課題について、先行研究を活用しながら説明できる。
3. 慢性病をもつ患者・家族への、変化する健康の各段階に応じた看護について、概念や理論、先行研究を活用しながら説明できる。
4. 先行研究および自身の体験事例を活用し、慢性病をもつ患者・家族への看護ケアの方法について理論的に探究する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション 講義：慢性病とは、 慢性病をもつ患者・家族が直面する心理社会的問題	石黒 千映子
2	講義・演習（発表・討論）：理論 病みの軌跡	石黒 千映子
3	講義・演習（発表・討論）：理論 不確かさ	石黒 千映子
4	講義・演習（発表・討論）：理論 セルフエフィカシー、トランスセオリティカルモデル	石黒 千映子
5	講義・演習（発表・討論）：理論 エンパワーメント	石黒 千映子
6	講義・演習（発表・討論）：理論 喪失、悲嘆	石黒 千映子
7	講義：急性増悪期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
8	演習（発表・討論）： 急性増悪期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
9	講義：がんの化学療法、放射線治療を受ける患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
10	演習（発表・討論）： がんの化学療法、放射線治療を受ける患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
11	講義：回復期・維持期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
12	演習（発表・討論）： 回復期・維持期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
13	講義：終末期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
14	演習（発表・討論）： 終末期にある患者・家族への看護ケア	石黒 千映子
15	まとめ（発表・討論） 慢性病をもつ患者・家族への看護ケアの方法について	石黒 千映子

授業方法

講義：第1・7・9・11・13回

演習（発表・討論）：第8・10・12・14・15回

講義・演習（発表・討論）：第2・3・4・5・6回

* 第3・5・7・9・11・13・14回の発表は、受講生が関心をもっている領域に関する内容とする。

時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業に臨む。プレゼンテーションの準備をする。（2時間）

教科書

特に指定しない。

参考図書

『中範囲理論入門』佐藤栄子編著 日総研
その他、随時紹介する。

評価方法

レポート（30％）、プレゼンテーション（40％）、討論への参加状況を含む授業態度（30％）を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

成人看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 東野 督子・石黒 千映子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人看護学分野で、学生が興味を持つ特定の重要な現象、援助技術、理論およびその活用方法について、集中的な文献検討を行なう。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、成人急性期看護学における特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行なう。検討を通して、自己の研究課題と研究デザインを明確にする。

【到達目標】

1. 自己の課題の文献のレビューができる。
2. 自己の課題と関連した機能的データの収集方法とまとめ方がわかる。
3. 自己の課題と関連した演繹的データの収集方法とまとめ方がわかる。
4. 倫理申請書と自己の課題に必要な項目を整理できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
2	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
3	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
4	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
5	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
6	文献レビューを行い自己の研究課題に関連するディスカッションを行う	東野・石黒
7	自己の研究課題に関して倫理的配慮も含めて研究方法を考える	東野・石黒
8	自己の研究課題に関して倫理的配慮も含めて研究方法を考える	東野・石黒
9	自己の研究課題に関して倫理的配慮も含めて研究方法を考える	東野・石黒
10	自己の研究課題に関して倫理的配慮も含めて研究方法を考える	東野・石黒
11	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
12	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
13	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
14	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
15	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
16	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
17	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒
18	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 帰納的研究の進め方	東野・石黒

回数	内容	担当者
19	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
20	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
21	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
22	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
23	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
24	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
25	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
26	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する 演繹的研究の進め方	東野・石黒
27	自己の研究課題を統合してプレゼンテーションを行い討議する	東野・石黒
28	自己の研究課題を統合してプレゼンテーションを行い討議する	東野・石黒
29	自己の研究課題を統合してプレゼンテーションを行い討議する	東野・石黒
30	自己の研究課題を統合してプレゼンテーションを行い討議する	東野・石黒

授業方法

演習：第1～30回

時間外学習

予習・復習に十分時間をつかって授業にのぞんで下さい。

教科書

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

評価方法

文献レビュー（50%）、計画書作成（30%）、プレゼンテーション（20%）を合算して算出する。

フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

その他

なし

母性看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期および女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題に関する研究の動向を理解し、研究疑問（リサーチクエッション）を構造化し、文献検索を行う。さらに、得られた文献を批判的に検討する。

【到達目標】

1. 周産期および女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題に関する研究の動向を理解できる。
2. 研究疑問（リサーチクエッション）を構造化できる。
3. 文献検索により得られた文献を批判的に検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	テーマの決定PECOあるいはPICO作成	野口・長田
3	妊娠・分娩期のケアに関する文献検索	野口 眞弓
4	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
5	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
6	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
7	産褥期のケアに関する文献検索	長田 知恵子
8	文献のクリティーク 選択した論文	長田 知恵子
9	文献のクリティーク 選択した論文	長田 知恵子
10	文献のクリティーク 選択した論文	長田 知恵子
11	女性のライフサイクル全般に関する文献検索	野口 眞弓
12	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
13	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
14	文献のクリティーク 選択した論文	野口 眞弓
15	まとめ	野口・長田

授業方法

第1～2回、4～6回、8～10回、12～15回 講義、第3・7・11回 演習

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読む。（2時間）講義時間外にも文献検索を行い、講義で用いる文献を選択する。（2時間）

教科書

指定しない。

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

論文クリティークの発表[90%]、討議への参加[10%]を合計して評価する。

フィードバック

講義中の論文クリティーク時にフィードバックを行う。

その他

なし

ウィメンズヘルステ論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

女性のライフサイクル全般にわたる健康や健康課題について理解し、その課題を解決するための基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. 月経前緊張症、性感染症、性に関する健康教育、経口避妊薬、更年期障害など思春期から更年期に多くみられる健康問題について説明できる。
2. 不妊症・不育症、出生前診断、遺伝相談、ペリネイタルロスでの援助について説明できる。
3. セクシャルマイノリティおよび性暴力について説明できる。
4. 災害時における妊産褥婦への支援および母性看護学領域における倫理について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	月経前緊張症	野口 眞弓
3	性感染症	野口 眞弓
4	性に関する健康教育	野口 眞弓
5	経口避妊薬	野口 眞弓
6	更年期女性における健康問題	長田 知恵子
7	不妊症・不育症 検査・治療とその看護	野口 眞弓
8	不妊症・不育症 生殖医療を必要とする対象への援助	野口 眞弓
9	出生前診断と遺伝相談	長田 知恵子
10	ペリネイタルロスとグリーフケア	長田 知恵子
11	セクシャルマイノリティ	野口 眞弓
12	性暴力	野口 眞弓
13	性暴力救援センターでの実際	野口 眞弓
14	災害時における妊産褥婦への支援	長田 知恵子
15	母性看護学領域における倫理	長田 知恵子

授業方法

第1回 講義、第2～6回 講義・発表・討議、第7回 講義、第8～12回 講義・発表・討議、第13回 講義、第14～15回 講義・発表・討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。(2時間)また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める。(1時間)

教科書

指定しない。

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

周産期ケア開発特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における健康や健康課題について理解し、その課題を解決するためのケア開発に必要な基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. ソーシャル・キャピタルや実母からのサポートを学び、妊娠期うつや産褥期うつと妊娠・出産・育児環境について関連を述べるができる。
2. マタニティ・ヨガ、アロマセラピーなどの母性看護学領域における代替療法について説明できる。
3. 出産時のケアのあり方について説明することができる。
4. 妊娠・出産に関するエビデンスを説明できる。
5. 産褥期の母子への母乳育児支援の現状と支援を説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	ソーシャル・キャピタル	野口 眞弓
3	妊娠期うつ・産褥期うつ	野口 眞弓
4	妊娠・産褥期のサポート	野口 眞弓
5	マタニティ・ヨガ 妊娠期におけるヨガの効果	野口 眞弓
6	マタニティ・ヨガ 産褥期におけるヨガの効果	野口 眞弓
7	妊娠中のセルフケア 妊娠期の口腔ケア	野口 眞弓
8	妊娠中のセルフケア アロマセラピー、鍼灸	長田 知恵子
9	妊娠中のセルフケア 運動、会陰マッサージ	長田 知恵子
10	妊娠中のマイナートラブル 冷え性	長田 知恵子
11	妊娠に関するコクラン・レビュー	野口 眞弓
12	分娩時の身体感覚	野口 眞弓
13	出産に関するコクラン・レビュー	野口 眞弓
14	母乳育児支援	長田 知恵子
15	母乳育児支援	長田 知恵子

授業方法

第1回 講義、第2～3回 講義・発表・討議、第4回 講義、第5～11回 講義・発表・討議、第12回 講義、第13～15回 講義・発表・討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする(2時間)。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める(1時間)。

教科書

指定しない。

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

母性看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 野口 眞弓・長田 知恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

母性看護学での看護の専門性を高めるために、学生が関心をもつ領域での参加観察、インタビューなどを通じ、対象理解を深め、学生が関心をもつ領域の現象の分析を行う。

【到達目標】

1. 学生が関心をもつ領域で参加観察あるいはインタビューを行うことができる。
2. 参加観察あるいはインタビューで収集した情報を分析することができる。
3. 学生が関心をもつ領域の現象を記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コースワークのオリエンテーション	野口・長田
2	関心領域の決定	野口・長田
3	関心領域の決定	野口・長田
4	関心領域の決定	野口・長田
5	フィールドの決定	野口・長田
6	フィールドの決定	野口・長田
7	フィールドの決定	野口・長田
8	フィールドの決定	野口・長田
9	フィールドと打合せ	野口・長田
10	フィールドと打合せ	野口・長田
11	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
12	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
13	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
14	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
15	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
16	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
17	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
18	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
19	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
20	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
21	データ分析の中間報告	野口・長田
22	データ分析の中間報告	野口・長田
23	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
24	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
25	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
26	フィールドでの参加観察あるいはインタビュー	野口・長田
27	データ分析	野口・長田
28	データ分析	野口・長田
29	データ分析	野口・長田
30	発表、討議	野口・長田

授業方法

第1回 講義、第2～8回 演習、第9～20回 フィールドでの演習、第21～22回 演習、第23～26回 フィールドでの演習、第27～29回 演習、第30回 発表、討議

時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする(2時間)。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献などを読むことにより知識を深める(1時間)。

教科書

指定しない。

参考図書

講義中に適宜紹介する。

評価方法

発表 [20%]、討議への参加 [20%]、レポート [60%] を合計して評価する。

フィードバック

レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

なし

小児看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児の成長発達に影響する環境との相互作用を踏まえた上で、現代の乳児期・幼児期・学童期思春期における小児と家族の健康に関する問題状況を把握し、小児と家族の健康状態を判断できる専門的知識を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの療養環境や看護の現状から、小児看護における課題と支援方法を理解できる。
2. 子どもと家族に対する倫理的配慮の必要性とそのための方法について理解できる。
3. 様々な状況にある子どもと家族に応じた看護の特徴を理解できる。
4. 子どもと家族への援助を導き出すための基本的な理論として、オレムの理論の内容と活用方法がわかる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション 子どもの療養環境と看護の現状(日本および外国)	大西・岡田
2	子どもと家族の倫理: 子どもの権利条約、子どものインフォームド・コンセント/アセント、プレパレーション	岡田 摩理
3	小児看護におけるきょうだい支援	岡田 摩理
4	キャリアオーバーの問題と成人移行期支援	大西 文子
5	発達障害の子どもを取り巻く問題と支援	岡田 摩理
6	小児救急医療と看護(小児救急医療の現状と課題、家庭看護の現状、小児救急看護のあり方)	大西 文子
7	子どもの在宅医療・看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴・課題を踏まえた支援	岡田 摩理
8	子どもの災害看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴・課題を踏まえた支援	大西 文子
9	保育所・特別支援学校における看護師の役割	大西 文子
10	地域に暮らす子どもの身体的・精神的・社会的問題と支援(子どもの生活習慣の支援を含む)	大西 文子
11	オレムのセルフケア不足理論	大西 文子
12	オレムのセルフケア不足理論	大西 文子
13	オレムの依存的ケア理論	大西 文子
14	オレムの依存的ケア理論	大西 文子
15	まとめ	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回: 講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

小野寺社紀監訳、コニー・M・デニス著: オレム看護論入門セルフケア不足看護理論へのアプローチ、医学書院、2002.

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学成長発達論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における小児や家族を対象として捉えるために、小児の各期における成長発達及び諸々の発達理論を修得する。

【到達目標】

1. 小児の各期における詳細な成長発達過程について、諸々の発達理論を通して理解できる。
2. 家族の視点から小児の成長発達を理解するために、親子関係論や家族に関する理論を理解できる。
3. 子ども自身の健康維持増進を支援するために、子どものセルフケアを支援する理論を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 発達理論の概要 (講義)	大西・岡田
2	子どもの成長発達 (胎生期・新生児期)	大西 文子
3	子どもの成長発達 (乳児期・幼児前期)	大西 文子
4	子どもの成長発達 (幼児後期)	大西 文子
5	子どもの成長発達 (学童期・思春期)	大西 文子
6	発達理論(1) : フロイト	大西 文子
7	発達理論(2) : エリクソン自我発達理論	大西 文子
8	発達理論(3) : ピアジェ発達理論	大西 文子
9	子どもと家族の発達理論(1) : マーラーの分離-固体化理論	大西 文子
10	子どもと家族の発達理論(2) : ボウルビーのアタッチメント理論	大西 文子
11	子どもと家族の発達理論(3) : 家族発達理論	岡田 摩理
12	子どもと家族の発達理論(4) : 家族アセスメントモデル	岡田 摩理
13	子どもと家族の発達理論(5) : 子どものストレスコーピング理論、 家族ストレス対処理	岡田 摩理
14	子どものセルフケアの概念と子どものセルフケア理論	岡田 摩理
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

『生涯人間発達学』上田礼子著 三輪書店
『オレム看護論 看護実践における基本概念第4版』小野寺杜紀訳/ドロセア E.オレム著 医学書院

参考図書

必要時、参考図書・資料を紹介する。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学評価方法論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

子どもと家族の発達および生活の質の向上を支援するために、包括的に査定するための方略や技術・技法を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの発達状態の評価方法を理解し、発達スクリーニングを行うことができる。
2. 子どものQOL及び家族機能を評価し、それらを高める看護について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/子どもの発達評価	大西・岡田
2	子どもの発達と評価：(1) デンバー 発達判定法	大西 文子
3	子どもの発達と評価：(2) 津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法	大西 文子
4	子どもの発達と評価：(3) 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法	大西 文子
5	子どもと家族の発達と評価：(4) 新版K式発達検査法	大西 文子
6	子どもの痛みとQOL	岡田 摩理
7	子どものQOL測定方法、QOL測定上の問題点	岡田 摩理
8	子どものQOLと成人のQOLとの違い	岡田 摩理
9	子どもと家族の発達評価	岡田 摩理
10	子どもと家族のQOLの評価とQOLを高める看護	岡田 摩理
11	家族機能の評価	岡田 摩理
12	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	大西・岡田
13	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	大西・岡田
14	子どもの状況に応じた発達スクリーニングの実際(演習・プレゼンテーション)	大西・岡田
15	まとめ ・ 授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

開講時参考文献リストや、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

なし

小児看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護学の研究の動向の理解を深めるために、学生が関心をもつ分野における国内のフィールドワークおよび英語文献をとおして、学生が関心をもつ分野の研究における現状分析と課題を見出すことができる。

【到達目標】

1. 学生が関心をもつ分野を決定できる。
2. フィールドワークのための方法論とその技術を習得できる。
3. 学生が関心をもつ分野における適切なフィールドワーク方法を理解できる。
4. 国内のフィールドワークで得た研究に関する情報について、分析できる。
5. 学生が関心をもつ分野の英語文献を購読できる。
6. 学生が関心をもつ分野の研究における現状分析と課題を発表・記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション / 関心分野について	大西・岡田
2	フィールドと活動方法	大西・岡田
3	フィールドと活動方法	大西・岡田
4	参加観察方法とその実際	大西・岡田
5	参加観察方法とその実際	大西・岡田
6	インタビュー方法とその実際	大西・岡田
7	インタビュー方法とその実際	大西・岡田
8	フィールドワークの決定	大西・岡田
9	フィールドワークの決定	大西・岡田
10	フィールドワーク	大西・岡田
11	フィールドワーク	大西・岡田
12	フィールドワーク	大西・岡田
13	フィールドワーク	大西・岡田
14	フィールドワーク	大西・岡田
15	フィールドワーク	大西・岡田
16	フィールドワーク	大西・岡田
17	フィールドワーク	大西・岡田
18	フィールドワーク	大西・岡田
19	フィールドワーク	大西・岡田
20	フィールドワークの分析と課題 (まとめ・発表)	大西・岡田
21	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
22	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
23	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
24	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
25	関心分野に用いられている研究デザインとその方法	大西・岡田
26	英語論文購読の基本・方法・実際	大西 文子
27	英語論文の構成と読み方	岡田 摩理
28	英語論文購読の学生のプレゼンテーション・討議	大西・岡田
29	英語論文購読の学生のプレゼンテーション・討議	大西・岡田
30	まとめ	大西・岡田

授業方法

第1回：講義、第2回～第3回・第4回～第7回：講義・学内演習、第8回～9回：プレゼンテーション・討議、第10回～19回：フィールドワーク、第20回：学内演習・プレゼンテーション、第21回～第25回：プレゼンテーション・討議、第26回～第27回：講義、第28回～第29回：プレゼンテーション・討議

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

指定なし

参考図書

授業の際、適宜紹介する。

評価方法

プレゼンテーション・発表(30%)、討議への参加(20%)、レポート(50%)を合計して評価する。

フィードバック

各レポートに教員評価を記載して返却する。

その他

研究・教育者コース必修

小児看護支援論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理・山崎 嘉久			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を探求するとともに、母子プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、関係専門職および諸機関に対する今後の課題を修得する。

【到達目標】

1. 現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を理解できる。
2. 小児プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、今後の課題を修得する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/子どもを取り巻く社会環境の現状分析	大西・岡田
2	日本と世界における経済・文化・自然	大西 文子
3	日本と世界における経済・文化・自然	大西 文子
4	日本と世界における家族・保育園・学校(教育)	大西 文子
5	日本と世界における家族・保育園・学校(教育)	大西 文子
6	小児保健:小児保健統計、母子保健行政および施策(第一次・第二次健やか親子を含む)	大西 文子
7	小児保健:小児保健統計、母子保健行政および施策(第一次・第二次健やか親子を含む)	大西 文子
8	学校保健:学校保健統計、学校保健行政および施策	大西 文子
9	学校保健:学校保健統計、学校保健行政および施策	大西 文子
10	親の育児困難・不安と子育て支援	大西 文子
11	虐待の現状と虐待防止対策(虐待防止法を含む)	山崎 嘉久
12	虐待の現状と虐待防止対策(虐待防止法を含む)	山崎 嘉久
13	子どもの貧困	大西 文子
14	親子保健/リプロダクティブ/ヘルツ・ライツ	岡田 摩理
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回:講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

- 『日本子ども資料年間 2019』 恩陽財団母子愛育会愛育研究所編 中央出版
- 『厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2019/2020』 財団法人厚生統計協会
- 『福祉指標 増刊 国民福祉と介護の動向 2019/2020』 財団法人厚生統計協会

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護ヘルス・アセスメント論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理・太田 有美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児各期の総合的な健康状態を評価するために、フィジカル・アセスメントの具体的な方法を学び、発達評価や家族アセスメントと統合して、包括的なヘルス・アセスメントの方法を修得する。

【到達目標】

1. 小児と家族への問診や観察技術において、アセスメントの視点が理解できる。
2. 小児の系統的なフィジカル・アセスメントの方法を理解し、実施することができる。
3. 小児各期の発達を踏まえたヘルス・アセスメントを理解し、実施することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション/小児の包括的なヘルス・アセスメント	大西・岡田
2	子どもと家族への問診や観察の方法とアセスメントの視点(子どもに特徴な問診・診察技術・治療的コミュニケーション)	岡田 摩理
3	一般状態のアセスメント(健康歴聴取・成長発達・バイタルサイン測定等からの全身状態の把握)	大西 文子
4	皮膚・爪・頭頸部・神経系のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
5	眼・耳・鼻のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
6	胸部・呼吸器のフィジカル・アセスメント	岡田 摩理
7	心臓・血管のフィジカル・アセスメント	大西 文子
8	腹部のフィジカル・アセスメント	大西 文子
9	骨格・筋・運動機能のフィジカル・アセスメント	大西 文子
10	鼠径・生殖器のフィジカル・アセスメント	大西 文子
11	子どものヘルス・アセスメント(乳児期)	太田 有美
12	子どものヘルス・アセスメント(幼児期)	太田 有美
13	子どものヘルス・アセスメント(学童期・思春期)	太田 有美
14	子どもと家族への問診と観察方法の実際(事例演習)	大西・岡田
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

小野田千枝子監修：こどものフィジカル・アセスメント 金原出版 2001

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児の病態と治療	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 後藤 芳充・神田 康司・石井 睦夫・犬飼 幸子・山田 崇春・圓若 かおり			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児期の疾患と治療の理解に基づく専門的なケアを提供するために、病態生理、検査、治療方法を修得する。

【到達目標】

1. 小児期の主要な疾患の病態と検査、治療を理解できる。
2. 専門的なケアを提供するための治療方法として、人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	小児の薬物療法	後藤 芳充
2	低出生体重児の病態と診断・検査・治療	山田 崇春
3	先天性心疾患の病態と診断・検査・治療	犬飼 幸子
4	小児消化器疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
5	小児腎・尿路疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
6	小児内分泌・代謝疾患の病態と診断・検査・治療	圓若 かおり
7	小児アレルギー・免疫疾患の病態と診断・検査・治療	神田 康司
8	小児血液・腫瘍の病態と診断・検査・治療	石井 睦夫
9	小児血液・腫瘍の病態と診断・検査・治療	石井 睦夫
10	小児脳神経疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
11	小児外科疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
12	小児外科疾患の病態と診断・検査・治療	後藤 芳充
13	重症心身障害の病態と診断・検査・治療 (人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を含む)	後藤 芳充
14	重症心身障害の病態と診断・検査・治療 (人工呼吸器、気管切開、吸引、栄養療法等を含む)	後藤 芳充
15	まとめ・授業評価	後藤 芳充

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。(適宜)

教科書

なし

参考図書

必要時、参考書の紹介、資料の配布を行う。

評価方法

討議およびプレゼンテーションへの参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

単元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児CNS機能と役割演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理・江見 たか江・太田 有美・田崎 あゆみ・深谷 基裕			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における高度実践看護師の役割と活動に必要な倫理的判断能力、調整・教育・相談の高度な実践技術を学び、複雑な症例について小児と家族及び専門職者に適した援助方法を開発する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護学の機能と役割・今後の展望の現状から、高度実践看護師の果たすべき役割や活動を理解できる。
2. 小児看護領域における権利擁護の視点、管理や技術の現状・課題を理解できる。
3. 小児の援助を導き出す基本的な理論を活用して、複雑で困難な健康問題や生活に課題を抱える事例をアセスメントし、解決方法を理解できる。
4. 組織の現状分析から、小児看護に必要な実践・倫理調整・教育・調整・相談・研究についての課題を見出し、具体的な方略を検討し提示することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション ・日本および外国における小児看護学の機能と役割・今後の展望 ・高度実践看護師 (APN) の役割と活動	大西・岡田
2	子どもと家族の権利擁護に関する現状と課題 (マル・トリートメントを含む)	大西・岡田
3	小児看護管理の現状 (小児科外来、小児病棟、リスクマネジメント)	大西・岡田
4	小児看護技術の現状と課題	大西・岡田
5	セルフケア不足理論と依存的ケア理論を活用した看護過程とその展開方法	大西・岡田
6	セルフケア不足理論と依存的ケア理論を活用した看護過程とその展開方法	大西・岡田
7	紙上事例を用いた看護展開方法 (ハイリスク新生児およびNICU看護)	江見・大西・岡田
8	紙上事例を用いた看護展開方法 (ハイリスク新生児およびNICU看護)	江見・大西・岡田
9	紙上事例を用いた看護展開方法 (急性期にある子どもと家族の看護)	大西・岡田
10	紙上事例を用いた看護展開方法 (慢性期にある子どもと家族の看護)	岡田・大西
11	紙上事例を用いた看護展開方法 (終末期にある子どもと家族の看護)	大西・岡田
12	組織の現状分析	太田・大西・岡田
13	組織の現状分析	太田・大西・岡田
14	小児看護における退院調整 (演習を含む)	太田・大西・岡田
15	小児看護における退院調整 (演習を含む)	太田・大西・岡田
16	小児看護における高度実践 (演習を含む)	深谷・大西・岡田
17	小児看護における高度実践 (演習を含む)	深谷・大西・岡田
18	倫理調整 (事例分析、援助方法の提案、演習を含む)	太田・大西・岡田
19	倫理調整 (事例分析、援助方法の提案、演習を含む)	太田・大西・岡田
20	教育 (ニード分析、教育計画立案、演習を含む)	田崎・大西・岡田
21	教育 (ニード分析、教育計画立案、演習を含む)	田崎・大西・岡田
22	調整 (事例分析、調整の方略の提示、演習を含む)	田崎・大西・岡田
23	調整 (事例分析、調整の方略の提示、演習を含む)	田崎・大西・岡田
24	相談 (演習を含む)	田崎・大西・岡田
25	相談 (演習を含む)	田崎・大西・岡田
26	研究 (演習を含む)	深谷・大西・岡田

回数	内容	担当者
27	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
28	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
29	6つの機能と役割に関する演習レポート作成	大西・岡田
30	まとめ・授業評価	大西・岡田

授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

『オレム看護論入門 セルフケア不足看護理論へのアプローチ』 小野寺杜紀監訳、コーナー・M・デニス著 医学書院 1999

参考図書

開講時参考文献リストを配布し、随時授業で資料の配布を行う。

評価方法

演習および討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

フィードバック

單元ごとの授業において、学修内容のフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習	1年後期	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

代表的な疾患、診断・治療の経過を理解し、診断治療のプロセスを踏まえて、症状と治療方法をアセスメントできる能力を養う。小児看護専門看護師として、卓越したケアを実践するために、子どもや家族の複雑な健康問題を理解し、問題解決への手立てを考察する能力を養う。

【到達目標】

1. 小児科医のシャドーイング実習を行い、年齢が異なる子どもや複数の疾病種類からなる10事例以上の子どもの診断・治療の理解を深める。
2. 小児によく見られる代表的な疾患の理解、診断・治療の経過について理解できる。
3. 子ども・家族に対して、子どもに関する疾患の理解や診断・治療の経過を踏まえたアセスメントができ、エビデンスに基づいた対象の健康生活を維持・促進するための援助を専門看護師として実践できる。
4. 経験事例について、プロセスを振り返りエビデンスのあるレポートにまとめることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>実習単位：2単位（90時間以上） 実習場所：名古屋第二赤十字病院小児科外来または小児病棟 実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児科医師が勤務する臨地において、小児科医師のシャドーイング実習を行う。 2) 医師の診療場面や臨床カンファレンスおよび病棟回診に参加し、子どもの症状に関する診断の手がかりから診断プロセスを追い、症状と治療法を関連づける。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の診断プロセス（診断の手がかりをつかむ） 2) 治療の選択、症状マネジメント、フィジカル・アセスメント 3) 小児と家族へのIC 4) 具体的内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) できるだけ年齢が異なる子どもを選択する。 新生児期、乳児期、幼児前期、幼児後期、学童期、思春期、キャリアオーバーにある時期 (2) 疾患や診断・治療の経過を理解するために、同じ疾患をもつ事例を複数例担当する。 低出生体重児、小児消化器疾患、先天性心疾患、小児腎疾患、小児内分泌疾患、小児アレルギー疾患、小児血液・腫瘍、小児脳神経疾患、重症心身障害児、小児精神疾患など。 5) 実習指導・助言 <ol style="list-style-type: none"> (1) 毎日、学生自身がショートカンファレンスを開き、実習調整を図る。 (2) 実習場で、指導医師または指導医師以外へ質問・確認し、助言を積極的に受け学ぶ。 (3) 担当教員のスーパービジョンは、実習場および大学で適宜行う。 6) レポートにまとめる際の注意事項 年齢が異なる子どもや複数の疾病種類からなる10事例以上の小児の診断・治療に関するレポートに取り組む。 	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考図書の紹介、資料の配布を行う。

評価方法

実習評価表（40％）、レポートにおけるケーススタディ 評価（40％）、実習・討議への参加度（20％）

フィードバック

レポート提出毎にフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習（CNS機能と役割実習）	2年前期	2単位（90時間）	選択必修
担当：大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における高度実践者として、新生児期から思春期にある子どもやその家族に対して、より質の高い効果的なケアを行うためのCNSの機能と役割〔実践、相談、教育、調整（チームアプローチとパートナーシップ）、倫理調整、研究〕について、講義と演習で修得した内容を統合し、看護実践の実際を理解する。

【到達目標】

1. 小児看護専門看護師（CNS）の活動の実際を見学し、6つの機能と役割について理解する。
2. 小児看護専門看護師（CNS）の視点から、組織や場の現状分析を行い、小児看護における課題を見出し、研究の視点を見出すことができる。
3. 小児看護専門看護師（CNS）の視点から、小児看護における課題解決のための方略を創造的に見出すことができる。
4. 小児看護専門看護師（CNS）の指導のもと、複雑あるいは解決困難な問題を抱えるケースを受け持ち、多角的視点からアセスメントした上でエビデンスに基づいた直接ケアを実践することができる。
5. 子どもと家族に対してより質の高いケアを提供するために、小児看護専門看護師（CNS）として自らの6つの機能と役割を用いた実践内容を分析し、成果や課題を明らかにできる。
6. 小児看護専門看護師（CNS）としての自らのあり方・資質・能力を客観的に分析した上で自己課題を明確にし、自律的に取り組むことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習単位：2単位（90時間以上） 2. 実習場所 名古屋第一赤十字病院：小児病棟、小児外来、新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）、ICU、院内学級 あいち小児保健医療総合センター：各病棟、各外来、特別支援学校 トヨタ記念病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU 3. 実習内容 1) 展開方法 小児看護専門看護師が勤務する臨地において、CNSの6つの役割と機能の実際を、主体的に見学・参加する。特に実践では、小児看護CNSと指導教員のスーパービジョンを受けながら、取り組む。 2) 実習内容 (1) 小児看護専門看護師の役割と機能における見学・参加実習内容 小児看護におけるリエゾン看護 相談活動 チームアプローチとパートナーシップ 小児看護におけるスタッフ教育 その他：コーチング、ファシリテーション、ソリューションフォーカス等 (2) 小児看護専門看護師の役割と機能における実践 先天性奇形・疾病および障害の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族などへの看護	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表（40%）、ケーススタディ評価（40%）、討議への参加度（20%）

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習	2年前期	4単位 (180時間)	選択必修
担当: 大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

卓越した専門的能力を持つ小児看護高度実践者として、新生児期から思春期にある複雑で解決困難な問題を抱える子どもやその家族に対して、CNSの機能と役割〔実践、相談、教育、調整（チームアプローチとパートナーシップ）、倫理調整〕を用いて、子どもと家族の健康生活を維持・促進するためのより質の高い効果的なケアを実践できる高度な実践技術を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護専門看護師（CNS）として、新たな組織の中で保健医療福祉専門職者の一員として、他の専門職者を尊重した関係性を構築できる。
2. 小児看護専門看護師（CNS）として、複雑あるいは解決困難な問題を抱えるケースを受け持ち、多角的視点からアセスメントした上でエビデンスに基づいた直接ケアを自律的に実践する。
3. 小児看護専門看護師（CNS）として、小児看護に携わるケア提供者の悩みや葛藤を引き出し、内容に応じた相談を実施し、肯定的変化に導くことができる。
4. 小児看護専門看護師（CNS）として、子どもと家族に対してよりよいケアを提供するために、小児看護における保健医療福祉・教育関係者間の認識・意思統一及び共通したビジョンのもとにケアを展開するための調整を実施できる。
5. 小児看護専門看護師（CNS）として、子どもと家族について権利擁護の観点から、問題となる事象や葛藤について気づき、倫理分析を行った後に解決に向けた活動を実施できる。
6. 小児看護専門看護師（CNS）として、個人・組織の顕在的・潜在的教育ニーズを抽出し、各ニーズに対応したケアの質の向上に寄与する教育活動を実施できる。
7. 小児看護専門看護師（CNS）としての自らのあり方・資質・能力を客観的に分析した上で、CNSの機能における自己課題を明確にし、自律的に取り組みことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	1. 実習期間：小児CNS機能と役割演習終了後～2年 2. 実習施設 1) 実習対象施設 名古屋第一赤十字病院：小児病棟、小児外来、新生児集中治療室（Neonatal Intensive Care Unit：NICU）、ICU、院内学級 名古屋第二赤十字病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU、院内学級 あいち小児保健医療総合センター：各病棟、各外来、特別支援学校 トヨタ記念病院：小児病棟、小児外来、NICU、ICU 2) 実習施設の選択 学生の職務経験・興味・関心をふまえ、上記施設の内、一人の学生が一施設を実習施設として選択し、実習を行うものとする。原則として、小児CNS機能と役割実習の実習施設とは異なる施設を選択する。 3. 実習内容：専門看護師の指導のもと、自立して場や状況の開拓を行い、直接的ケア2事例、その他の機能については必要時レポートをまとめ評価を受ける。 実習計画：小児看護学実習 の要項を参照する。	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。（適宜）

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表（40%）、ケーススタディ評価（20%）、プロセスレコード評価(20%)、討議への参加度（20%）

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

小児看護学実習（小児看護高度実践統合実習）	2年通年	2単位（90時間）	選択必修
担当：大西 文子・岡田 摩理			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護実践を通して、小児看護専門看護師の機能のうち特に多職種との連携・協働、調整、倫理調整などの役割の理解を深めるとともに、これらの役割を発揮し、リーダーシップがとれる専門的看護実践能力を修得する。さらに、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策が実践できる。

【到達目標】

1. 複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護を計画し実践できる。事例の分析を通して、必要な多職種との連携・協働、調整・倫理調整などを含めた高度看護実践技術を活用する。
2. 複雑あるいは解決困難な健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な多職種との連携・協働、調整、倫理調整において、リーダーシップをとり、専門的看護実践能力を発揮できる。
3. 小児看護専門看護師（CNS）として、組織のもつ顕在的な研究ニーズの分析や自己の研究分野に関連した視点から、組織で取り組まれている看護を分析して課題を抽出し、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策について考察・実践する。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	実習期間：小児看護学実習 終了後～2年後期 実習場所：名古屋第二赤十字病院：小児病棟、小児科外来、NICU、ICU、院内学級 必要に応じて必要な医療福祉教育機関も含む。 実習内容 1. 子どもと家族の問題を分析し、解決のための看護実践を行う。家族調整への適切な倫理調整を図る。 2. 複雑あるいは解決困難な事例への調整の実際を学ぶ。 3. 複雑あるいは解決困難な事例にかかわる看護師と協働し、専門看護師が多職種との連携・協働、調整、倫理調整をどのように展開しているのかを把握し、実践する。 4. 子どもと家族の健康問題の解決に必要とされる多職種との連携・協働を適切に行う。 ・専門看護師の指導のもと、自立して場や状況の開拓を行い、直接的ケア3事例以上のレポートをまとめ評価を受ける。事例では、子どもとその親・家族に対して卓越した看護を実施する過程において、必要な調整、倫理調整を行う。 ・事例数については、各自の修得状況によって異なる場合もある。 ・実習計画：小児看護学実習 の要項を参照する。	大西・岡田

授業方法

期間中、実習内容について振り返りスーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

教科書

なし

参考図書

必要時、参考文献や資料を紹介する。

評価方法

評価表（40%）、ケーススタディ評価（20%）、プロセスレコード評価（20%）、討議への参加度（20%）

フィードバック

実習内容に沿ってスーパービジョン等を行い、フィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

老年・在宅看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高齢者の生涯発達および健康・生活に関する概念および理論を理解し、老年看護・在宅看護の実践と研究への適応について検討する。

【到達目標】

1. 高齢者の特徴をエイジング、生涯発達理論等を基に説明できる。
2. 老年看護・在宅看護の基盤となる理論・概念を説明できる。
3. 高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価方法について説明できる。
4. 老年看護・在宅看護領域における倫理的課題と倫理的調整について説明できる。
5. 老年看護・在宅看護に関する課題を検討し記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス	小林 尚司
2	高齢者を理解するための理論・概念：生涯発達理論 ライフヒストリー	小林 尚司
3	高齢者を理解するための理論・概念：家族 環境	小林 尚司
4	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：セルフケア	小林 尚司
5	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：コンフォート・エンパワメント	小林 尚司
6	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：家族看護	小林 尚司
7	老年・在宅看護の基盤となる理論・概念：多職種連携	小林 尚司
8	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：身体・精神的機能	小林 尚司
9	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：社会的機能・日常生活機能	小林 尚司
10	高齢者・在宅療養者の健康と生活に関する評価：家族アセスメント	小林 尚司
11	老年・在宅看護における倫理的課題：意思決定におけるジレンマ	小林 尚司
12	老年・在宅看護における倫理的課題：エイジズム	小林 尚司
13	老年・在宅看護における倫理的課題：虐待	小林 尚司
14	老年看護・在宅看護の展望と課題	小林 尚司
15	まとめ	小林 尚司

授業方法

第1回 講義

第2～15回 文献購読・発表・討議・講義により行う。

時間外学習

予習は、上記の内容に該当する文献を読む。復習は、授業で学習した内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。(適宜)

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

課題(プレゼンテーション30%・レポート40%)、受講態度(30%)を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他
なし

認知症ケア特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・今福 恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

認知症を持つ高齢者やその家族を看護するために必要な知識と技術を学び、認知症を持つ高齢者の生活を支える看護を探究する。

【到達目標】

1. 認知症高齢者とその人の生活のアセスメントについて説明できる。
2. 認知症高齢者を支えるサポートシステムについて説明できる。
3. 認知症高齢者およびその家族にとっての望ましい生活とそのための看護について理論的に探究し、記述できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	オリエンテーション	小林 尚司
2	認知症の病態と治療	小林 尚司
3	認知症のリハビリテーション・非薬物療法	小林 尚司
4	認知症の心理行動症状	小林 尚司
5	認知症高齢者の主観的な体験	小林 尚司
6	認知症高齢者のケアの原則	小林 尚司
7	Pearson-Centered Careとケアマッピング	小林 尚司
8	認知症高齢者とのコミュニケーション	小林 尚司
9	認知症高齢者のアセスメント	小林 尚司
10	認知症高齢者における倫理的課題と意思決定支援	小林 尚司
11	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林・今福
12	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習	小林・今福
13	在宅認知症高齢者の家族の支援	今福 恵子
14	在宅認知症高齢者の多職種連携	今福 恵子
15	まとめ：認知症ケアのエキスパート像	小林・今福

授業方法

第1回 講義

第2～15回 文献購読・発表・討議・講義により行う。

時間外学習

予習は該当する内容について、文献学習を行う。復習は授業内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。(適宜)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

課題(プレゼンテーション30%・レポート40%)、受講態度(30%)を総合して評価する。

フィードバック

プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他

なし

老年・在宅療養者共生支援論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・今福 恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高齢者・在宅療養者の健康問題および生活障害とサポートシステムを理解し、生活の場や状況に応じた看護を探究する。

【到達目標】

1. 老化に伴う身体・心理・社会的な機能の変化とその評価について説明できる。
2. 高齢者・在宅療養者の健康および生活を支える社会資源について説明できる。
3. 高齢者・在宅療養者の生活と機能を維持する支援について説明できる。
4. 終末期にある高齢者・在宅療養者とその家族への支援について説明できる。
5. 在宅で療養する難病患者への災害時および多職種による支援について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 高齢者・在宅療養者の生活をとらえる視点	小林 尚司
2	老化による心身機能の変化：身体的・精神的・社会的機能の評価	小林 尚司
3	保健医療福祉制度および施策と看護	小林 尚司
4	高齢者の生活の場に応じた支援	小林 尚司
5	高齢者の機能維持の技術	小林 尚司
6	終末期にある高齢者とその家族の看護：エンド・オブ・ライフ・ケア	小林 尚司
7	終末期にある高齢者とその家族の看護：アドバンス・ケア・プランニング、蘇生不要指示	小林 尚司
8	終末期にある高齢者とその家族の看護：悲嘆・グリーフケア	小林 尚司
9	在宅療養者とその家族の看護：終末期療養者支援におけるモラルジレンマ	小林 尚司
10	在宅療養者とその家族の看護：在宅難病患者の災害時支援 専門職支援	今福 恵子
11	在宅療養者とその家族の看護：在宅難病患者の災害時支援 当事者・自助力	今福 恵子
12	在宅療養者とその家族の看護：地域包括ケアにおける多職種連携の実践	今福 恵子
13	在宅療養者とその家族の看護：多重課題を持つ療養者支援におけるモラルジレンマ	今福 恵子
14	在宅療養者とその家族の看護：在宅神経難病患者支援 コミュニケーションツール	今福 恵子
15	まとめ	小林・今福

授業方法

第1回 講義

第2～15回 文献購読・発表・討議・講義により行う。

時間外学習

予習は、上記の内容に該当する文献を読む。復習は、授業で学習した内容について理解できるまで、時間をかけて振り返る。(適宜)

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

課題(プレゼンテーション30%・レポート40%)、受講態度(30%)を総合して評価する。

フィードバック
プレゼンテーションに対してその場でフィードバックを行う。

その他
なし

老年・在宅看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 小林 尚司・今福 恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

老年・在宅看護に関する複雑な現象の分析力の向上と、課題解決に向けた提案できる能力の養成を目的とする。

【到達目標】

1. 経験した事例について、その現象が生じる背景について、文献並びに理論を用いて多面的かつ総合的に探究できる。
2. 問題の分析に必要な情報を検討し、実際にフィールドに赴いて情報を得ることができる。
3. フィールドワークを評価・修正できる。
4. フィールドワークで得た情報をもとに、老年看護・在宅看護の今後の課題とその研究への適用について検討できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 高齢・在宅の特性と看護	小林・今福
2	老年・在宅看護に関する経験の振り返りと問題提起	小林・今福
3	老年・在宅看護に関する経験の振り返りと問題提起	小林・今福
4	フィールドワークの準備 経験した看護現象について理論を用いて分析し、問題の焦点を明確化する	小林・今福
5	フィールドワークの準備 経験した看護現象について理論を用いて分析し、問題の焦点を明確化する	小林・今福
6	フィールドワークの準備 経験した看護現象について理論を用いて分析し、問題の焦点を明確化する	小林・今福
7	フィールドワークの準備 経験した看護現象について理論を用いて分析し、問題の焦点を明確化する	小林・今福
8	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・今福
9	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・今福
10	フィールドワークの準備 観察項目およびインタビュー内容の精選	小林・今福
11	フィールドワークの実施	小林・今福
12	フィールドワークの実施	小林・今福
13	フィールドワークの実施	小林・今福
14	フィールドワークの実施	小林・今福
15	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・今福
16	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・今福
17	データの解釈による問題の精練と、必要な追加データの検討	小林・今福
18	データの解釈による問題の精練と、必要な追加データの検討	小林・今福
19	再フィールドワーク	小林・今福
20	再フィールドワーク	小林・今福
21	再フィールドワーク	小林・今福
22	再フィールドワーク	小林・今福
23	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・今福
24	フィールドワークで得られたデータの整理	小林・今福
25	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・今福
26	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・今福
27	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・今福
28	文献を用いた考察と今後の課題の検討	小林・今福

回数	内容	担当者
29	今後の課題の研究への適用 まとめ	小林・今福
30	今後の課題の研究への適用 まとめ	小林・今福

授業方法

第1回 講義

第2～10回、第15～18回、第23～30回は、文献購読・発表・討議・講義により行う。
 第11～14回、第19～22回は、高齢者・在宅療養者が療養する場（特別養護老人ホーム、老人保健施設、通所施設他）にてフィールドワークを行う。

時間外学習

授業前は、文献を読みプレゼンテーションおよび討議・フィールドワークの準備を行う。
 授業後には、討議やフィールドから得た課題に応じた学習を行う。（時間は必要に応じて適宜）

教科書

特に指定しない

参考図書

授業中に随時紹介する

評価方法

受講態度（50％）、レポート（50％）を総合して評価する。

フィードバック

討議の中でフィードバックを行う。

その他

なし

精神保健医療論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神的な問題を持つ人の支援に有用な精神保健医療、福祉の制度や体制を理解したうえで、患者と家族の基本的な人権を保障し、QOL向上をめざす精神医療の展望を探求する。

【到達目標】

1. 看護実践上の法的・倫理的概念、健康行動、ソーシャルサポート、エンパワメント、自立支援の概念が理解できる。
2. 地域の社会資源・施設の有効活用、支援に必要な資源開発の観点、および現状の医療制度における高度専門看護職の機能について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス：精神保健医療福祉政策と社会の諸側面	村瀬 智子
2	精神障がい者の保健医療福祉政策とその歴史	村瀬 智子
3	精神保健福祉法の思想と現行施策	村瀬 智子
4	精神障がい者の人権擁護と法	村瀬 智子
5	精神障がい者の入院支援の功罪 リハビリテーションと社会化	村瀬 智子
6	保健医療状況における家族支援	村瀬 智子
7	精神障がい者ノーマライゼーションの国際的動向とその具体的な取り組み例	村瀬 智子
8	ソーシャルサポート - 生活支援制度と社会資源の開発	村瀬 智子
9	ケースマネジメントと精神保健医療福祉にかかわる専門職と連携	村瀬 智子
10	エンパワメントとセルフヘルプグループ	村瀬 智子
11	演習：自立支援と就業支援の現状とケア	村瀬 智子
12	演習：周辺地区の保健福祉施設の支援状況：プレゼンテーションとディスカッション	村瀬 智子
13	演習：周辺地区の心の支援プログラム探索 活用の可能性：プレゼンテーションとディスカッション	村瀬 智子
14	演習：外来と病棟における患者と家族の統括的ケアとは	村瀬 智子
15	まとめ 高度実践看護師の機能と役割、その展望	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神保健 現代の視点と展開』 神郡博編著 看護の科学社

参考図書

『現代精神医学原論』 ナシア・ガミー著 村井俊哉訳 みすず書房
『メンタルケア論1、2』 メンタルケア協会編 メンタルケア協会
『日本精神病治療史』 八木剛平、田辺英著 金原出版
『西欧精神医学背景史』 中井久夫 みすず書房
『精神保健福祉白書 2015年版』 精神保健福祉白書編纂委員会 中央法規出版
『看護に必要な精神保健制度ガイド』 植田俊幸、佐々木明子編 中山書店
『新・看護者のための精神保健福祉法Q & A』 日本精神科看護協会編
その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

精神健康行動評価論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・大島 泰子・服部 希恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神の健康状態のアセスメントおよび精神病理の理解と評価方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 精神障がい の病因・徴候・経過と予後についてライフスパンにおいて捉え理解できる。
2. DSM-5やICD-10などの精神障害診断基準について比較検討し、看護の視点から評価できる。
3. 精神状態を評価する様々な評価尺度の活用方法について理解できる。
4. ライフステージやライフコースに応じた評価尺度の選択について理解できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス / 看護過程と看護診断 看護面接技術と情報収集	村瀬智子
2	精神状態のアセスメント(Mental Status Examinations)	大島 泰子
3	心理社会的アセスメントと評価	村瀬 智子
4	精神障がい診断基準：DSM-5とICD-10	大島 泰子
5	統合失調症の理解と評価	大島 泰子
6	感情障がいの理解と評価	村瀬 智子
7	認知機能障がいの理解と評価 せん妄の理解と評価	村瀬 智子
8	自殺のアセスメント	村瀬 智子
9	不安・抑うつ・怒り・攻撃性・トラウマ・虐待・DVのアセスメントと評価 暴力被害サバイバーのアセスメント 暴力の評価とアンガーコントロール	村瀬 智子
10	薬物・アルコール依存症のアセスメント	村瀬 智子
11	精神身体合併症とフィジカル・アセスメント	村瀬 智子
12	AIDSの精神医学的側面	村瀬 智子
13	精神看護学の教育方法 精神障がいをもつ人の言動の意味と現象学 失敗から学ぶ精神看護学	村瀬 智子
14	精神看護学の継続教育方法 主観 客観の対立的共存	村瀬 智子
15	まとめ：精神保健医療において看護の視点でアセスメントし評価判定することの意義と重要性について討論する。	服部・村瀬

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

なし

参考図書

- 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub
- 『DSM 5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編] 医学書院
- 『ICD-10精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン』 WHO編 融道男他訳 医学書院
- 『看護診断ハンドブック 第11版』 リンダ J. カルペニート 竹花富子訳 医学書院
- 『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020』 T.ヘザー・ハードマン編 中木高夫訳 医学書院
- 『ケアの評価とナースサポート』精神看護エキスパート9 坂田三允総編集 中山書店
- 『身体合併症の看護』精神看護エキスパート3 坂田三允総編集 中山書店
- 『衝動性と精神看護』精神看護エキスパート20 坂田三允総編集 中山書店
- 『統合失調症急性期看護マニュアル』 安保順子編 すぴか書房
- 『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
- 『Physical examination & health assessment』 Jarvis, C: (8th ed.), Saunders.
- 『心理社会的援助の看護マニュアル』 Gorman, L.M., Sultan, D.F., & Raines, M.L. 池田明子(訳) 医学書院.
- 『抗精神病薬の「身体副作用」がわかる』 長嶺敬彦 医学書院
- その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、プレゼンテーション〔50%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

なし

精神看護学地域共生論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

人間は開放系として、環境との相互作用を行いながら生活を営んでいる。したがって、環境の影響は全人的な健康を保持・増進する上で重要な要因となる。

本科目では精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、講義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直す。その上で、環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、ストレンクスを活かしながら自己決定を支える看護の視点から具体的事例に基づき論考する。

【到達目標】

1. 全人的な健康を保持・増進する上で、環境が重要な影響要因であることが理解できる。
2. 精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直すことができる。
3. 環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、家族構造や生活環境の変化の観点から述べるができる。
4. ストレンクスを活かしながら自己決定を支える看護という視点から具体的事例を検討することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 心身の健康と環境看護	村瀬 智子
2	文化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
3	文化と心身の健康（実践編）：自閉症、広汎生発達障害	原田 真澄
4	家族構造の変化と心身の健康（理論編）	原田 真澄
5	家族構造の変化との心身の健康（実践編） ：虐待、育児放棄、老年期精神病	原田 真澄
6	生活環境の変化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
7	生活環境の変化と心身の健康（実践編1） ：環境汚染病、過敏症、依存症	村瀬 智子
8	生活環境の変化と心身の健康（実践編2） ：急性ストレス障害、適応障害、摂食障害、高次脳機能障害	原田 真澄
9	統合・崩壊過程と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
10	統合・崩壊過程と心身の健康（実践編）：統合失調症、人格障害	原田 真澄
11	病の進化論とライフサイクル（理論編）	村瀬 智子
12	病の進化論とライフサイクル（実践編） ：ライフサイクルにおける気分障害、認知症	原田 真澄
13	ストレンクスを活かし自己決定を支える精神看護	村瀬 智子
14	構造主義の観点から捉えた環境看護論	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本科目を受講するためには、全人的な健康とは何かということを改めて問い直し、文化、家族、生活を含む広義の“環境”という概念を検討するための基本的知識が必要です。その上で、精神疾患について捉えなおすことが求められます。そのため、本科目を受講するにあたっては、教科書や参考図書などを事前に十分予習して授業に臨み、その後は授業で学んだことや、引用された文献を読み直すなど、学びを振り返る復習が必要不可欠です。予習復習は、1回の授業につき少なくとも1週間程度が必要です。

教科書

『人間エコロジーと環境汚染病：公害医学序談』 セロン・G・ランドルフ著 農産漁村文化協会

参考図書

- 『生命とストレス』 ハンス・セリエ 工作舎 1997
『Florence Nightingale Today』 B. M. Dossey, L. C. Selanders, D. M. Beck and A. Attewell American Nurses Association, Silver Spring, Maryland 2005
『The Strengths Model 3rd』 C. A. Rapp & R. J. Goscha Oxford University Press 2012
『文明と病気 上下(岩波新書青版850,851)』 H. E. シゲリスト 岩波書店 1973
『生涯発達心理学 エリクソンによる人間の一生とその可能性 新版』 B. M. Newman & P. R. Newman 川島書店 1988
『はじめての構造主義(講談社現代新書898)』 橋爪大三郎 講談社 1988
『化学物質過敏症(文春新書230)』 柳沢幸雄、石川哲、宮田幹夫 文藝春秋 2002
『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed.』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

研究・教育者コース必修

精神看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護学における中心的な概念や現象について理解を深め、精神看護学における文献検討を通して、研究課題を探究する能力を養う。

【到達目標】

1. 精神看護学に関わる概念や研究の動向を踏まえて文献検討ができる。
2. 精神看護学の研究課題の探究ができる。
3. 精神看護学における研究方法の検討ができる。
4. 研究計画書を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	授業ガイダンス 及び 精神看護学の特徴と課題	村瀬 智子
2	精神看護学に関わる重要概念（ストレンクス、レジリエンス、リフォーミング、ライフサイクル、治療的環境等）と概念分析	村瀬・原田
3	精神看護学に関わる重要概念（ストレンクス、レジリエンス、リフォーミング、ライフサイクル、治療的環境等）と概念分析	村瀬・原田
4	精神看護学における研究の動向、文献検討の方法	村瀬・原田
5	精神看護学における研究の動向、文献検討の方法	村瀬・原田
6	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
7	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
8	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
9	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
10	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
11	精神看護学における研究課題の探究：研究課題に関する文献検討（発表・討議）	村瀬・原田
12	精神看護学における研究方法の検討：研究目的の明確化と研究デザインの検討（発表・討議）	村瀬・原田
13	精神看護学における研究方法の検討：研究目的の明確化と研究デザインの検討（発表・討議）	村瀬・原田
14	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
15	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
16	精神看護学における研究方法の検討：インタビュー・参加観察・アクションリサーチ等のデータ収集方法の検討（発表・討議）	村瀬・原田
17	精神看護学における研究方法の検討：研究における倫理的配慮の検討（発表・討議）	村瀬・原田
18	フィールドワークガイダンス	村瀬・原田
19	フィールドワーク	村瀬・原田
20	フィールドワーク	村瀬・原田
21	フィールドワーク	村瀬・原田
22	フィールドワーク	村瀬・原田
23	フィールドワークのまとめ：演習	村瀬・原田
24	フィールドワークのまとめ：討議	村瀬・原田
25	研究計画書の作成：文献検討の文章化	村瀬・原田

回数	内容	担当者
26	研究計画書の作成 : 文献検討の文章化	村瀬・原田
27	研究計画書の作成 : 文献検討の文章化	村瀬・原田
28	研究計画書の作成 : 研究方法についての文章化	村瀬・原田
29	研究計画書の作成 : 研究方法についての文章化	村瀬・原田
30	研究計画書の発表	村瀬・原田

授業方法

講義、発表、討議

時間外学習

本科目では、学習内容に関する文献等を事前に熟読し、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。授業後は、授業内容を振り返り、理解を深めて今後の学習課題を設定する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

受講態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔55%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

研究・教育者コース必修

精神科治療と看護	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・石黒 千映子・平野 千晶・山田 浩雅・加藤 明美			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護介入として、対象のライフステージに応じた精神領域の個別のセラピーができるために、精神領域で適用される、身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について学ぶ。

【到達目標】

1. 身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について説明できる。
2. 心理社会的療法について、訓練を受けた専門家が言語を用いて実施する精神心理療法と病理に直接働きかける療法について概念・理論・研究・実践の基本を理解できる。
 - (1) 精神心理療法（精神分析、交流分析、実存主義的アプローチ、認知行動療法など）について説明できる。
 - (2) 表現療法、イメージ療法について説明できる。
 - (3) 広義の精神療法として集団・家族・環境療法や補完・代替療法について説明できる。
 - (4) 療法の各ライフステージへの適用、適切な看護介入について考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス 精神科治療と高度実践看護師の役割	村瀬・加藤
2	身体医学療法	平野 千晶
3	精神科薬物療法（その1）：薬理的観点から 精神科薬物療法の歴史、精神科薬物療法（主に統合失調症、双極性障害）の作用・有害事象、分類	村瀬 智子
4	精神科薬物療法（その2）：薬理的観点から リエゾン 精神医学における薬物療法（不安状態、抑うつ状態、不眠状態、せん妄状態）や抗がん剤の作用・有害事象、分類	村瀬 智子
5	精神科薬物療法（その3）：看護学的観点から 薬物療法 を受ける患者に対する高度実践看護師のアセスメントと役割	山田 浩雅
6	社会・心理的療法（その1）：精神分析、交流分析	石黒 千映子
7	社会・心理的療法（その2）：実存主義的アプローチ	石黒 千映子
8	社会・心理的療法（その3）：認知行動療法	石黒 千映子
9	社会・心理的療法（その4）：表現療法、イメージ療法	石黒 千映子
10	集団療法	村瀬 智子
11	家族療法	原田 真澄
12	環境療法	村瀬 智子
13	補完・代替療法	村瀬 智子
14	演習：精神科治療において、ライフスパンを幅広く包括する看護介入の重要性について検討する。	村瀬 智子
15	まとめ：治療における高度看護実践の方向性について討論する。 。討論全体の総括：主担当 教育・研究の視点提供：主担当 臨地実践の視点の提供：CNS他	CNS他 担当教員全員

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby

参考図書

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub
『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編] 医学書院
『カウンセリングの理論』 国分康孝 誠信書房
『グループサイコセラピー ヤーロムの集団精神療法の手引き』 Yalom, I. D. & Vinogradov, S. 著 川室 優訳 金剛出版
『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編集 日本看護協会出版会
『専門看護師の思考と実践』 井部俊子、大生定義監修 医学書院

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、プレゼンテーション〔50%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

精神健康行動ケア特論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・服部 希恵・牛山 喜久恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神保健医療を、メンタルヘルス・リエゾンを含めた幅広い視点でとらえ、精神保健医療チームの中で精神看護専門看護師として卓越した高度実践のために必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論、セルフケア、ストレスマネジメント、リエゾン精神看護といった基礎概念や理論をライフスパンの視点を通して理解できる。
2. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論の効果的な適用方法が理解できる。
3. 精神看護専門看護師の精神科看護及びメンタルヘルスにおける役割の方向性や看護の課題、ケアの基準について説明できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス(看護理論と看護モデル)/社会のニーズと精神看護専門看護師の役割と課題	村瀬 智子
2	精神力動理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
3	対人関係論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
4	行動システム理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
5	危機理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
6	セルフケア理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
7	発達理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
8	ストレス・コーピング理論、適応理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
9	レジリエンス理論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
10	ストレングスモデルの理解と看護援助への適用	村瀬 智子
11	家族理論の理解と看護援助への適用	原田 真澄
12	環境看護論の理解と看護援助への適用	村瀬 智子
13	グループダイナミクスの理解と看護援助への適用	村瀬 智子
14	組織における看護師のメンタルヘルス支援	服部・村瀬
15	ターミナル期におけるこころのケア	牛山・村瀬

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版

参考図書

『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編] 医学書院

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub

その他、適宜紹介する。

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

リエゾン精神看護論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子・服部 希恵・館 理江・平野 千晶			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

リエゾン精神看護の役割と機能、理論的枠組み、実践に必要な治療と技法などについて学ぶ。

【到達目標】

1. リエゾン精神看護の役割と機能について理解できる。
2. リエゾン精神看護実践に必要な理論を理解できる。
3. リエゾン精神看護実践に必要な治療と援助技法を理解し、事例を通して患者のアセスメントとケアへの活用方法を検討できる。
4. 精神看護専門看護師としての課題の明確化ができる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	講義ガイダンス リエゾン精神看護とは(歴史、リエゾンCNSの役割)	村瀬 智子
2	精神科病棟以外の入院患者の精神的問題の診断と治療(その1): 不安状態、抑うつ状態にある患者	平野 千晶
3	精神科病棟以外の入院患者の精神的問題の診断と治療(その2): せん妄状態、ターミナル期にある患者	平野 千晶
4	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その1): 不安状態、抑うつ状態にある患者	村瀬 智子
5	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その2): 不眠状態、せん妄状態にある患者	村瀬 智子
6	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その3): ターミナル期、ペインコントロールの問題を抱える患者	原田 真澄
7	リエゾン精神看護実践に必要な援助技法(その4): 災害やPTSDの状態にある患者	原田 真澄
8	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(不安状態、抑うつ状態にある患者・家族)	服部・館
9	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(不眠状態、せん妄状態にある患者・家族)	服部・館
10	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(ターミナル期、ペインコントロールの問題を抱える患者・家族)	服部・館
11	精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケア 事例を通じた理解(災害やPTSDの状態にある患者・家族)	服部・館
12	患者や家族の問題に焦点をあてたコンサルテーション	大島 泰子
13	看護師のメンタルヘルス支援	大島 泰子
14	組織変革者としての精神看護専門看護師	大島 泰子
15	まとめ 精神看護専門看護師の展望	村瀬・原田

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本科目では、精神看護学専門看護師コースとして必要不可欠なリエゾン精神看護の方法論について検討する。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。1回の授業について、1週間適度の予習復習時間が必要である。

教科書

『リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版

参考図書

- 『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing 10th ed.』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby
『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編]
医学書院
『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編集 日本看護協会出版会
『専門看護師の思考と実践』 井部俊子、大生定義監修 医学書院

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

精神科治療と看護演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・平野 千晶			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神科における様々な治療技法を理解した上で、精神看護の専門家として、個人、家族および集団に対し、ライフスパンにおいて対象を捉え、急性期、回復期、維持期といった障がいの回復段階に応じて、卓越した働きかけを行うために必要な知識と支援方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 統合失調症における精神科薬物療法について、障がいの回復段階に応じた治療技法を理解し、ライフスパンにおいて対象を捉え、看護場面において卓越した実践を行うための支援方法を検討することができる。
2. 双極性障害における精神科薬物療法について、障がいの回復段階に応じた治療技法を理解し、ライフスパンにおいて対象を捉え、看護場面において卓越した実践を行うための支援方法を検討することができる。
3. 認知行動療法、集団療法、家族療法の活用を理解し、具体的な支援方法を考察できる。
4. 発達障害の診断・アセスメント・治療について理解し、発達障害をもつ患者（児）への外来支援や地域における家族支援について考察できる。
5. 環境療法、補完・代替療法の活用を理解し、具体的な支援方法を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス、精神障がいの回復段階に沿った高度看護実践	村瀬 智子
2	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（急性期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
3	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（回復期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
4	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（慢性期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
5	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 統合失調症（地域生活への移行期） 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
6	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 双極性障害 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
7	精神科薬物療法を受ける患者へのアプローチ（事例演習） 双極性障害 精神科薬物療法の開始と経過、効果判定（精神状態のアセスメント、作用・有害事象）、精神科薬物療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
8	認知行動療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 認知行動療法の実際 認知行動療法を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
9	認知行動療法 生活技能訓練（SST）を用いた患者へのアプローチ（事例演習） SSTの実際 SSTを受ける患者への看護について検討	村瀬・原田

回数	内容	担当者
10	集団療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 集団療法（グループ）の実際 集団療法（グループ）を受ける患者への看護について検討	村瀬・原田
11	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
12	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
13	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） アルコールミーティングの実際 アルコールミーティングへの参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
14	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
15	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
16	集団療法を用いた患者へのアプローチ（演習） 心理教育の実際 心理教育への参加を通して患者への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
17	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（事例演習） 家族教室の実際 家族教室へ参加する家族への看護について検討	村瀬・原田
18	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
19	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
20	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
21	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
22	家族療法を用いた家族（集団）へのアプローチ（演習） 家族教室の実際 家族教室への参加（2回予定）を通して家族への看護について検討 看護の視点からみた効果を検討	村瀬・原田
23	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害の診断・アセスメント・治療の実際 発達障害をもつ患者（児）の外来支援の実際 親子教室（見学） 発達障害	平野 千晶
24	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害の診断・アセスメント・治療の実際 発達障害をもつ患者（児）の外来支援の実際 親子教室（見学） 発達障害	平野 千晶
25	発達障害をもつ患者（児）へのアプローチ（演習） 発達障害をもつ患者（児）の地域における家族支援、親子支援の実際 発達障害をもつ患者（児）と家族への看護について検討	村瀬・原田

回数	内容	担当者
26	環境管理-ミルーセラピー（環境療法）と急性期相互作用の治療的意義 回復過程と治療的環境、ケアの継続性と人のライフステージ	村瀬 智子
27	補完・代替療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 補完・代替療法の実際（呼吸法、筋弛緩法、アロマセラピー等） 補完・代替療法を受ける患者への看護について検討	村瀬 智子
28	補完・代替療法を用いた患者へのアプローチ（事例演習） 補完・代替療法の実際（呼吸法、筋弛緩法、アロマセラピー等） 補完・代替療法を受ける患者への看護について検討	村瀬 智子
29	まとめ 精神科治療技法からひとつ選択し、臨床経験を踏まえ高度実践看護師の役割や課題についてプレゼンテーションし、討論する。	村瀬・原田
30	まとめ 精神科治療技法からひとつ選択し、臨床経験を踏まえ高度実践看護師の役割や課題についてプレゼンテーションし、討論する。	村瀬・原田

授業方法

講義、発表、討論、演習（見学を含む）

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby

参考図書

『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編] 医学書院
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、課題〔65%〕（プレゼンテーション〔45%〕、レポート〔20%〕）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修
「精神科治療と看護」の事前履修が望ましい。

精神看護援助方法の開発演習	1・2年通年	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子・服部 希恵			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度な看護実践において活用・応用力を養い、効果的な援助方法を開発する。

【到達目標】

1. 「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」のフィールドで実際に生じた、幅広い対象に対する事例に基づき、健康障がいの段階とリスク管理に関連した課題、対人関係に関連した課題、ライフスパンに関連した課題、保健医療施設およびチーム医療に関連した課題からテーマを選択し、文献（概念・理論・研究）とフィールドワーク（経験）により看護援助方法の開発について探究できる。
2. 治療環境としての施設のアセスメントにより把握した実習施設の特徴を踏まえて、治療的な相互作用の分析、入院、外来における患者と家族への直接ケア及び相談、調整、教育、倫理調整に関する事例や課題をテーマとして、高度実践を推進する力を養うことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	演習ガイダンス 施設機能分析と看護機能強化の焦点： フレームワークの提示と説明（地域、施設の特徴と人的資源、連携、機能、施設内文化）	村瀬 智子
2	施設アセスメント演習： 学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、治療的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	大島 泰子
3	施設アセスメント演習： 学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、治療的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	大島 泰子
4	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：健康障がいの段階とリスク管理に関連した課題 精神看護学高度実践実習 - 実習施設：精神科病院：統合失調症、双極性障害、認知症、パーソナリティ障害、摂食障害、薬物・アルコール依存症等の事例から選択し、検討する。 精神看護学高度実践実習 - 実習施設：総合病院：慢性疾患（糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・腎臓系疾患等）を持ち、不安が強く適応障害を引き起こしている事例や、せん妄、ターミナルケアやグリーフケアが必要な事例から選択し、検討する。 精神看護学高度実践実習：上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 精神看護学高度実践実習：上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬・大島
5	精神看護学高度実践実習：上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 精神看護学高度実践実習：上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬・大島

回数	内容	担当者
6	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・大島
7	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・大島
8	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・大島
9	<p>精神看護学高度実践実習 : 上記精神疾患の事例に基づき、急性期・回復期・慢性期の各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <p>精神看護学高度実践実習 : 上記慢性疾患やターミナル期の事例に基づき、各段階に関連した課題と看護援助方法について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬・大島
10	<p>自殺に関連した課題と看護援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・自殺に対するアセスメント ・危機モデルを用いての検討 	村瀬 智子
11	<p>自殺に関連した課題と看護援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・自殺に対するアセスメント ・危機モデルを用いての検討 	村瀬 智子
12	<p>暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス(DV)・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族、いじめ、不登校その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神状態のアセスメント(MSE) ・虐待・DVに関連するアセスメント ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	村瀬 智子

回数	内容	担当者
13	暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）・高齢者虐待・レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族、いじめ、不登校その他 ・精神状態のアセスメント（MSE） ・虐待・DVに関連するアセスメント ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	村瀬 智子
14	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：対人関係に関連した課題 対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
15	対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
16	対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助： バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント ・精神状態のアセスメント（MSE） ・面接技法を用いた援助の実際	服部 希恵
17	学生によるフィールドからの事例と問題提起および検討：ライフスパンに関連した課題 <成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	大島 泰子
18	<成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	大島 泰子
19	<成人・高齢者> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治験事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他） ・精神状態のアセスメント（MSE） ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・ストレンクスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討（プロセスレコードを用いて） ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討	大島 泰子

回数	内容	担当者
20	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
21	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
22	<p>< 児童・思春期 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： (インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不適応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他)の検討 ・セルフケア理論を用いた患者のアセスメント ・レジリエンスを活かした看護援助についての検討 ・対人関係技法についての検討(プロセスレコードを用いて) ・患者及び家族の発達課題と必要な支援についての検討 	原田 真澄
23	<p>学生によるフィールドからの保健医療施設およびチーム医療における問題提起および検討</p> <p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
24	<p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
25	<p>保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護： 感情労働、ハラスメントその他など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設および組織のアセスメントについての検討 ・人権擁護に関連した課題の検討 ・人権擁護に関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
26	<p>多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子
27	<p>多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討 	村瀬 智子

回数	内容	担当者
28	多職種アプローチに関連した課題と看護： 連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他 ・多職種アプローチに関連した課題の検討 ・多職種アプローチに関連した課題に対する看護実践と高度実践看護師の役割についての検討	村瀬 智子
29	社会参加支援プログラムに関連した課題と看護： ケアの継続、ネットワークづくりその他 ・社会参加支援プログラムの現状と課題についての検討 ・社会参加に向けて効果的なケアの継続方法と地域におけるネットワークづくりについて検討	原田 真澄
30	社会参加支援プログラムに関連した課題と看護： ケアの継続、ネットワークづくりその他 ・社会参加支援プログラムの現状と課題についての検討 ・社会参加に向けて効果的なケアの継続方法と地域におけるネットワークづくりについて検討	原田 真澄

授業方法

講義、発表、討論、演習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby

参考図書

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub
『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編] 医学書院
『ICD-10精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン』 融道男他著 医学書院

評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔45%〕、課題〔50%〕（ケースプレゼンテーション〔30%〕、ケースレポート〔20%〕）

フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修
「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」、「精神看護学高度実践実習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護専門看護師（以下CNS）の役割と機能 直接ケア、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究 について、臨床の場でどのように実践しているかを学ぶ。

【到達目標】

1. 精神看護における高度実践者としてのCNSの役割と機能についてシャドウイングを通して理解し、具体的な活動について学ぶ。
2. 実習施設の組織とCNSの位置づけを知り、CNSへのニーズや役割遂行に必要とされる活動について、シャドウイングとディスカッションを通して理解し、役割開発について学ぶ。
3. 精神看護における高度実践者としてのCNSの役割と機能について、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせて、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>専門看護師の役割機能の実習 総合病院もしくは精神科病院において、CNSの6つの役割と機能についてシャドウイングを通して理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直接ケア：精神看護における高度実践者としてのCNSの卓越した直接ケアについてシャドウイングを通して学ぶ。 2. コンサルテーション：看護師を含むケア提供者へCNSが行うコンサルテーションについてシャドウイングを通して学ぶ。 3. コーディネーション：組織におけるCNSの位置づけと役割を理解し、保健医療福祉関連スタッフおよび関係機関との間で、必要性に応じて行われるコーディネーションについてシャドウイングを通して学ぶ。 4. 倫理調整：個人、家族、集団の権利擁護にかかわる倫理的問題や葛藤の解決に関する調整活動についてシャドウイングを通して学ぶ。 5. 教育：ケアの質の向上に必要と考えられるCNSが行う教育についてシャドウイングを通して学ぶ。 6. 研究：実習施設においてCNSが行う研究や研究支援についてシャドウイングを通して学ぶ。 <p>実習場所：名古屋第一赤十字病院 共和病院</p> <p>実習時期： セメスター（1年次後期）に実施する。</p>	村瀬・原田・大島

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要であるそのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり編集、野末聖香編集 日本看護協会出版会
『リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版

参考図書

『高度実践看護 統合的アプローチ 第5版』 A.B.Hamric. AL./中村美鈴他訳 へるす出版 2017

評価方法

1. 評価表 : 40% ;
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 施設アセスメント評価 : 20%
3. 課題レポート評価 : 20%
4. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修
「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年通年	2単位 (90時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神疾患や精神的健康課題を持つ対象へのcareとcureを融合させた高度な看護実践へ適用する視点を培うために、精神科診断及び治療技術の実際について学ぶ。

【到達目標】

1. 精神科診断及び治療技術（薬物療法、認知行動療法、補完・代替療法、精神療法的面接法（個人・集団）、集団療法、家族療法、心理教育等）について、精神保健指定医や臨床心理士等の説明及び実際の場面から理解する。
2. 精神科診断及び治療技術を用いて精神疾患や精神的健康課題を持つ対象へのcareとcureを融合させた高度な看護実践へ適用する視点を培うことができる。
3. 精神看護における高度実践者としての精神科診断及び治療技術について、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせ、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>医療施設等における精神科診断・治療実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健指定医の説明と診察への見学を通して、精神科診断・治療技術（薬物療法・精神療法等）について学ぶ。 2. 精神保健指定医・臨床心理士等の説明と療法への見学を通して、精神科治療技術（認知行動療法、補完・代替療法、精神療法的面接法（個人・集団）、集団療法、家族療法等）について学ぶ。 3. 精神保健指定医・臨床心理士等の説明と見学を通して症状管理・症状マネジメント（患者、家族に対する心理教育）について学ぶ。 4. 医師・臨床心理士等の説明と緩和ケアチームの見学を通して、リエゾン精神医学の観点から診断・治療技術を学ぶ（指導担当の精神保健指定医が一般病院へ出向する際に同行）。 5. 上記1・2・3・4により、精神科診断・治療技術を理解し、看護実践へ適用する視点について学ぶ。 <p>実習場所：刈谷病院 刈谷豊田総合病院（指導担当の精神保健指定医が出向する際に同行）</p> <p>実習時期： セメスター（1年次後期～2年次前期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田・大島

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

なし

参考図書

- 『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association [編]
医学書院
- 『ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン』 融 道男他監訳 医学書院
- 『カプラン 臨床精神医学テキスト』第3版 ベンジャミンJ.サドック他 メディカルサイエンスインターナショナル
- 『標準精神医学』 第7版(最新版) 尾崎 紀夫著 医学書院
- 『精神・心理症状学ハンドブック』 第3版 北村俊則著 日本評論社
- 『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編集 日本看護協会出版会
- 『リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版
- 『高度実践看護 統合的アプローチ 第5版』 A.B.Hamric, AL./中村美鈴他訳 へるす出版 2017

評価方法

1. 評価表 : 40%
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 課題レポート評価 : 40%
3. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年通年	6単位 (270時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護分野において、精神科病院における精神疾患をもつ対象への複雑で高度な看護実践について、実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 精神看護分野において、精神科病院におけるケア困難な精神疾患を持つ対象（患者・家族）への直接ケアに必要な援助技術について理解できる。
2. 精神看護分野の直接ケアを、精神看護専門看護師（以下CNS）と担当教員のSupervisionを受けながら、看護面接を用いて実践できる。
3. 精神看護分野において実践した直接ケアを、学内の精神看護援助方法の開発演習の活動と組み合わせて総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>医療施設等における直接ケア実習 精神看護分野において直接ケアを計画し、看護実践を行う。</p> <p>1. 精神科病院へ入院あるいは外来通院しているケア困難な精神疾患を持つ対象（統合失調症、双極性障害、認知症、パーソナリティ障害、摂食障害、薬物・アルコール依存症等）に対して、精神医学的診断・治療技術及び精神状態のアセスメントを理解し、セルフケア理論、精神力動理論などを活用して患者、家族、医療チームの状況をアセスメントし、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら直接ケアを実践する。</p> <p>2. 直接ケアにおいて、セルフケア支援に必要とされる看護面接を、精神療法やカウンセリングなど対象に合わせた治療技術を用いて、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら実践する。</p> <p>実習病院：共和病院 実習時期： セメスター（1年次後期～2年次後期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田・大島

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり編集、野末聖香編集 日本看護協会出版会

参考図書

『高度実践看護 統合的アプローチ 第5版』 A.B.Hamric. AL./中村美鈴他訳 へるす出版 2017

評価方法

1. 評価表 : 40%
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. ケーススタディ評価 : 10%
3. プロセスレコード評価 : 10%
4. 課題レポート評価 : 20%
5. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修

「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習	1・2年通年	6単位 (270時間)	選択必修
担当: 村瀬 智子・原田 真澄・大島 泰子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

リエゾン精神看護分野において、総合病院における精神的健康課題を持つ対象（患者・家族・看護師）への複雑で高度な精神看護実践について、直接ケア、コンサルテーション及び看護チーム・多職種チーム内外へのコーディネーションを通して学ぶ。

【到達目標】

1. リエゾン精神看護において、総合病院におけるケア困難な精神的健康課題を持つ対象（患者・家族・看護師）への直接ケア、コンサルテーション及び看護チーム・多職種チーム内外へのコーディネーションを理解できる。
2. リエゾン精神看護分野の直接ケアを、精神看護専門看護師（以下CNS）と担当教員のSupervisionを受けながら、看護面接を用いて実践できる。
3. リエゾン精神看護分野のコンサルテーション及びコーディネーションを、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、実践できる。
4. リエゾン精神看護分野において実践した直接ケア、コンサルテーション及びコーディネーションを、学内の精神看護援助方法の開発演習の内容と組み合わせて、総合的に学ぶことができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
	<p>専攻分野専門科目（リエゾン精神看護）領域における直接ケア実習 3単位分相当 リエゾン精神看護分野における直接ケアを計画し、高度な看護実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合病院へ入院あるいは外来通院しており、慢性疾患（糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・腎臓系疾患等）を持ち、不安が強く適応障害を引き起こしている患者や、せん妄、ターミナルケアやグリーフケアが必要な患者に対して、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら直接ケアを実践する。その際、担当ケースのアセスメントとともに組織分析を行う。 2. 直接ケアにおいて、セルフケア支援に必要とされる看護面接を、精神療法やカウンセリングなど対象に合わせた治療技術を用いて、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら実践する。 3. 不安や緊張が強い患者に対して、CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、ニーズに合ったリラクゼーション技法及びアサーショントレーニング、認知行動療法などの治療技術を選択し、実践する。 <p>コンサルテーション・コーディネーション実習 1単位分相当 リエゾン精神看護分野におけるコンサルテーション及びコーディネーションを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、直接ケアの担当ケースに関するコンサルテーションを行う。 2. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、直接ケアの担当ケースに関する組織横断的な実践活動や、多職種カンファレンスへの参加等を通して、看護チーム・多職種チーム内外への連携の促進を図る等のコーディネーションを行う。その際、担当ケースのアセスメントとともに組織分析を行う。 3. CNSと担当教員のSupervisionを受けながら、メンタルヘルス支援としての看護師のコンサルテーションや、医療スタッフ間で起こる葛藤の調整などを、必要に応じて実践する。 <p>実習病院：名古屋第一赤十字病院 実習時期：セメスター（1年次後期～2年次後期）にかけて実施する。</p>	村瀬・原田・大島

授業方法

実習

時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、実習におけるプレゼンテーションの準備やカンファレンスに積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、実習終了後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

教科書

『リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版
『プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと』 エドガー・H・シャイン著、
稲葉元吉他訳 白桃書房

参考図書

『高度実践看護 統合的アプローチ 第5版』 A.B.Hamric, AL./中村美鈴他訳 へるす出版 2017

評価方法

1. 評価表 : 40%
実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. ケーススタディ評価 : 10%
3. プロセスレコード評価 : 10%
4. 課題レポート評価 : 20%
5. 学内発表や討論への参加 : 20%

フィードバック

実習は、学生によるプレゼンテーション及び演習と実習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学習内容についてフィードバックを行う。

その他

専門看護師コース必修
「精神看護援助方法の開発演習」の同時履修が望ましい。

地域看護学特論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三・小林 尚司・大西 文子・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活するすべての人々の健康増進、あるいは健康課題に焦点をあて、看護支援方法について探求する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の健康課題について説明することができる。
2. 地域で生活する人々の健康課題の背景について説明することができる。
3. 地域で生活する人々の健康課題への支援方法をPDCAサイクルにそって考察し記述することができる。
4. 地域で生活する人々の健康課題への支援における看護の機能・役割について考察し記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域で生活する人々の健康課題（ライフサイクル別にみた概要）	長谷川 喜代美
2	地域の健康課題に対応する看護の機能・役割	長谷川・大谷
3	行政サービスとして機能する看護	長谷川・大谷
4	地域の環境と健康	森田 一三
5	地域における健康づくり活動	森田 一三
6	地域で生活する子ども（児童生徒）の健康課題と支援（学校保健活動）	森田 一三
7	地域で生活する医療的ケアを必要とする子どもと家族の健康課題	大西 文子
8	地域で生活する医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援	大西 文子
9	就労する人々の健康課題（産業ストレスとワークライフバランス）	大谷 喜美江
10	就労する人々への支援（労働衛生管理と健康管理）	大谷 喜美江
11	地域で生活する高齢者の健康課題（予防的視点から）	小林 尚司
12	地域で生活する高齢者への支援	小林 尚司
13	地域で生活する人々の感染症予防に関する課題	長谷川 喜代美
14	地域で生活する人々の感染症対策における看護支援	長谷川 喜代美
15	まとめ	長谷川・大谷

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。（各1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30%）、参加状況（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。
課題レポートに教員のコメントを記載して学生に返却する。

その他

なし

コミュニティアセスメント論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域看護活動の基盤となるコミュニティアセスメントの意義を理解し、地域看護活動の効果的な展開方法を探索する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の日常生活を把握する視点および把握方法を説明することができる。
2. 既存の保健統計からコミュニティの特性（現状）を把握する方法を説明することができる。
3. コミュニティの健康課題を明確にする方法を説明することができる。
4. コミュニティの健康課題への対応方法（地域保健活動計画等の立案方法など）を説明することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	コミュニティアセスメントの意義	長谷川 喜代美
2	コミュニティアセスメントの視点（個人の把握・地域の把握）	長谷川・大谷
3	コミュニティアセスメントのプロセス・方法	長谷川・大谷
4	コミュニティアセスメントに必要なデータ収集と分析	森田 一三
5	コミュニティアセスメントの理論・モデル	長谷川・大谷
6	コミュニティの健康指標の活用方法	森田 一三
7	コミュニティの健康指標を用いた分析の実際 : 自治体	長谷川・大谷
8	コミュニティの健康指標を用いた分析の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川・大谷
9	コミュニティにおける生活状況、保健行動の把握の分析の実際 : 自治体	長谷川・大谷
10	コミュニティにおける生活状況、保健行動の把握の分析の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川・大谷
11	コミュニティの健康課題の明確化の実際 : 自治体	長谷川・大谷
12	コミュニティの健康課題の明確化の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川・大谷
13	コミュニティの健康課題への対応方法（活動計画）検討の実際 : 自治体	長谷川・大谷
14	コミュニティの健康課題への対応方法（活動計画）検討の実際 : 産業保健・学校保健	長谷川・大谷
15	まとめ	長谷川・大谷

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。（各1週間程度）

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（50%）、参加状況（30%）、課題レポート（20%）で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他
なし

地域共生ケアシステム論	1年後期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活する人々の健康課題を理解し、人々の生活の質を向上させるために必要な支援およびそれらの支援を有効に機能させる地域ケアシステムについて考察する。

【到達目標】

1. 地域で生活する人々の健康状態を説明することができる。
2. 地域で生活する人々の健康と生活の関連を分析し、健康課題を説明することができる。
3. 地域で生活する人々の健康課題の解決に必要な地域ケアシステムの構築手順を説明することができる。
4. 地域で生活する人々の生活の質向上に向けて現代社会の課題に対応する地域ケアシステムの構築のあり方を考察することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	地域で生活する人々の健康状態 : 母子	長谷川・大谷
2	地域で生活する人々の生活状況 : 母子	長谷川・大谷
3	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 母子	長谷川・大谷
4	地域で生活する人々の健康状態 : 成人	長谷川・大谷
5	地域で生活する人々の生活状況 : 成人	長谷川・大谷
6	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 成人	長谷川・大谷
7	地域で生活する人々の健康状態 : 高齢者	長谷川・大谷
8	地域で生活する人々の生活状況 : 高齢者	長谷川・大谷
9	地域で生活する人々の健康課題と支援 : 高齢者	長谷川・大谷
10	健康をまもるための地域づくり	長谷川・大谷
11	地域ケアシステムとは何か	長谷川・大谷
12	地域ケアシステム構築のプロセス	長谷川・大谷
13	地域ケアシステム構築の実際 : 母子	長谷川・大谷
14	地域ケアシステム構築の実際 : 成人・高齢者	長谷川・大谷
15	まとめ	長谷川・大谷

授業方法

講義、発表、討論

時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備をする。(各1週間程度)

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション(50%)、参加状況(30%)、課題レポート(20%)で評価する。

フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

地域看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 長谷川 喜代美・森田 一三・大谷 喜美江			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域看護に関する現象について理解を深め、地域看護に関する課題及び課題への対応方法を追究する能力を養う。

【到達目標】

1. 地域看護に関する現象の追究に活用可能な看護で用いられるコンセプト(概念)を説明することができる。
2. 学生が関心を持っている地域看護に関する課題を設定し、課題の背景を論理的に説明することができる。
3. 学生が設定した地域看護に関する課題について、文献検討並びに関係者へのインタビュー等により、課題の実態、対応方法の現状、及び看護職者に期待される役割を分析し記述することができる。
4. 上記3の分析をふまえ、研究により追究すべき課題を検討し論理的に記述することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス、地域看護の特徴・意義	長谷川・大谷
2	コンセプト(概念)分析の方法	長谷川・大谷
3	コンセプト(概念)分析の方法	長谷川・大谷
4	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
5	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
6	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
7	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
8	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
9	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
10	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
11	地域看護に関する概念の分析(発表・討議)	長谷川・森田・大谷
12	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田・大谷
13	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田・大谷
14	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田・大谷
15	地域看護に関する課題の探求: 主要課題の実態と対応方法、課題設定	長谷川・森田・大谷
16	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷
17	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷
18	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷
19	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷
20	地域看護に関する課題の分析: 文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷

回数	内容	担当者
21	地域看護に関する課題の分析：文献検討、インタビュー等	長谷川・森田・大谷
22	地域看護に関する課題の分析：課題の整理・構造化	長谷川・森田・大谷
23	地域看護に関する課題の分析：課題の整理・構造化	長谷川・森田・大谷
24	地域看護に関する課題の分析：文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田・大谷
25	地域看護に関する課題の分析：文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田・大谷
26	地域看護に関する課題の分析：文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田・大谷
27	地域看護に関する課題の分析：文献検討・インタビューの追加	長谷川・森田・大谷
28	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田・大谷
29	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田・大谷
30	地域看護に関する課題の明確化、研究課題の検討	長谷川・森田・大谷

授業方法

第1～3回 講義、第4～30回 演習（文献講読、発表、討議など）

時間外学習

授業前には、学習内容に関する文献等を熟読・理解し、参加準備・プレゼンテーションの準備をする。授業後は、授業内容を振り返り理解を深めて今後の学習課題を設定する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

随時紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（40%）、参加状況（30%）、課題レポート（30%）で評価する。

フィードバック

演習の中でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学特論	1年前期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

自然、人為、複合的な災害因により発生する災害の現象をサイクルという継続的な視点でとらえ、災害が人間や人々を取りまく社会に及ぼす影響を学ぶ。そのうえで防災体制、災害医療や看護を概観し、災害サイクルにおける医療・看護の役割・課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害因による予測される人々やその生活、社会への影響を説明できる
2. 防災・減災体制を説明できる
3. 災害サイクルにおける医療・看護活動の課題と倫理について説明できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 災害と災害発生状況・被害の変化,	小林 洋子
2	自然災害と社会・人々への影響	小林 洋子
3	人為災害と社会・人々への影響	小林 洋子
4	特殊災害と社会・人々への影響	花木 芳洋
5	防災・減災の歴史, 防災・減災体制	花木 芳洋
6	災害救援の歴史, 災害救援体制	花木 芳洋
7	災害看護の歴史, 災害看護学の発展	小林 洋子
8	災害サイクルに沿った救援活動・看護活動の課題と倫理	小林 洋子

授業方法

- ・第1回～第7回：講義 第8回：発表・討論

時間外学習

- ・授業参加の準備, プレゼンテーションの準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

- ・(検討中)

参考図書

- ・『原発災害とアカデミズム 福島大・東大からの問いかけと行動』福島大学原発災害支援フォーラム(2013) 合同出版〔543.5/F84〕
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕
- ・『東日本大震災 石巻災害医療の全記録』石井正(2012) 講談社〔498.89/I75〕
- ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012)日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
- ・『災害社会学入門』大矢根淳編(2007) 弘文堂〔369.3/Sa17/1〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema, TG(2018) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/4th〕
- ・『大災害と法』津久井進(2012) 岩波新書〔080/I95/1375〕
- ・『未曾有と想定外 講談社現代新書2117』畑村洋太郎(2011) 講談社現代新書〔369.31/H41〕
- ・『新版世界と日本の赤十字』柘居孝 森正尚(2014)東信堂

評価方法

レポート(60%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害と法律・制度	1年前期	2単位 (30時間)	選択
担当: 小林 洋子・山崎 栄一			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

国内外の災害に関する法律や制度を学び、災害看護活動における法律や制度の活用と課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害に関する法律，制度を理解する。
2. 災害看護に関連する法律，制度について災害看護の実践場面における活用を考えられる。
3. 災害看護に関連する法律や制度の視点から現在の災害対策の課題を考察できる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：災害に関する法律と制度	小林・山崎
2	赤十字の災害救援と法律・制度上の課題	小林 洋子
3	法体系と制度，法の制定過程	山崎 栄一
4	防災・減災に関する法律と制度	山崎 栄一
5	防災・減災に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
6	災害発生時に関する法律と制度	山崎 栄一
7	災害発生時に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
8	被災者支援に関する法律と制度	山崎 栄一
9	被災者支援に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
10	災害復興に関する法律と制度	山崎 栄一
11	災害復興に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
12	大規模災害に関する法律と制度、課題	山崎 栄一
13	世界の防災	山崎 栄一
14	救援活動における行動規範	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

授業方法

- ・第1回～第14回：講義、第15回：発表・討議

時間外学習

- ・授業参加の準備，プレゼンテーションの準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

- ・『最新 防災・復興法制』佐々木昌二(2017年)第一法規

参考図書

- ・『災害復興法学』岡本正(2014年・2018年)慶応大学出版会
- ・『防災法』生田長人(2013年)信山社
- ・『自然災害と被災者支援』山崎栄一(2013)日本評論社〔369.3/Y48〕
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010)明石書店〔369.3/H48〕
- ・『大災害と法』津久井進(2012)岩波新書〔08/195/1375〕
- ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012)日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
- ・『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010)南山堂〔N105.51/027〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2018)Springer Publishing Company〔N105.51/V53/4th〕

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他
なし

災害看護学対象論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・村瀬 智子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域に生活する人々、災害により心身や生活に影響を受けた人々、および災害救援に関わる人々を個として集団としてとらえ、看護の対象として理解する上で必要な諸理論を学ぶ。また、文献を通して被災者の立場、救援者の立場から、それぞれを理解する。

【到達目標】

1. 災害看護の対象に関連する諸理論を理解できる
2. 災害から影響を受ける人々、特に要配慮者を理解できる
3. 被災者の生活環境の特徴と、その特徴がおよぼす被災者の健康問題を理解できる
4. 災害救援活動による災害救援者、支援者への影響を理解できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス, 災害看護の対象	小林 洋子
2	地域住民, 災害の認識と対応	藤井 愛海
3	災害時要配慮者・災害時避難行動要支援者, 災害の認識と対応	小林 洋子
4	災害看護の対象理解と理論(1)-1 危機理論	藤井 愛海
5	災害被災者と健康(2)-1 居住環境	小林 洋子
6	災害被災者と健康(2)-2 文化背景	小林 洋子
7	災害被災者と健康(2)-3 食生活	小林 洋子
8	災害看護の対象理解と理論(1)-2 ストレス理論	村瀬 智子
9	災害被災者と健康(1)-3 災害の衝撃, 喪失(グリーフを含む)	村瀬 智子
10	災害被災者と健康 まとめ	小林・長尾・藤井
11	災害と災害救援者, 支援者, 災害の認識と対応	長尾 佳世子
12	災害看護の対象理解と理論(3) 役割理論	小林 洋子
13	災害救援者の役割認識と活動環境	長尾 佳世子
14	支援者の役割認識と活動環境	長尾 佳世子
15	災害救援者, 支援者の役割認識 まとめ	小林・長尾・藤井

授業方法

- ・第1回～9回：講義 第10回：発表・討議 第11回～14回：講義 第15回：発表・討議

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

- ・(検討中)

参考図書

- ・『災害の襲うとき』ラファエロ,B(1995) みすず書房〔369.3/R17〕
- ・『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010) 南山堂〔N105.51/027〕
- ・『3・11福島から東京へ 広域避難者たちと歩む』東京災害支援ネット編(2013) 山吹書店〔369.36/To46〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2018) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/4th〕
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕
- ・『アンダーグラウンド』村上春樹(1997) 講談社〔916/Mu43〕
- ・『子どもの悲しみとトラウマ』BRISモニカ・ホルム/谷沢英夫訳(2014) 新評論
- ・『被災弱者』岡田広行(2015) 岩波新書
- ・『災害ストレス』保坂隆(2011) 角川書店
- ・『心のケア 阪神・淡路大震災から東北へ』加藤寛 最相葉月(2011) 講談社現代新書

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学援助論	1年前期	2単位 (30時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・下間 正隆・花木 芳洋			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害発生から復興の時期に、援助環境を理解するとともに、多職種や関連機関との効果的な援助活動に向けた連携のあり方、および対象や状況をアセスメントし生活の視点から必要な看護援助を考察する。また、看護援助の提供にあたり、赤十字の原則や対象の自立の視点から提供方法を探求する。

【到達目標】

1. 災害時における医療・看護の基本的対応を理解できる
2. 救護所、避難所、病院における救護体制の設営・運営を理解できる
3. 災害時、救援に関わる他専門職、関連機関との連携方法を考察できる
4. 災害発生から復興期における対象を理解した看護実践を理解できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	災害急性期から復興期の看護活動 災害看護における組織論, 体系的対応(CSCATTT)	長尾 佳世子
2	災害救援に関わる他専門職, 関連機関との連携	長尾 佳世子
3	災害看護におけるトリアージ, 要援護者トリアージ	花木 芳洋
4	災害時のトリアージにおける課題	花木 芳洋
5	災害看護におけるこころのケアと課題	長尾 佳世子
6	災害看護におけるセルフケア理論, 災害被災者ニーズアセスメント	小林 洋子
7	災害時のニーズアセスメント, 支援における課題	小林 洋子
8	被災病院における救護体制設置と看護活動	長尾 佳世子
9	被災病院における救護体制設置と外部支援者との協力	長尾 佳世子
10	救護所・避難所の設営・運営と在宅避難者への看護活動	小林・長尾
11	救護所・避難所の設営・運営, 在宅避難者への看護活動上の課題	小林・長尾
12	災害時の感染症, 感染防止対策	下間 正隆
13	災害時の感染防止対策における課題	長尾 佳世子
14	特殊災害と看護(1)原子力災害の影響	小林 洋子
15	特殊災害と看護(2)原子力災害による影響軽減への対応と課題	小林 洋子

授業方法

第1回～5回：講義 第6回：発表・討議 第7回～8回：講義 第9回：発表・討議
第10回～15回：講義

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

- ・指定しない

参考図書

- ・『東日本大震災とこころのケア』浅野弘毅(2011) 批評社〔369.31/Se19/64〕
 - ・『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』大災害と国際協力研究会(2013) 佐伯印刷〔369.3/D14〕
 - ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕
 - ・『事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア』黒田裕子(2012) 日本看護協会出版会〔N10.51/Ku72〕
 - ・『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010) 南山堂〔N105.51/027〕
 - ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
 - ・『災害時の健康支援 行動科学からのアプローチ』災害行動科学研究会(2012) 誠信書房〔498.89/Sa17〕
 - ・『緊急対応ハンドブック 日本語版』UNHCR(2000) 日本国連HCR協会〔369.38/Ko49/2nd〕
- https://www.unhcr.org/jp/handbook
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2018) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/4th〕
 - ・『Sphere Project 人道憲章と人道対応に関する最低基準』Sphere Project編,難民支援協会訳(2011)難民支援協会〔R0.11/Sp4/'11〕
- https://www.refugee.or.jp/sphere/The_Sphere_Project_Handbook_2011_J.pdf
- ・『避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針』内閣府(2013)
- http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/h25/kankyokakuho.html
- ・『自然災害時における人々の保護に関するIASC活動ガイドライン』LSE国内強制移動プロジェクト(2011)
 - ・『災害・紛争等緊急時における精神保健・心理社会的支援に関するIASCガイドライン』
- https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/iasc.html
- ・『ICN Framework of Disaster Nursing Competencies』WHO ICN(2009)
- https://www.wpro.who.int/hrh/documents/icn_framework.pdf

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学援助論	1年後期	1単位 (15時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害静穏期に病院，行政，地域，救護組織における防災・減災体制および災害に備えた教育活動を学び，災害静穏期における看護援助方法，および看護師の役割を探求する．

【到達目標】

- 1．静穏期の病院，行政，地域における防災・減災計画，救援体制を説明できる
- 2．静穏期における災害救援関連機関との連携を説明できる
- 3．静穏期の災害に備えた防災・減災教育活動を説明できる
- 4．静穏期の防災・減災活動における看護職の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス：災害静穏期の看護活動	小林 洋子
2	災害看護における学習理論，経験学習理論	小林 洋子
3	防災・減災教育と課題(1)：地域住民	藤井 愛海
4	防災・減災教育と課題(2)：専門職	長尾 佳世子
5	地域住民との連携，救援組織との連携と課題	藤井 愛海
6	非常持ち出し・非常食の備蓄，資機材の点検整備と課題	長尾 佳世子
7	災害救護訓練(救護所開設)の観察	長尾 佳世子
8	まとめ，災害静穏期における看護師の役割	小林・長尾・藤井

授業方法

第1回～2回：講義 第3回～4回：発表・討議 第5回～6回：講義 第7回：見学
第8回：討議

時間外学習

- ・授業参加の準備を行う(適宜)。
- ・講義ごとに予習・復習をする(適宜)。

教科書

- ・指定しない

参考図書

- ・『平成24年版 看護白書 災害時における看護の力・組織の力』日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会〔N5.9/N77/12〕
- ・『演習で学ぶ災害看護』小原真理子監(2010) 南山堂〔N105.51/027〕
- ・『Disaster Nursing and Emergency Preparedness Third Edition』Veenema,TG(2013) Springer Publishing Company〔N105.51/V53/4th〕
- ・『自然災害と復興支援』林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕

評価方法

レポート(70%)、プレゼンテーション(20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

- ・学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

その他

なし

災害看護学演習	1年後期	2単位 (60時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害看護学に関する研究文献の検討を通して災害看護学の研究にかかわる概念や理論への理解を深め、災害看護実践における災害看護学研究の課題を考察する。明らかにされた災害看護学研究の課題についてフィールドワークを通して明確にするとともに探求方法を考察する。

【到達目標】

1. 災害看護学に関する文献を系統的に検索できる
2. 文献をクリティークし、要約を記述できる
3. 災害看護学の課題を探求する研究方法が理解できる
4. フィールドワークを通して課題の探求方法を理解できる
5. 課題を探求する研究計画書が理解できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 災害看護学研究の動向	小林・長尾・藤井
2	文献検索方法	小林・長尾・藤井
3	文献クリティークの方法 : 対象文献の理解	小林・長尾・藤井
4	文献クリティークの方法 : 研究過程との比較	小林・長尾・藤井
5	文献クリティークの方法 : 研究の要素と研究の論理性	小林・長尾・藤井
6	文献クリティークの方法 : 先行研究と研究段階の評価	小林・長尾・藤井
7	文献クリティークの方法 : 倫理的配慮	小林・長尾・藤井
8	文献クリティークの方法 : 文献クリティーク結果の記載	小林・長尾・藤井
9	文献検索: 演習	小林・長尾・藤井
10	文献クリティーク: 演習	小林・長尾・藤井
11	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
12	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
13	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
14	文献クリティーク: 発表・討議	小林・長尾・藤井
15	研究計画の立案	小林・長尾・藤井
16	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
17	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
18	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
19	災害看護学における研究方法	小林・長尾・藤井
20	研究課題, 研究目的	小林・長尾・藤井

回数	内容	担当者
21	フィールドワークガイダンス	小林・長尾・藤井
22	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
23	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
24	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
25	フィールドワーク	小林・長尾・藤井
26	フィールドワークのまとめ：演習	小林・長尾・藤井
27	フィールドワークのまとめ・討議	小林・長尾・藤井
28	研究計画の検討：研究デザイン	小林・長尾・藤井
29	研究計画の検討：概念と概念枠組み	小林・長尾・藤井
30	研究計画の検討：研究方法と倫理的配慮	小林・長尾・藤井

授業方法

第1, 2, 15, 21回：講義．第3～14回，第16～20回，第26～30回：発表・討議．第22～25回：フィールドワーク

時間外学習

災害看護に関する関心のテーマについて検索し、関連文献を読む(適宜)
プレゼンテーションおよび討議への参加の準備を行う(適宜)

教科書

特に使用しない

参考図書

授業中に適宜提示する

評価方法

課題レポート(40%)，プレゼンテーション(30%)，討議への参加(30%)

フィードバック

プレゼンテーションの際にその場でフィードバックする

その他

なし

災害看護学実習	1・2年通年	1単位 (45時間)	選択必修
担当: 小林 洋子・長尾 佳世子・藤井 愛海			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期、復興期において、病院、行政、地域、救護組織の防災・減災体制および災害に備えた看護活動、看護援助方法の参加観察を通して、防災・減災体制や災害に備えた看護活動を考察する。

【到達目標】

1. 静穏期、復興期における病院、行政、地域、救護組織の防災・減災計画、救援体制が説明できる
2. 静穏期、復興期における災害に備えた看護活動が説明できる
3. 防災・減災教育、救護訓練から静穏期・復興期および災害発生直後の関連機関との連携を説明できる
4. 静穏期、復興期、および災害が発生した際の看護職の役割を考察できる

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設における防災・減災計画、体制、看護活動について説明を受ける 2. 実習施設における防災・減災計画に基づく、備えを見学する 3. 日常の業務と災害への備えの関連、および職員の協働体制に参加観察する 4. 防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加する 5. 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する 	小林・長尾・藤井

授業方法

1. 実習施設：履修学生が、実習目的・目標に基づき実習施設を選択する
2. 実習の進め方
 - 1) 履修学生は自己の実習目的・目標に基づき実習施設を選定する
 - 2) 1)について、教員の助言を得て実習施設を決定する
 - 3) 実習目的・目標に基づき実習指導者と打ち合わせを行い、実習する
 - 4) 実習中、実習目標の達成を評価し、実習指導者と討議しながら実習をすすめる
 - 5) 実習終了時、実習目標の達成を評価し、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方に関する課題を明らかにする

時間外学習

既習学習および、自己の実習目標にそって参考資料・文献を用いて実習参加の準備を行う。また、実習終了後は、実習中に生じた疑問を探索し、次の実習時に実習の指導者や教員と討議し深めるための準備を行う(適宜)。

教科書

なし

参考図書

適宜紹介する

評価方法

レポート(70%)、実習記録 (20%)、受講態度(10%)を合計して評価する。

フィードバック

学生の実習記録、およびカンファレンスの場でフィードバックする。

その他

なし

課題研究	1・2年通年	2単位 (60時間)	選択
担当: 松浦 正子・野口 眞弓・大西 文子・村瀬 智子・原田 真澄・長田 知恵子・岡田 摩理・南谷 志野			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門領域に関する看護実践上の課題を探求し、研究計画の立案と実施および論文をまとめる過程を通じて基礎的な研究能力を修得する。

【到達目標】

1. 専門領域に関する看護実践上の課題について、文献検討や講義・演習・実習における学修から明らかにすることができる。
2. 専門領域に関する看護実践上の課題を探求するための適切な研究計画を立案することができる。
3. 妥当な方法でデータの収集と分析をすることができる。
4. 研究成果を論文にまとめることができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1～7回	看護実践上の課題の明確化 研究テーマの検討 研究目的の検討	担当教員全員
8～15回	研究計画の立案 研究方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書の作成 研究計画の発表 研究計画書審査の受審 研究倫理審査の受審	
16～30回	データ収集・分析・課題研究論文の作成 課題研究論文審査の受審 課題研究論文の発表	

授業方法

主指導教員と副指導教員がゼミ形式で研究指導を行う。

時間外学習

関連科目の学修成果を基にして、研究指導内容を踏まえて主体的・自律的に研究を進める。(適宜)

教科書

指導教員から随時指定する。

参考図書

指導教員から随時指定する。

評価方法

課題研究論文審査基準を参考に、総合的に評価する。

フィードバック

研究計画書審査結果・研究倫理審査結果・論文審査結果をフィードバックする。

その他

専門看護師コース必修
認定看護管理者コース必修

特別研究	1・2年通年	8単位 (240時間)	選択
担当: 鎌倉 やよい・松浦 正子・山田 聡子・東野 督子・石黒 千映子・野口 眞弓・大西 文子 ・村瀬 智子・原田 真澄・長谷川 喜代美・小林 尚司・森田 一三・大谷 喜美江・小林 洋子・ 中島 佳緒里・長田 知恵子・岡田 摩理・南谷 志野・今福 恵子			

授業目的及び到達目標

【授業目的】

文献検討やフィールドワークを通して各自の疑問から看護学及び看護実践に貢献する専門領域の研究課題を探究し、研究計画の立案と実施および論文をまとめる過程を通じて基礎的な研究能力を修得する。

【到達目標】

1. 各自の疑問から看護学及び看護実践に貢献する専門領域の研究課題を明らかにすることができる。
2. 適切な研究計画を立案することができる。
3. 妥当な方法でデータの収集と分析をすることができる。
4. 修士論文を作成することができる。

授業内容及び計画

回数	内容	担当者
1～30回	研究課題の明確化 研究テーマの検討 研究目的の検討	担当教員全員
31～60回	研究計画の立案 研究デザインの検討 研究方法の検討 倫理的配慮の検討 研究計画書の作成 研究計画の発表 研究計画書審査の受審 研究倫理審査の受審	
61～90回	データ収集・分析	
91～120回	データ分析・修士論文の作成 修士論文審査の受審 修士論文の発表	

授業方法

主指導教員と副指導教員がゼミ形式で研究指導を行う。

時間外学習

関連科目の学修成果を基にして、研究指導内容を踏まえて主体的・自律的に研究を進める。(適宜)

教科書

指導教員から随時指定する。

参考図書

指導教員から随時指定する。

評価方法

修士論文審査基準を参考に、総合的に評価する。

フィードバック

研究計画書審査結果・研究倫理審査結果・論文審査結果をフィードバックする。

その他

研究・教育者コース必修